

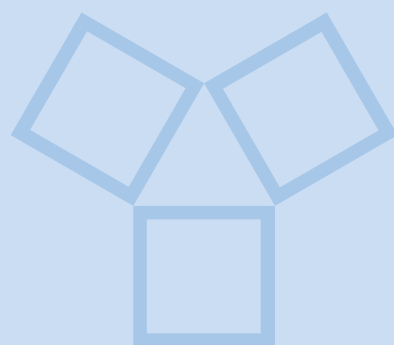
2018

平成30年度

横浜美術館年報

Yokohama Museum of Art Annual Report

April 2018 – March 2019



YOKOHAMA MUSEUM OF ART

2018

平成30年度

横浜美術館年報

Yokohama Museum of Art Annual Report

April 2018 – March 2019

目次

基本方針・沿革	5
展覧会事業	
概要	7
企画展1 ヌード NUDE—英国テート・コレクションより	8
企画展2 モネ それからの100年	10
企画展3 駒井哲郎—煌めく紙上の宇宙	12
企画展4 イサム・ノグチと長谷川三郎—変わるものと変わらざるもの	14
横浜美術館コレクション展 2018年3月24日(土)–6月24日(日)	16
横浜美術館コレクション展 2018年7月14日(土)–12月16日(日)	18
横浜美術館コレクション展 2019年1月4日(金)–3月24日(日)	20
コレクション展巡回1 王様の美術館 フランス近代美術とシュルレアリスムの精華	22
コレクション展巡回2 昭和の肖像 写真でたどる昭和のひとと歴史	24
New Artist Picks 最果タビ 詩の展示	26
調査研究・普及活動(個人)	28
美術情報センターの活動	31
教育普及事業	
概要	33
鑑賞サポート	36
子どものアトリエ	40
市民のアトリエ	43
市民協働、地域社会や市民生活に貢献する事業	
市民協働	47
地域社会や市民生活に貢献する事業	49
美術品の収集、保存・修復、貸出	
収集	51
保存・修復	52
貸出	54
広報の活動、外部と連携した事業	
広報	67
外部と連携した事業	70
来館者へのおもてなし	72
国際的な交流・発信	74
資料	
入館者数・収支	77
役員等・組織図	78
職員名簿	79
条例・施行規則	80
施設概要・利用案内	85

注

本年報では、各展覧会を一部下記の略称で表記しています。
「ヌード NUDE—英国テート・コレクションより」… ヌード展
「モネ それからの100年」… モネ展
「駒井哲郎—煌めく紙上の宇宙」… 駒井展
「イサム・ノグチと長谷川三郎—変わるものと変わらざるもの」… ノグチ長谷川展
「横浜美術館コレクション展」… コレクション展
「New Artist Picks 最果タビ 詩の展示」… 最果タビ展

基本方針・沿革

基本方針：国際都市横浜にふさわしい世界に開かれた美術館を目指して

公益財団法人横浜市芸術文化振興財団は、横浜市との政策協働による指定管理者制度に基づき、平成25年度から10年間にわたり横浜美術館の運営を担っています。10年間にわたる重点項目として、「発信力の強化」「教育プログラムの強化」「市民とつながるプログラムの強化」「営業力の強化」「経営基盤と人材の強化」の5つを定め、次に掲げる美術館を目指しています。

- ・市民の誰もが美術に親しみ、多くの市民に「観る」「創る」「学ぶ」機会を提供することにより、市民の創造性を育み、心豊かで活力に満ちた生活の実現に貢献する美術館。
- ・世界各国の美術館や美術関係者などとのネットワークの強化や国際交流を促進するとともに、横浜独自の魅力的で質の高い美術文化を国内外に発信することにより、国際都市横浜の魅力とアイデンティティの確立に貢献する美術館。
- ・市民、学校、NPO、企業等の様々な立場や年代、属性を持つ人々と協働することにより、市民から親しまれ、市民が集う、地域に開かれた美術館。
- ・未来を担うこどもたちの創造性を育むため、地域の学校や大学などと連携した取り組みを進め、文化芸術教育の中心的な役割を担う美術館。

沿革

昭和62年10月	運営組織として財団法人横浜市美術振興財団設立
昭和63年3月	建物竣工
9月	横浜美術館条例制定
平成元年2月	外構工事完了
3月25日	美術館開設(横浜博覧会施設として)
11月3日	横浜美術館条例施行・開館
平成14年4月	運営組織が財団法人横浜市文化振興財団と統合され、財団法人横浜市芸術文化振興財団となる。
平成18年4月	管理運営に指定管理者制度が導入され、財団法人横浜市芸術文化振興財団が指定管理者となる。(2年間)
平成20年4月	横浜市芸術文化振興財団・相鉄エージェンシー・三菱地所ビルマネジメント共同事業体が指定管理者となる。(5年間)
平成21年7月	財団法人横浜市芸術文化振興財団が公益法人として認可され、公益財団法人横浜市芸術文化振興財団となる。
平成25年4月	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団が指定管理者となる。(10年間)

展覧会事業

概要

展覧会は美術館で実施されるさまざまな活動のなかでも、中心的な事業です。横浜美術館では、現在、おおむね次の3種類の展覧会を実施しています。

1つめは、企画展と呼ばれる展覧会です。内外の美術館やコレクターなどから、一定のテーマに基づいて作品や資料を借用し展覧会を構成します。2つめは、コレクション展です。美術館が収集してきた美術品や資料をご覧いただく展覧会です。3つめは、「New Artist Picks」(NAP)という呼び名を持つ展覧会です。今後の活躍が期待される若いアーティストが、小企画スペースであるアートギャラリー1、グランドギャラリーやCafé小倉山など、館内のさまざまな場所を使って意欲的な作品を発表します。

企画展

横浜美術館は次のような基本方針により、年間3～4本、バラエティに富んだ内容で企画展を実施しています。平成元年の開館以来、これまでに123本の企画展が開催されました。

- 1 国際港都横浜にふさわしい世界的な視野の企画。
- 2 地域の人々が現代美術に親しみ、現代美術に対する理解を促すような企画。
- 3 横浜と日本写真史の関係を重視し、国際的視野における現代までの写真を多角的にとらえた企画。
- 4 近代日本の美術および横浜ゆかりの美術展。特に原三溪ゆかりの作家を重視しつつ、開港以来の洋画・日本画の流れを歴史的にとらえた企画。また、横浜出身または在住作家を中心に、横浜の美術史を多角的に紹介する企画。
- 5 建築、工芸、デザインなど生活に密着した分野の企画。

また、平成23年度からは横浜トリエンナーレを企画展事業のひとつとして位置づけています。
(平成30年度4展合計入場者数：402,425人)

コレクション展

当館では、4部屋の展示室を使って、年間2～3回の展示替えをおこない、コレクションを紹介しています。12,000点を越えるコレクションの中から、常時200～300点の作品を厳選して展示します。毎回テーマを設定することで、さまざまな角度からコレクションの魅力にアプローチをしています。当館の収集方針に基づき、分野ごとの特徴をわかりやすく展示する会期もあれば、全体を統一したテーマで構成し、分野を横断した展示を行うこともあります。

(平成30年度3展合計入場者数：423,228人)

New Artist Picks (NAP)

NAP(ナップ)は、New Artist Picksの頭文字を採った呼び名で、横浜美術館の学芸員が独自の視点で選出する国内外の新進アーティストによる小展覧会です。平成18年から進めてきた若手作家支援のプログラムが、平成25年から刷新され、新たなシリーズとして登場しました。年1回程度実施し、入場無料でご覧いただけます。

担当学芸員一押し、ユニークな活動を展開しつつある有望な若手アーティストをご紹介します。

(平成30年度入場者数：30,368人)



企画展1 ヌード NUDE —英国テート・コレクションより

世界屈指の西洋近現代美術コレクションを誇る英国テートの所蔵作品により、19世紀後半のヴィクトリア朝の神話画や歴史画から現代の身体表現まで、西洋美術の200年にわたる裸体表現の歴史を、絵画、彫刻、版画、写真など134点の作品を通して紹介しました。展覧会は「1.物語とヌード」「2.親密な眼差し」「3.モダン・ヌード」「4.エロティック・ヌード」「5.リアリズムとシュルレアリスム」「6.肉体を捉える筆触」「7.身体の政治性」「8.倦き身体」と概ね時代順に構成しました。ハイライトである初来日のオーギュスト・ロダンの大理石像《接吻》やジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナーの希少な裸体表現を含む第4章は、「エロティック」という普遍的なテーマを設けました。本展は国際巡回展として企画されましたが、章立てを再編し、重要な国内作品を12点加えるなど、日本独自の企画展として実現しました。

会期中は、国内外の研究者を招いた講演会をはじめ、彫刻家を講師に迎えロダンの大理石像を展示室でデッサンするワークショップを行うなどの普及活動を行い、ヌードという人間にとって最も身近なテーマについて考察する機会を提供しました。



ポスター



チラシ



カタログ

広報印刷物デザイン：
祖父江 慎、鯉沼恵一(コスフィッシュ)

カタログデザイン：
垣本正哉、河野素子(D_CODE)

撮影：読売新聞社(p.8 ◆除く)

主催：横浜美術館、読売新聞社、テート
後援：プリティッシュ・カウンシル、J-WAVE
協力：日本航空、みなとみらい線、横浜ケーブルビジョン、FMヨコハマ、首都高速道路株式会社
協賛：大日本印刷
会期：平成30年3月24日(土)～6月24日(日)
 *5月3日(木・祝)は開館、5月7日(月)は休館
 5月11日(金)、6月8日(金)は20時30分まで夜間開館

開催日数：80日

観覧料：一般1,600円、大学・専門学校生1,200円
 中学・高校生600円、小学生以下無料、65歳以上1,500円

入場者数：88,814人

出品作品数：134件

出展作家：68人

アレクサンダー・アルキベンコ	エドガー・ドガ
ローレンス・アルマ=タデマ	ハーバート・ドレイパー
ハンナ・ウィルケ	アリス・ニール
デイヴィッド・ヴォイナロヴィッチ	クリストファー・リチャード・ウィ
ウィリアム・エッティ	ン・ネヴィンソン
トレイシー・エミン	ジョセフ・ハイモア
ジャン・エリオン	フィオナ・パナー
マックス・エルンスト	バルテュス(バルタザール・クロ
ジョン・カリン	ソウスキー・ド・ローラ)
アルフレッド・ギルバート	パブロ・ピカソ
ダンカン・グラント	セシリー・ブラウン
フランシス・グリユベール	ルイズ・ブルジョワ
アンリ・ゴッティエ=ブルゼスカ	ルシアン・フロイド
イセル・コフーン	フランシス・ベーコン
ジョン・コプランズ	バーバラ・ヘップワース
ルーカス・サマラス	ヴァネッサ・ベル
ウォルター・リチャード・シッカート	ハンス・ベルメール
アルベルト・ジャコメッティ	パークレー・L・ヘンドリックス
シンディ・シャーマン	ピエール・ボナール
カール・シュミット=ロットルフ	デイヴィッド・ホックニー
グウェン・ジョン	デイヴィッド・ボンバーグ
フィリップ・ウィルソン・ステイア	アンリ・マティス
アルフレッド・ステヴァンス	ヴィリアム・マルリディ
ウィリアム・ストラング	マン・レイ
スタンリー・スペンサー	ジョン・エヴァレット・ミレイ
ジョー・スペンス	ヘンリー・ムーア
マシュー・スミス	ロバート・メイプルソープ
シルヴィア・スレイ	アンナ・リー・メリット
ハモ・ソーニクロフト	リンダー
リネケ・ダイクストラ	ウィンダム・ルイス
ジョセフ・マロード・ウィリアム・	サラ・ルーカス
ターナー	オーギュスト・ルノワール
ジョルジオ・デ・キリコ	フレデリック・レイトン
ウィレム・デ・クーニング	オーギュスト・ロダン
マルレーネ・デュマス	ウィリアム・ロバーツ
ポール・テルヴォー	

担当：沼田英子、長谷川珠緒、片多祐子、金井真悠子

カタログ：232頁

発行：読売新聞東京本社・横浜美術館

編集：横浜美術館、読売新聞東京本社文化事業部

執筆：エマ・チェンバース「肉体と形体 20世紀のヌード再定義」

長谷川珠緒「身体そのものに意味をもたせた彫刻—オーギュスト・ロダンの大理石像《接吻》をめぐる」



企画展2 モネ それからの100年

印象派を代表するクロード・モネの初期から晩年までの絵画25点と、後世代の26作家による66点の計91作品を通して、両者の時代を超えた結びつきを浮かび上がらせる展覧会。「I 新しい絵画へ」「II 形なきものへの眼差し」「III モネへのオマージュ」「IV フレームを越えて」の4章で構成し、そのうち第1、2、4章で、モネの作品群を概ね時系列で展示するとともに、それぞれの時期におけるモネの創作上の関心や特質と響きあう現代作家の作品（絵画、版画、写真、映像）を並置しました。また第3章では、モネから直接的な影響を受けて制作された後世の作家たちの作品を紹介しました。

モネの作品のうちにある多面的な特質を国内外の多様な作品群に接続することで、「印象派の巨匠」という歴史化された肩書を超え、モネの芸術の革新性、普遍性を浮き彫りにした本展は、モネの絵画の魅力を再発見する機会であると同時に、現代アートに馴染の薄い方々にとって、その魅力に触れるきっかけともなりました。また、夏休みにかかる会期を活かして子どもの鑑賞教育にも力を注ぎ、展示会場に設置した「子ども向け解説」、市内の小中学校の生徒に配布した「ジュニアガイド」も好評を博しました。

主催: 横浜美術館、東京新聞、テレビ朝日
後援: 在日フランス大使館／アンスティチュ・フランセ日本
協賛: トヨタ自動車、三井住友海上火災保険、光村印刷
協力: 日本航空、FMヨコハマ、みなとみらい線
 横浜ケーブルビジョン、首都高速道路株式会社
会期: 平成30年7月14日(土)-9月24日(月・休)
 *8月16日(木)は開館
 8月10日(金)、17日(金)、24日(金)、31日(金)、9月14日(金)、
 15日(土)、21日(金)、22日(土)は20時30分まで夜間開館

開催日数: 64日

観覧料: 一般1,600円、大学・高校生1,200円、中学生600円
 小学生以下無料、65歳以上1,500円

入場者数: 260,375人

出品作品数: 91件

出展作家: 27人

アンディ・ウォーホル	福田美蘭
岡崎乾二郎	サム・フランシス
小野耕石	松本陽子
ルイ・カーヌ	丸山直文
児玉麻緒	水野勝規
児玉靖枝	ジョアン・ミツェル
鈴木理策	クロード・モネ
エドワード・スタイケン	湯浅克俊
アルフレッド・スティーグリッツ	ジャン＝ポール・リオベル
ウィレム・デ・クーニング	ロイ・リキテンスタイン
堂本尚郎	ゲルハルト・リヒター
中西夏之	モーリス・ルイス
根岸芳郎	マーク・ロスコ
平松礼二	

担当: 松永真太郎、坂本恭子、大澤紗蓉子

カタログ: 188頁

発行: 東京新聞

編集: 名古屋市美術館、横浜美術館、東京新聞

執筆: 深谷克典「モネ それからの100年—永遠の現在としての絵画—」

松永真太郎「モネと現代—『風景』をめぐって」

ポール・ヘイズ・タッカー「モネの遺産—近代画家としてのモネの戦略」

坂本恭子「壁画と衝立—クロード・モネと中西夏之」



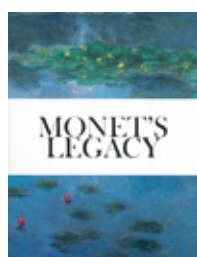
ポスター



チラシ



カタログ



カタログ



ジュニアガイド

広報印刷物デザイン:
野村勝久(野村デザイン制作室)

カタログデザイン:
今井千恵子(ロンディーネ)

ジュニアガイド イラスト・文:
杉全美帆子

撮影:東京新聞(p.10 ❖除く)



企画展3 駒井哲郎^{きら}—煌めく紙上の宇宙

本展は、日本における現代銅版画のパイオニアである駒井哲郎の初期から晩年までの創作の展開を縦系に、芸術家たちとの交流や影響関係を横系とすることで、多面的な駒井の姿を捉え直すことを趣旨として開催しました。「銅版画との出会い」、「戦後美術の幕開けとともに」、「前衛芸術との交差」、「フランス滞在と『廃墟』からの再生」、「詩とイメージの競演」、「色彩への憧憬」の6章構成にて、駒井の作品172件217点とともに関連作家の作品66件74点をあわせ、計238件291点を展観しました。

詩人や油彩画家、作曲家といった異ジャンルの芸術家たちと駒井の関係を紹介し、さらに前衛芸術グループ「実験工房」での活動や、初公開となった舞台美術の仕事などを駒井の画業のなかに位置づけたことで、駒井の銅版画が放つ領域横断的な魅力に迫りました。そして、総合芸術家としての駒井の新たな一面にも光を当てました。

また駒井に師事した中林忠良氏による講演会の他、渡辺達正氏による駒井作品の原版を使った刷りのデモンストレーションや、制作ワークショップの開催を通じ、駒井の人間性や制作を多角的に紹介しました。加えて小学生を対象とするモノタイプのワークショップも行い、幅広い層が銅版画の深淵な世界に触れる機会を創出しました。

主催: 横浜美術館、日本経済新聞社
助成: 芸術文化振興基金、公益財団法人 花王芸術・科学財団
協賛: 株式会社 資生堂
特別協力: 世田谷美術館
協力: みなとみらい線、横浜ケーブルビジョン、FMヨコハマ 首都高速道路株式会社
会期: 平成30年10月13日(土) - 12月16日(日)
 *11月23日(金・祝)は20時30分まで夜間開館

開催日数: 56日

観覧料: 一般1,500円、大学・高校生900円、中学生600円
 小学生以下無料、65歳以上1,400円
 *11月3日(土・祝)は無料

入場者数: 28,298人

出品作品数: 238件291点

出展作家: 28人(※詩人・文学者は除く)
 駒井哲郎

マリオ・アヴァチ	浜田知明
マックス・エルスト	ロドルフ・ブレダン
大辻清司	ジェームス・マクニール・ホイッスラー
岡鹿之助	ラール
恩地孝四郎	松田義之
北代省三	ジョアン・ミロ
パウル・クレー	シャルル・メリヨン
今 純三	山口勝弘
須田國太郎	山口 源
清宮質文	湯浅譲二
関野準一郎	マキシム・ランヌ
アルブレヒト・デューラー	オディロン・ルドン
中林忠良	レンブラント・ファン・レイン
西田武雄	
長谷川潔	

担当: 片多祐子、日比野民蓉、沼田英子

カタログ: 272頁

発行: 玲風書房
 企画・監修: 横浜美術館
 編集: パックス

執筆: 栗津則雄「駒井さん」
 中林忠良「銅版とPas de deux 一師・駒井哲郎の日々」
 逢坂恵理子「序にかえて一駒井哲郎との交流」
 片多祐子「東西の美術・文学・音楽の交差点としての駒井哲郎」



ポスター



チラシ



広報印刷物デザイン: 松永 路

カタログデザイン: パックス
 カatalogカバーデザイン: 安藤剛史

撮影: 加藤 健 (p.12 ❖ 除く)



カタログ



企画展4 イサム・ノグチと長谷川三郎—変わるものと変わらないもの

日米の血を引き、20世紀を代表する抽象彫刻家として世界的に活躍したイサム・ノグチと、日本の抽象芸術のパイオニアとして戦前期の前衛美術をリードし、早くから日本美術のあり方への数々の提言を行い、戦後はノグチとの出会いを機に渡米し、ミッドセンチュリーの芸術・文化にすくなからぬ影響を与えた画家長谷川三郎の交友に焦点を当てた展覧会です。ノグチと長谷川は、共に「抽象」に芸術と社会を結びつける可能性を見出し、古い日本の美術や文化に根付く抽象の本質をモダンと捉え、それまでの日本におけるモダン＝西洋の図式を覆すと共に、地域の固有性と、言語や文化圏を越えた普遍性を両立させる芸術ビジョンを確立しました。本展はニューヨークのノグチ美術館との共同企画で、当館は日本国内所蔵先との出品交渉から借用を担当した他、米国2館（ノグチ美術館とサンフランシスコ・アジア美術館）に巡回される95点に、横浜会場のみに表示される長谷川三郎の1936年から1948年までの油彩、彫刻、写真と、イサム・ノグチによる広島原爆犠牲者のための慰霊施設模型など33点を加え、計128点を当館独自の6章で構成、展示しました。カタログは、米国カリフォルニア大学出版局発行の英和版本編と、別冊として当館製作の横浜美術館出品目録の2冊を発行しました。ノグチとの関係を含め、長谷川三郎のまとまった展示は関東地方では初めてであり、プレスや来館者から新鮮な企画として好評をいただきました。

主催: 横浜美術館、イサム・ノグチ財団・庭園美術館(ニューヨーク) 神奈川新聞社、tvk(テレビ神奈川)
後援: アメリカ合衆国大使館
助成: テラ・アメリカ美術基金
特別協力: 全日本空輸株式会社
協力: FMヨコハマ、首都高速道路株式会社、株式会社ニコン 株式会社ニコンイメージングジャパン、みなとみらい線 横浜ケーブルビジョン
会期: 平成31年1月12日(土)~3月24日(日)
 *3月21日(木・祝)は開館、3月22日(金)は休館
 *3月2日(土)は20時30分まで夜間開館

開催日数: 62日

観覧料: 一般1,500円、大学・高校生900円、中学生600円
 小学生以下無料、65歳以上1,400円
 *2月24日(日)は無料

入場者数: 24,938人

出品作品数: 128件

出展作家: 2人
 イサム・ノグチ
 長谷川三郎

担当: 中村尚明、大澤紗睿子、江口みなみ

カタログ: 276頁

発行: カリフォルニア大学出版局

編集: デイキン・ハート、マーク・ティーン・ジョンソン

執筆: パート・ウィンザー=タマキ「ふたりのモダニストが寄せた『古い日本』への情熱 長谷川三郎とイサム・ノグチの1950年」
 マシュー・カーシュ「『堆積した印象』ノグチと長谷川の写真による日本旅日記」

河崎晃一「日本の美術を憂いた二人の美術家 イサム・ノグチと長谷川三郎」

中村尚明「イサム・ノグチ作《広島の子供のためのメモリアル》実現されざる記念作品と芸術ビジョン、長谷川三郎との関係をめぐって」

マーク・ティーン・ジョンソン「アメリカでの長谷川三郎 広く開かれた道」

デイキン・ハート「古い伝統の真の発展 1950年代のイサム・ノグチの作品」

中森康文「抽象に向かって 長谷川三郎のフォトグラムの探索」

横浜美術館出品目録: 64頁

発行: 横浜美術館

編集: 横浜美術館

執筆: 逢坂恵理子「序にかえて」

中村尚明「解説: 長谷川三郎の抽象作品とイサム・ノグチの二つ目の〈広島メモリアル〉モデル」



ポスター



チラシ

広報印刷物デザイン: 浅葉克己デザイン室

カタログデザイン:
 Joan Sommers and Amanda Freymann,
 Glue + Paper Workshop, Chicago

横浜美術館出品目録カバーデザイン:
 浅葉克己デザイン室
 横浜美術館出品目録デザイン:
 田口 香 (Kaota. Design)

撮影: 中村尚明 (p.14 ❖ 除く)
 © Isamu Noguchi Foundation and Garden Museum



カタログ



横浜美術館出品目録



横浜美術館コレクション展 2018年3月24日(土)－6月24日(日) コレクションをつくる。未来へつなぐー近年の収蔵品より／人を描くー日本の絵画を中心に

「コレクションをつくる。未来へつなぐー近年の収蔵品より」「人を描くー日本の絵画を中心に」の2つのセクションで展示を構成しました。

「コレクションをつくる。未来へつなぐー近年の収蔵品より」では、2010年代の収集作品の中から初展示となる作品を中心に、近年とくに厚みを増した近現代日本美術の作品群を4つのテーマで紹介しました。写真展示室では、新収蔵作品から、土田ヒロミの広島をめぐる3つのシリーズと、石川直樹の「ARCHIPELAGO」シリーズを特集しました。美術館が市の収集方針のもとに市民やコレクター、企画展で取り上げた作家などから毎年作品を収集していることや、長谷川潔の作品・資料群などを例に学芸員の継続的な作家研究が体系的な収集に結びついてきたことを解説し、収集活動の意義を伝えました。

「人を描くー日本の絵画を中心に」では、企画展「ヌード NUDE ー英国テート・コレクションより」の開催にあわせて、近現代の多様な人物表現を紹介しました。「裸体画」をはじめとする6つのテーマで構成し、作品に込められた作家たちの人間観や歴史観を読み解くことを趣旨としました。

油彩画家・佐々木豊によるトーク「佐々木豊、ヌードを語る」、写真家・石川直樹によるトークを実施しました。

コレクションをつくる。未来へつなぐー近年の収蔵品より

- 1 横浜から世界へー香山、フジタ、長谷川潔
- 2 原三溪とゆかりの画家
- 3 現代日本版画の多様な広がり
- 4 同時代のアーティストの作品：日常と非日常の境にリアルを探る

[写真展示室] 作家特集

- ・土田ヒロミ「ヒロシマ」シリーズより
- ・石川直樹「ARCHIPELAGO」より

人を描くー日本の絵画を中心に

- 1 裸体画
- 2 アノニマスな肖像ー私たちの心を映す人のかたち
- 3 人形(ひとがた)
- 4 肖像画
- 5 歴史人物画
- 6 物語・説話の人物

[ホワイエ、グランドギャラリー]

イサム・ノグチと近代彫刻

会 期：平成30年3月24日(土)－6月24日(日)
*5月3日(木・祝)は開館、5月7日(月)は休館
5月11日(金)、6月8日(金)は20時30分まで夜間開館

開催日数：80日

入場者数：92,173人

出品作品数：約195件

出展作家：68人

荒井寛方	土田ヒロミ
ハンス(ジャン)・アルプ	ジョルジオ・デ・キリコ
石川直樹	中島清之
今村紫紅	中島千波
岩崎貴宏	中林忠良
岩田榮吉	中村ケンゴ
上前智祐	奈良美智
牛田雞村	イサム・ノグチ
太田聰雨	野田九浦
岡田謙三	長谷川 潔
小倉遊亀	林 敬二
小野忠重	原 三溪
クレス・オルデンバーグ	原 撫松
梶田半古	兵藤和男
片岡球子	平櫛田中
金氏徹平	鯨崎英朋
鏡木清方	藤田嗣治
岸田劉生	コンスタンティン・ブランクーシ
木村 浩	前田青邨
木村武山	ルネ・マグリット
工藤哲巳	松井冬子
河野通勢	アンドレ・マツソン
五姓田芳柳	初代 宮川香山
小林裕児	宮崎 進
小牧源太郎	ジョアン・ミロ
佐々木 豊	村山槐多
オシップ・ザツキン	守屋多々志
下村観山	安田靫彦
ポール・ジャクレー	柳下晴屋
荘司 福	山中雪人
諏訪 敦	横尾忠則
関野準一郎	吉田亜世美
サルバドール・ダリ	吉田千鶴子
月岡榮貴	吉田穂高

担 当：内山淳子、日比野民蓉、大下裕司、江口みなみ



横浜美術館コレクション展 2018年7月14日(土) - 12月16日(日)
 モネ それからの100年展に寄せて／幻想へのいざない 駒井哲郎展をきっかけに

「モネ それからの100年」展、「駒井哲郎一煌めく紙上の宇宙」、二つの企画展と同時期開催の本年度2期目のコレクション展は、コレクションを通じて企画展を一層楽しんでいただけるように、企画展に関わるテーマで5つの章を設けて、グランドギャラリーの彫刻を含め、全188点で構成しました。

まず、クロード・モネ(1840-1926)の活躍した時代が、日本の幕末明治期に重なることから、ワーグマン、高橋由一、五姓田よしまつ、義松の絵画や小林清親の版画、横浜から発した宮川香山の「真葛焼」など、モネと同時代に東西交流により生み出された日本の美術をご覧いただきました。次に、モネら印象派絵画における筆触分割の革新性に着目し、筆触や筆の勢いある動きが力強い画面をもたらす要素であることを、白髪一雄、中村一美など、戦後日本の抽象画を通して紹介しました。さらに、「モネ それからの100年」展がモネの後代への影響に焦点を当てた点に関連付けて、古典の名画や衆知のイメージを積極的に自作に取り入れ、新たな解釈でオリジナルのイメージを転化させた表現を、森村泰昌、福田美蘭らの作品によりご覧いただきました。また、深い精神性と幻想性をたたえる駒井哲郎の作品に寄せて、「幻想性」を切口に近藤弘明など現代日本画を中心とするセクションを設けたほか、ナダールやアジェら10人の写真家により、モネと同時代のフランスの都市景観や風俗を捉えた作品を写真展示室で特集しました。

抽象画家、中村一美によるアーティスト・トークは、展示作品の創作の過程を知る機会となりました。

モネ それからの100年に寄せて

幻想へのいざない 駒井哲郎展をきっかけに

- 1 明治150年、開国の風景—モネと同時代の日本の美術
- 2 筆触、ブラッシュ・ストロークをめぐって
- 3 イメージの引用と転化
- 4 幻想へのいざない 駒井哲郎展をきっかけに

[写真展示室]

特集展示：モネと同時代のフランス写真—都市の風景など

[グランドギャラリー他]

イサム・ノグチと近代彫刻

会 期：平成30年7月14日(土)-9月24日(月・休)
 10月13日(土)-12月16日(日)

*8月16日(木)は開館

8月10日(金)、17日(金)、24日(金)、31日(金)、9月14日(金)、15日(土)、21日(金)、22日(土)、11月23日(金・祝)は20時30分まで夜間開館

開催日数：120日

入場者数：299,050人

出品作品数：188件

出展作家：64人

ウジェーヌ・アジェ	中島千波
荒木経惟	中村一美
アルフレッド・イースト	ナダール
伊藤 彬	西野正将
井上安治	イサム・ノグチ
今村紫紅	伝 ベーター・B.W. ハイネ
アンディ・ウォーホル	イッポリット・バヤール
宇佐美圭司	パブロ・ピカソ
クレス・オルデンバーグ	ジョルジュ・ビゴー
加藤土師萌	福田美蘭
アンリ・カルティエ=ブレッソン	藤井健司
工藤甲人	藤田喬平
ウイंकワース・アルバン・ゲイ	ブラッサイ
アンドレ・ケルテス	コンスタンティン・ブランクーシ
ポール・ゴーギャン	ルネ・マグリット
五姓田芳柳	松尾敏男
伝 五姓田芳柳	アンドレ・マッソン
五姓田義松	松林桂月
小林清親	シャルル・マルヴェイル
近藤弘明	宮川香山(初代)
オシップ・ザツキン	ジョアン・ミロ
篠原有司男	モーティマー・メンペス
下村観山	森村泰昌
荘司 福	山村耕花
白髪一雄	吉田克朗
菅井 汲	吉村益信
高橋由一	ジャック=アンリ・ラルティエグ
辰野登恵子	ロイ・リキテンスタイン
サルバドル・ダリ	アンリ・ヴィクトール・ルニョー
ジョルジオ・デ・キリコ	チャールズ・ワーグマン
ロベール・ドマシー	渡辺文三郎
中島清之	渡辺幽香

担 当：八柳サエ、内山淳子、長谷川珠緒、江口みなみ



横浜美術館コレクション展 2019年1月4日(金) - 3月24日(日)

リズム、反響、ノイズ

本展は、同時期に開催された企画展「イサム・ノグチと長谷川三郎一変わるものと変わらないもの」に合わせて、クロスジャンルな芸術家たちの交流と、20世紀を通して現代へと至る抽象的な美術表現の展開に焦点をあてた特集展示「リズム、反響、ノイズ」を中心に構成、また「PHOTO YOKOHAMA 2019」のパートナー・イベントとして、多数の写真や映像作品を展示しました。

20世紀以降の美術を語るとき、それ以前の表現と区別する最も大きな造形上の変化は、抽象的な表現の誕生にあります。スイスやドイツで始まったダダや、ロシアの構成主義、フランスのキュビズムやイタリアの未来派など、およそ100年前のヨーロッパで同時多発的に発生した抽象的・幾何学的な絵画や彫刻の造形上の実験は、20世紀を通じて、日本はもとより世界中のさまざまな前衛芸術運動に継承されていきます。

こうした20世紀初頭の実験的な芸術運動はまた、美術家だけが牽引したのではなく、詩人や音楽家たちとの協働で実践されました。さらに、視覚表現技法のひとつとして確固たる位置を確立した写真と、新たに発明された映像とが加わり、20世紀初頭のヨーロッパでは、現代へ連なる多様な芸術表現の素地が、一齊にかたちづくられました。

本展は、これら20世紀初頭に革新的な表現を切り拓いた作家たちの作品にはじまり、20世紀後半の日本でその前衛の精神を受け継いだともいえる具体美術協会や、写真表現におけるアレブレなど、戦後の前衛的な作品の展示へと続けました。さらに1990年代以降の日本画における革新的な試みや、現代を生きる美術家たちの作品を展示、リズムと反響・ノイズなど、解体された音楽の要素さながらに、色彩と形態に分化し、抽象化や再構成が試みられていった20世紀以降の多様な美術の表現を紹介しました。

「リズム、反響、ノイズ」

- I それは100年前にはじまった一抽象の実験
- II ひびきあうかたちと引つ掻かれたかたち一戦後の前衛
- III ひらかれるかたち一1990年代以降の日本画を中心に

【特集：荘司福《春律》】

IV 反復のかたち

【グランドギャラリー】特集：宮川香山

【ホワイエ】近代彫刻



チラシ

広報印刷物デザイン：峯石景子

撮影：加藤 健(p.20 ❖除く)

会 期：平成31年1月4日(金)-3月24日(日)

*3月21日(木・祝)は開館

1月11日(金)、3月22日(金)は休館

*3月2日(土)は20時30分まで夜間開館

開催日数：68日

入場者数：32,005人

出品作品数：249件

出展作家：87人

「リズム、反響、ノイズ」

荒川修作
ハンス(ジャン)・アルプ
石田尚志
石原友明
瑛九
大村俊二
小谷元彦
尾長良範
小野友三
オノサト・トシノブ
恩地孝四郎
桂 ゆき
ナウム・ガボ
川崎亀太郎
河嶋淳司
ヴァシリイ・カンティンスキー
金 美香
木村伊兵衛
ウィリアム・クライン
パウル・クレー
ジョージ・グロッス
エドムント・ケステイング
ジョゼフ・コーネル
斎藤典彦
斎藤義重
佐藤亜土
クルト・シュヴィッターズ
ジャスパー・ジョーンズ
白髪一雄
菅井 汲
エドワード・スタイケン
関島寿子
高嶺 格
武田州左
武田律子
辰野登恵子
田中敦子
マルセル・デュシャン
中上 清
中西夏之
中原浩大
中平卓馬
ルース・バーンハード
馬場橋男
濱谷 浩
フィリップ・ハルスマン
ヴェルナー・ビショフ

フリードリヒ・フォルテンベルグ
=ギルデヴァルト
福田勝治
藤田 淳
マコト・フジムラ
堀 不佐夫
マイナー・ホワイト
ジャック=アンドレ・ボワファール
本庄光郎
松井智恵
アンリ・マティス
マン・レイ
三瀬夏之介
ガブリエーレ・ミュンター
村上善男
元永定正
ラースロー・モホイ=ナギ
八木良太
やなぎみわ
柳 幸典
山口長男
山田正亮
山本直彰
柳 英熙
吉田亜世美
ロバート・ラウシェンバーク
アレクサンドル・ロトチェンコ
ヴォルス

【特集：荘司福《春律》】

荘司 福
荘司福関連資料

【特集：宮川香山】

宮川香山(初代)
宮川香山(二代)
宮川香山(二代以降)
宮川香山(工房)

【近代彫刻】

クレス・オルデンバーク
オシップ・ザツキン
サルバドール・ダリ
ジョルジオ・デ・キリコ
コンスタンティン・ブランクーシ
ルネ・マグリット
アンドレ・マッソン
ジョアン・ミロ

担 当：木村絵理子、庄司尚子、坂本恭子



コレクション展巡回1 王様の美術館 フランス近代美術とシュルレアリスムの精華

本展は横浜美術館所蔵作品を展覧会として国内外の美術館に貸し出す「コレクション展巡回」事業のひとつとして、高知県立美術館で開催されました。開催館の希望によりフランス近代美術とシュルレアリスムをテーマとし、油彩画、水彩素描、彫刻、写真など併せて114点というかつてない大規模な貸出となりました。作品選定は横浜美術館と高知県立美術館との協議により行われ、現場での大型作品の搬入経路確認など入念な事前準備を行ったうえ、全体を2部構成とし、前半部のフランス近代美術では、セザンヌ、ピカソ、ブラック、ローランス、ナダール、アジェ、旧坂田コレクションなど、後半部のシュルレアリスムではダリの三連画を始め、マグリット、エルンスト、マッソン、ミロ、マン・レイなど、当館西洋美術コレクションの中心をなす作品のほぼすべてを網羅する充実した内容となりました。高知県立美術館では、日英語によるギャラリートークをはじめ、横浜、高知両館長の対談、横浜美術館担当学芸員の記念講演会などの関連事業を実施し、また、両館学芸員の執筆によるエッセイ、章解説、作家解説、目録を掲載した小冊子も無料配布されました。会期中10,314人の入場者がありました。

主催：高知県立美術館、横浜美術館、読売新聞社、KUTVテレビ高知
会場：高知県立美術館
会期：平成30年6月23日(土)-9月24日(月・休)

開催日数：94日

入場者数：10,314人

出品作品数：114件(貸出参照 pp.54-57)

出展作家：36人

ジョン・アームストロング
ウジェーヌ・アジェ
ハンス(ジャン)・アルプ
ヴォルス
マックス・エルンスト
メレット・オッペンハイム
エミール＝オーギュスト・カトリユス＝デュラン
ウジェーヌ・カリエール
ギュスターヴ・クールベ
パウル・クレー
アンドレ・ケルテス
ジョゼフ・コーネル
里見勝蔵
シャルル＝エミール・ジャック
ポール・セザンヌ
サルバドール・ダリ
イヴ・タンギー
ジョルジオ・デ・キリコ
ポール・テルヴォー
シャルル＝フランソワ・ドービニー
オスカル・ドミンゲス
ナダール
パブロ・ピカソ
藤田嗣治
ジョルジュ・ブラック
ハンス・ベルメール
ルネ・マグリット
アンドレ・マッソン
ロベルト・マッタ
マン・レイ
ジョアン・ミロ
ギュスターヴ・モロー
ジャン＝フランソワ・ラファエリ
ヴィフレド・ラム
ジャック＝アンリ・ラルティエグ
フェルナン・レジェ
ジャン・ポール・ローランス

担当：中村尚明、相原佳奈子、江口みなみ

小冊子：34頁

発行：高知県立美術館

執筆：逢坂恵理子「ご挨拶」

中村尚明「絵画の中の歴史—エルンストとローランスの場合」
奥野克仁「《王様の美術館》覚え書き」



コレクション展巡回2 昭和の肖像 写真でたどる「昭和」の人と歴史

本展は、2016(平成28)年度に横浜美術館コレクション展として開催した同名の展示を、一部出品作品を拡大して、アーツ前橋に巡回したものです。

60年余の長きにわたった「昭和」(1926~1989)という時代。関東大震災からの復興、第2次世界大戦、敗戦からの再びの復興、高度経済成長を経てバブル期へと続く、日本の歴史において最長、かつ最も大きく揺れ動いたこの時代は、無数の写真によってその「イメージ」が今日に伝えられています。本展では、第1章「人物：時代を彩った顔」と、第2章「時代と風景・風俗」の2部構成により、昭和を生きた著名人たちのポートレート、そして昭和という時代そのものを映し出した風景・風俗写真を通して、今日の日本の社会構造と生活環境の基礎を形づくったこの「激動の時代」を振り返り、「記録」と「芸術」との間で絶えず揺れ動きながら発展してきた「写真」というメディアの多面的な魅力を伝えようと試みました。

会期中には本展出品作家で群馬県在住の石内都によるアーティスト・トークと、かつて横浜美術館の学芸員であった明治大学教授の倉石信乃によるレクチャーを実施。来場者には、各章や作家作品解説、エッセイが掲載された小冊子が無料配布されました。

1章 人物：時代を彩った顔

芸能
文学
美術

2章 時代と風景・風俗

1930年代の都市風景と新興写真
戦争の影とフォト・ジャーナリズム
敗戦と広島・長崎
戦後復興と写真のリアリズム
高度経済成長期のスナップ・ショット
闘争と「戦後」の終わり
アレ・ブレ・ボケとコンボラ写真、そして平成へ



チラシ



広報印刷物デザイン：山崎つよし

撮影：木暮伸也

主催：アーツ前橋

特別協力：横浜美術館

会場：アーツ前橋

会期：平成30年7月6日(金)~9月3日(月)

開催日数：52日

入場者数：3,089人

出品作品数：335件(関連資料類を含む/貸出参照 pp.57-64)

出展作家：30人、4件

秋山庄太郎
荒木経惟
安藤不二夫
石内 都
石川真生
奥村泰宏
金村 修
アンリ・カルティエ=ブレッソン
木村伊兵衛
ロバート・キャパ
桑原甲子雄
渋谷龍吉
須田一政
土田ヒロミ
常盤とよ子
土門 拳
中川一夫
中平卓馬
浜口タカシ
濱谷 浩
林 忠彦
原田正路
福田勝治
福原路草
藤本四八
堀 不佐夫
緑川洋一
森村泰昌
師岡宏次
八木 治

『アサヒグラフ』

『NIPPON』

『NIPPON』他のためのコンタクト・プリント

『フォトアート』

担当：木村絵理子、庄司尚子

小冊子：29頁

発行：アーツ前橋

執筆：住友文彦「ごあいさつ」

逢坂恵理子「『昭和の肖像』展に寄せて」

木村絵理子「都市を視る昭和の写真—原節子からハラセツコへ」

New Artist Picks 氷になる直前の、氷点下の水は、蝶になる直前の、さなぎの中は、詩になる直前の、横浜美術館は。——最果タビ 詩の展示

当館では、将来活躍が期待される若手作家を、いち早く取り上げる展覧会「New Artist Picks(NAP)」を、毎年開催しています。平成30年度は、言葉を用いて多種多様な表現活動を行う作家、最果タビ(さいはて・たひ/1986年生まれ)を取り上げました。

最果にとって美術館での初の個展となった本展は、「詩は読み手によってはじめて完成する」という最果の思想の核心部分を、横浜美術館内の入場無料エリア3ヶ所を用いて空間に展開する試みとなりました。まず、第一会場のアートギャラリー1では言葉をのせたモビールを空間全体に配置し、来場者の動きによって立ち現れる詩が刻々と変化する新作のインスタレーションを発表。第二会場のCafé小倉山では、カフェの卓上に置き型のモビールを展示し、壁面には1秒ごとに詩が組み変わる映像作品を投影しました。さらに第三会場の美術情報センターでは、最果の詩が背表紙に印刷された本を、一般図書の中に紛れ込ませて展示したり、最果が詩作を行う様子を記録した動画や、これまでに刊行された書籍、執筆物をまとめたファイル等の資料を公開したりしました。

また会期中には、女優の青柳いづみによる詩の朗読と、最果、青柳、ライターの武田砂鉄によるトークイベントを開催し、最果が生み出す言葉を、文字という視覚的な要素だけではなく、声という聴覚的な媒介を通して提示する機会も設けました。

- 主催：横浜美術館
- 会場：アートギャラリー1(メイン会場)、Café小倉山 美術情報センター
- 助成：野村財団
- 協賛：株式会社 資生堂
- 協力：株式会社リトルモア、有限会社 mother tool、Café小倉山
- 出品協力：株式会社マイナビ出版
- 会期：平成31年2月23日(土)-3月24日(日)
*3月21日(木・祝)は開館、3月22日(金)は休館
*3月2日(土)は20時30分まで夜間開館
- 開催日数：26日
- 観覧料：無料
- 入場者数：30,368人(メイン会場10,352人)
- 出品作品数：5件
- 出展作家：1人
最果タビ
- 担当：日比野民蓉
- リーフレット：14頁
- 発行：横浜美術館
- 編集：横浜美術館
- 執筆：日比野民蓉「果てのない瞬間—抵抗する最果タビ」



DM



広報印刷物・リーフレットデザイン：
佐々木俊+中西洋子 (AYOND)

撮影：山城功也 (p.26 ❖ 除く)

リーフレット

調査研究・普及活動(個人)

紀要

横浜美術館研究紀要

第20号, 2019年

83頁

発行日:平成31年3月31日(日)

発行部数:500部

掲載論文:

- ・森 未祈「横浜市民ギャラリー所蔵の漫画作品について—『ヨコハマ漫画フェスティバル』(1978年)との関係を中心に」
- ・三ツ山一志(横浜市民ギャラリー)「鑑賞活動は子どもの何を育てるのか」
- ・柏木智雄「[[資料紹介] 下村観山画房日記『日記帳』」



収藏品目録

収藏品目録2017年(平成29年度)

25頁

発行日:平成31年3月19日(火)

発行部数:500部



普及活動(個人)

◎執筆・寄稿

逢坂恵理子

- ・アイ・ウェイウェイ映画「ヒューマンフロー 大地漂流」コメント(公式ウェブサイトに掲載), プレイタイム

柏木智雄

- ・「追悼 宮崎進先生」,『美術年鑑2019年版』, 株式会社美術年鑑社

沼田英子

- ・Mary Cassatt 'Summer Time 1894', *Conversations with the Collection, A Terra Foundation Collection Hand book*, 2018 Terra Foundation of American Art, pp.154-155

関 淳一

- ・連盟ニュース第466号「工房探訪シリーズ」, 一般社団法人日本美術家連盟, 2018年4月号

八柳サエ

- ・「第27回奨学生美術展に寄せて」図録, 公益財団法人佐藤国際文化財団佐藤美術館 第27回奨学生美術展

中村尚明

- ・「イサム・ノグチと神奈川」, 有隣堂情報誌『有隣』, 2018年7月号

松永真太郎

- ・ウェブ版「美術手帖」内「MAGAZINE」, 「石田尚志展」レビュー, 2018年11月

端山聡子

- ・高等学校「美術3」教授資料, 「2017年度の中高生プログラム」, 光村図書出版株式会社

木村絵理子

- ・『ArtCollectors's』特集「期待の新人アーティスト」内, 「批評家・文筆家が注目の“この若手!”」, 生活の友社, 2018年4月号
- ・Penシネマ「ザ・スクエア」レビュー, CCCメディアハウス, 2018年5月15日発売号

- ・“Unfinished Topography/Collection: Takashi Kawashima”, FOAM Magazine: *Talent issue*, 2018年

片多祐子

- ・「戦後日本の美術・文学・音楽の交差点」, 『美術の窓』, 生活の友社, 2018年2月号
- ・「モノクロームから色彩へ: ルンドンへの憧憬」, 『美術の窓』, 生活の友社, 2018年9月号

長谷川珠緒

- ・「美術系施設の実例」, 『展示学事典』, 丸善出版, 2018年

日比野民蓉

- ・崔 燁「韓国近代仏画の大衆布教的性格」(『美術研究』425号, 東京文化財研究所, 2018年)の韓国語から日本語への翻訳
- ・ウェブ版「美術手帖」内「MAGAZINE」, 「ことばをながめる、ことばとあるく—詩と歌のある風景」展レビュー, 2018年11月

◎発表・講演会・シンポジウム

逢坂恵理子

- ・「DIVE DIVERSITY SESSION 3 参加の本質」, 渋谷ヒカリエ, 9月17日(月祝)
- ・「不確かな時代、アートは何ができるのか〜現代アートの巨人・蔡國強と9万9000本の桜」, 毎日ホール(毎日新聞), 12月11日(火)

沼田英子

- ・ジャポニズム学会, 第8回畠山シンポジウム「ジャポニズムと女性」ティスカッション・パネリスト, 10月6日(土)

帆足亜紀

- ・ミュージアム・ガイド・フォーラム(モスクワ)パネリスト, 6月1日(金)
- ・朝日教育会議2018「世界へ発信する日本の魅力」パネリスト, 11月11日(日)
- ・サンクトペテルスブルク・ピエンナーレ・オブ・ミュージアムデザイン「教育プログラム」講演, 11月17日(土)-21日(水)

山崎 優

・フォーラム&ワークショップ「芸術と社会をつなぐー平等・多様性・包摂が開く、私たちの未来」～日本とスコットランドの実践から～プレゼンテーション登壇, アーツ・コミッション・ヨコハマ財団, 2月19日(火)

片多祐子

・文化資源学会シンポジウム「スマホで覗く美術館ー鑑賞体験のゆくえー」登壇, 「武者小路実篤の『夢』から100余年ー日本におけるロダン《接吻》の鑑賞をめぐる」発表, 東京大学本郷キャンパス国際学術総合研究棟, 7月14日(土)

端山聡子

・平成30年度文化庁事業佐賀モバイル・アカデミー・オブ・アート(SMAART)における講演会講師, 佐賀大学本庄キャンパス, 12月8日(土)

◎非常勤講師等**柏木智雄**

・慶應義塾大学文学部, 博物館経営論非常勤講師
・武蔵野美術大学日本画学科研究室, 絵画実習Ⅵ・日本画研究Ⅲ 特別講師
・横浜美術大学, 美術保存Ⅰ「臨床保存修復論Ⅰ」, 美術保存Ⅱ「臨床保存修復論Ⅱ」
・京都造形芸術大学, 通信教育部歴史遺産コース「絵画と日本文化b」非常勤講師

沼田英子

・藝術学舎京都造形芸術大学, 「人はなぜヌードを描くのか、見たいのか」第4回「ヌード展」を通して裸体表現の変遷を見る, 5月29日(火)

関 淳一

・第3回カナカツ秋の美術展ワークショップ講師
・NPO法人コロンプスアカデミー, 第1回イソカツ美術展ワークショップ講師, 1月16日(水)・2月9日(土)
・特定非営利活動法人STスポット横浜, 「障害者と芸術鑑賞」講演, 2月20日(水)

山崎 優

・平成30年度神奈川県私立幼稚園連合会中堅教諭対象講習会「造形と工作」, 5月16日(水)・6月20日(水)・9月19日(水)
・平成30年度神奈川県公立幼稚園・こども園新規採用教員研修会「幼児の表現活動のあり方」, 6月5日(火)
・平成30年度磯子区保育士研修会「春から夏にかけての造形活動」, 6月23日(土)
・平成30年度小学校図画工作科夏季実技研修, 7月24日(火)・25日(水)
・横浜市小学校特別支援教育研究会実技研修会「造形活動を楽しもう」, 8月17日(金)
・平成30年度「中堅教諭対象講習会出張研修会」講師, 小田原支部10月31日(水)・大和支部11月14日(水)
・横浜市特別支援学校教育研究会実技研修会「障害のある子どもたちとの造形活動」, 12月15日(土)
・和泉短期大学 子育てひろば「はっぴい」親子で楽しむ造形活動(子育て支援プログラム) 講師, 1月12日(土)

八柳サエ

・法政大学国際文化学部, 「社会と美術」非常勤講師, 7月4日(水)
・平成30年神奈川県内市町村図書館等職員研修講師, 10月5日(金)
・「ミュージアムの未来と専門図書館: ミュージアムライブラリーの機能と使命を問う」(第20回図書館総合展フォーラム) 講師, 10月31日(水)
・岡倉天心市民研究会第26回研究会「天心と大正期の院展画家たち」講

師, 8月25日(土)

端山聡子

・「国際芸術祭実施に向けてのろう者の芸術活動推進事業2018」講師, 8月11日(土祝)
・早稲田大学, 博物館教育論(学芸員夏季)A 非常勤講師, 8月9日(木)・10日(金)
・特定非営利活動法人STスポット横浜, 「美術館と子どもたちをつなぐ」講師, 1月16日(水)
・九州国立博物館, こども☆ひかりプロジェクト研究交流会 in きゅーはく2019「近未来予想図～ミュージアムで夢を語る～」における講演, 2月3日(日)
・多摩美術大学, 「生涯学習R(前期)」「美術普及概論(後期)」非常勤講師
・多摩美術大学, 「PBL 五感を刺激するワークショップ実践(通年)」

木村絵理子

・共立女子大学, 博物館学概論02 非常勤講師
・「国際芸術祭実施に向けてのろう者の芸術活動推進事業2018」非常勤講師, 8月12日(日)

庄司尚子

・横浜トリエンナーレサポーター事務局, 「サポーターズサロン」講師, 10月17日(水)

櫻庭瑠実

・東北生活文化大学, 学芸課程の授業「博物館実習Ⅰ」(美術館の教育普及活動について) 講義, 1月18日(金)

坂本恭子

・文教大学国際学部, アート・マネジメント論(春学期集中講義) ゲスト講師, 8月21日(火)
・京都造形芸術大学通信教育部, 博物館学芸員課程(スクーリング講義) 非常勤講師, 12月1日(土)・2日(日), 1月13日(日)・14日(月祝)

長谷川珠緒

・宮城県美術館, 平成30年度宮城県美術館講座「美術を楽しむキーワード: ヌード/裸婦」(全3回講座) における第1回講師, 3月2日(土)

江口みなみ

・筑波大学, 体育専門学群春学期AB講座「オリンピックにおける芸術競技」非常勤講師, 5月14日(月)
・筑波大学, 博物館学Ⅲ非常勤講師, 7月29日(日)

◎委員・審査員等**逢坂恵理子**

・東京国立近代美術館評議員
・国立西洋美術館評議員
・一般財団法人地域創造理事
・公益財団法人東京都歴史文化財団アーツカウンシル東京, 「アーツカウンシル東京」カウンシルボード委員
・東京都現代美術館 美術資料収蔵委員会(コレクション部門) 委員
・金沢21世紀美術館美術品収集委員会委員
・大阪市特別参与
・大阪大学COデザインセンター外部委員
・福岡市美術館収集審査委員
・京都服飾文化研究財団評議委員
・鹿島美術財団理事
・高松宮殿下記念世界文化賞アジア委員会推薦委員(絵画/彫刻部門)

調査研究・普及活動（個人）

- ・京都賞思想芸術部門審査委員会委員
- ・みずほ総合研究所株式会社, 平成30年度文化庁「持続的な博物館経営に関する調査」の企画評価委員
- ・International Biennale Association 理事

柏木智雄

- ・東京国立近代美術館美術作品購入等選考委員
- ・芸術文化振興基金運営委員会, 美術専門委員会, 多分野共同等専門委員会専門委員
- ・公益財団法人馬事文化財団馬事博物資料審査委員会審査委員
- ・横須賀美術館運営評価委員

沼田英子

- ・版画学会運営委員

帆足亜紀

- ・藤沢市アートスペース「Artists in FAS 2018」審査員
- ・せんだいメディアテーク「せんだい・アート・ノード・プロジェクト」アドバイザー
- ・埼玉県立近代美術館協議会委員

関 淳一

- ・神奈川県民共済生活協同組合「第25回夏休みに描く絵画コンクール」審査員
- ・ふなばしアンデルセン公園子ども美術館運営審議会委員

八柳サエ

- ・アート・ドキュメンテーション学会2019-20年度役員選出委員
- ・川越市立美術館美術品等選考評価委員会委員
- ・公益財団法人佐藤国際文化教育英財団佐藤美術館奨学生選考委員

内山淳子

- ・横浜市青葉区「青葉アートカンファレンス」検討会議委員

松永真太郎

- ・東京都写真美術館「東京都写真美術館恵比寿国際映像祭あり方検討委員会」検討委員
- ・東京都写真美術館「平成29年度東京都写真美術館作品資料収蔵委員会評価部会」評価部会委員
- ・東京国立近代美術館美術作品評価員(写真部門)

端山聡子

- ・第20回カナガワビエンナーレ国際児童画展2019第一次審査会審査員
- ・文化庁地域文化創生本部事務局伝統文化親子教室事業協力者会議委員
- ・文化庁地域文化創生本部事務局伝統文化親子教室事業(地域展開型)委託業務企画案選定委員会委員

木村絵理子

- ・アートアワードトーキョー丸の内2018審査員
- ・あいちトリエンナーレ地域展開事業実行委員会若手育成事業「アーツ・チャレンジ2019」審査員
- ・「8th EMON AWARD」審査員
- ・「NONIO ART WAVE AWARD 2019」審査員
- ・NPO法人アーツイニシアティヴトウキョウ「AIT/エイト」「日産アートアワード2020」作家推薦委員
- ・アジア・カルチュラル・カウンシル2019年度個人フェロシップ美術部門審査員

◎その他

逢坂恵理子

- ・「国際文化交流の祭典の実施の推進に関する基本的な計画の策定に係るヒアリング」, 文部科学省, 9月21日(金)

柏木智雄

- ・法政大学キャリアデザイン学部科研費研究会「公設財団法人のガバナンス改革と博物館・美術館のコレクション管理の現状と課題」パネリスト

帆足亜紀

- ・国際交流基金アジアセンタートークイベント Condition Report 連続トーク2「表象と参画の方法論」モデレーター

八柳サエ

- ・多摩美術大学校友会「第12回多摩美術大学校友会チャリティ展覧会」小品展トーク・ショー登壇

端山聡子

- ・京都市勧業館「みやこメッセ」, 「ミュージアムキッズ! 全国フェア」キッズフェア・ワークショッププログラム運営指導
- ・中国成都におけるシンポジウム「子どもたちのための教育プログラムのプランニングと創造的な実践」発表

樺川文恵

- ・横浜美術大学保存修復コース「クリエイター・サバイバル論」授業内講義および技術指導者

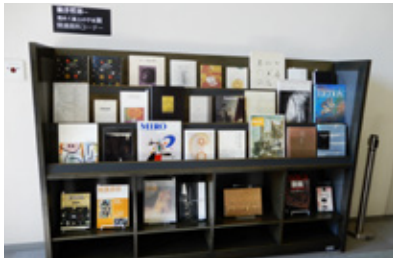
片多祐子

- ・文化資源学会座談会「スマホで覗く美術館」出席

美術情報センターの活動



エミール・オルリク展示風景



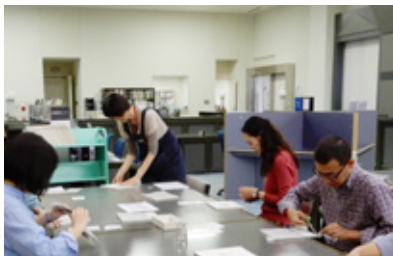
駒井展関連資料コーナー



学生研修



1日ボランティア蔵書点検作業



1日ボランティア作業風景



神奈川県立図書館研修

美術情報センターは、美術に関する図書資料、映像資料等を収集、整理、保存し、市民や研究者の利用に供することを目的としています。また、所蔵資料を活用し、コレクション展との連携を行っています。

開室時間：10:00～18:00（入室および各種利用受付17:30まで）

* 年末年始及び特別整理期間は休室

収集・整理・保存・利用状況

収集実績

	購入	寄贈	合計
和書	73冊	664冊	737冊
洋書	52冊	84冊	136冊
和カタログ	5冊	1,556冊	1,561冊
洋カタログ	5冊	180冊	185冊
収集総数			2,619冊
蔵書総数			115,723冊

逐次刊行物 3,339タイトル

利用状況

開室日数	299日
利用者数	45,151人
レファレンス	1,702件
閉架資料利用	2,838冊
コピー利用	675件
ビデオ利用	71件
マイクロ資料利用	11件

特別整理期間

期間：9月25日(火)～10月5日(金)

概要：閉架書庫3F洋書約15,000冊と閉架書庫2F洋カタログ約21,400冊の点検を実施

特別開室

11月1日(木)

※美術情報センター見学ツアー受入のため
(図書館総合展3日間各日1回、延べ30人受入)

所蔵資料貸出

美術情報センター外への所蔵資料貸出

*「美術品の収集、保存・修復、貸出」の貸出参照(pp.54-66)

資料展示・公開等

特別資料展示(ガラス展示ケース)

●ヌード展連動企画

『ジョルジュ・スーラの素描集』に見るヌードと人の形

3月23日(金)～10月10日(水)

前期：3月23日(金)～7月18日(水) 18点

後期：7月20日(金)～10月10日(水)
約18点

●駒井展連動企画

「エミール・オルリク作『日本便り』(複製版画集)

10月12日(金)～3月24日(日) 17点

資料展示架

●モノ展 出品作家関連資料コーナー

8月1日(水)～10月26日(金) 30点

●駒井展 出品作家関連資料コーナー

10月27日(土)～1月25日(金) 30点

●ノグチ長谷川展 関連資料コーナー

1月26日(土)～4月17日(水) 30点

コレクション展関連資料コーナー

●「もっと知りたい! コレクションされた作家たち。」

3月23日(金)～7月31日(火) 49点

宮川香山 16点

金氏徹平 10点

牛田雞村 10点

石川直樹 13点

●「見比べるとおもしろい! 一引用されたイメージとその転化」

8月1日(水)～12月28日(金) 41点

●「リズム、反響、ノイズのかたち」

1月14日(月祝)～4月17日(水) 34点

講師派遣

第20回 図書館総合展

日時：10月30日(火)～11月1日(木)

会場：パシフィコ横浜 アネックスホール

講演日：10月31日(水) 10:00～11:30

登壇者：八柳サエ

美術情報センターの活動

活動紹介および見学会・研修受入れ

美術情報センター 2018年度学生研修

日時:8月3日(金) 13:30~16:00

参加人数:6人(法政大学,筑波大学大学院)

美術情報センター1日ボランティア

*市民協働 ボランティア 参照(p.47)

神奈川県立図書館主催

県内市町村図書館職員研修受入れ

日時:10月5日(金) 13:30~16:00

参加人数:25人

第20回図書館総合展運営委員会主催

横浜美術館美術情報センター見学ツアー受入

日時:10月30日(火)-11月1日(木)

参加人数:12人,13人,10人

トークイベント

市民のアトリエ共同講座 ライブラリー・トーク
「セルフポートレートと写真集」

*市民のアトリエ ワークショップ ライブラリー・トーク 参照(p.44)

アーティストの展示

最果タヒ展

NAPの会場の1つとして、最果タヒの詩を書架に計3ヶ所展示、最果タヒの創作に使用のスマートフォンを展示。

*New Artist Picks 最果タヒ展 参照(pp.26-27)

施設情報掲出

第20回 図書館総合展

日時:10月30日(火)-11月1日(木)

10:00~18:00

会場:パシフィコ横浜

教育普及事業

概要

横浜美術館の教育普及活動は、開館以来実績を積み上げてきた造形プログラムに、鑑賞プログラムを組み合わせ、特色ある事業を展開しています。また、学校教育や環境啓発・医療・福祉など、地域や社会と連携した新しい取組みも積極的に行っています。

子どものアトリエは、小学校6年生(12歳)までの子どもを対象とした創造の場です。「自分の目で見て、自分の手で触れ、自分でやってみる」ことを造形美術の基本と考え、遊びを通したさまざまな造形体験を提供しています。「プレイルーム」「クラフトルーム」「光と音のスタジオ」において、平日には幼稚園・保育園、小学校、特別支援学校などの教育機関と連携し造形や鑑賞の活動を行う「学校のためのプログラム」を、休日には個人を対象とした「親子のフリーゾーン」や「造形講座」を行っています。春と夏には「教師のためのワークショップ」を開催し、指導者への研修事業に取り組んでいます。

市民のアトリエは、12歳以上が対象で、市民と作家あるいは市民と市民が、美術の「つくる」プロセスを通して出会う場です。展覧会や美術作品への理解を深めるため、年間を通じて企画展やコレクション展と関連する内容ははじめ多彩な実技講座を開催しています。平面室は、絵画制作を中心に、さまざまな表現による作品制作を行うスペースです。立体室には、彫塑をはじめ、各種の立体制作を行う設備が揃っています。版画室では、銅版画・リトグラフ・シルクスクリーン・木版の各版種を本格的に制作することができます。

教育プロジェクトは鑑賞を中心にしたプログラム展開をしています。エドゥケーターのもつさまざまな専門性をベースにしたコレクション展ギャラリートークの実施、ボランティアによる企画展事前ガイダンス、中高生の年代を対象にした個人向けや学校向けプログラムなどを提供し鑑賞をサポートしています。また、学校教育や地域福祉関係の支援団体との連携、ボランティア活動を中心とした市民協働など、美術館を地域に開き市民生活に繋げていく取組みを行っています。

平成30年度の総括

市民のアトリエは、今年開催された4つの企画展すべてに対し、作品をより深く多面的に鑑賞できるよう、彫刻、デッサン、写真、版画、拓本の関連ワークショップを企画・実施しました。高齢者福祉施設へのアウトリーチ、横浜市の「横浜みどりアップ計画」に関連した取組みも継続しています。初の試みとして美術情報センターの所蔵資料と場を活用した写真家によるライブラリートークを実施しました。

子どものアトリエは、通常の基幹事業の運営のほか、他ジャンルであるパーカッション奏者、コレクション展出品作家とのアーティスト連携講座、学芸グループや市民のアトリエとの協働で企画展関連の鑑賞・造形講座などを開催しました。アウトリーチでは病院など医療施設や、近隣企業での造形ワークショップを実施しました。

教育プロジェクトは、ボランティアの育成に継続的に取り組み、一般来館者を対象にした企画展事前ガイダンスに英語トークを加えるなど、新たな市民協働の場を創出しました。美術科教師とともにコレクション作品で授業を行う指導案作りや、中高生プログラム、社会的自立に困難を抱える若者や、特別支援学校(中・高等部)などユース世代を対象とした鑑賞活動も継続しています。

教育普及グループ全体の取組みとして、より社会とのつながりを意図した展開をしました。





企画展

◎ヌード展

記念講演会「裸とヌード 美術作品におけるヌード、その新たな位置づけ」

日時：平成30年3月24日(土) 14:00～15:30

講師：エマ・チェンバース（テート学芸員／本展監修者）

会場：レクチャーホール

参加人数：163人

講演会「豊麗多彩なヌード芸術」

日時：5月19日(土) 14:00～15:30

講師：高階秀爾（美術史家／大原美術館館長）

会場：レクチャーホール

参加人数：220人

ギャラリートーク

日時：(各金曜) 4月13日 15:00～15:30

5月11日, 6月8日 18:30～19:30

担当：沼田英子, 片多祐子, 長谷川珠緒

会場：企画展展示室, グランドギャラリー

参加人数：50人, 75人, 110人

夜の美術館でアートクルーズ

日時：4月21日(土) 17:30～20:30

担当：長谷川珠緒

会場：レクチャーホール, 展示室

参加費：3,500円

参加人数：151人

アート鑑賞入門レクチャー

「ヌード展って何がスゴイの?」

日時：6月10日(日) 13:30～14:30

聞き手：アートテラー・とに～

担当：沼田英子

会場：円形フォーラム

参加人数：83人

動画配信アクセス 約1,000人

常時アクセス 約60人

ワークショップ「ロダンの《接吻》をデッサンしよう!」

*市民のアトリエ ワークショップ 展覧会関連ワークショップ 参照(p.44)

◎モネ展

アーティストトーク

日時：7月14日(土) 14:00～15:30

出演：水野勝規, 湯浅克俊

聞き手：松永真太郎

会場：円形フォーラム

参加人数：78人

アーティストトーク

日時：7月29日(日) 14:00～15:30

出演：小野耕石, 児玉麻緒

聞き手：松永真太郎

会場：円形フォーラム

参加人数：115人

記念講演会「モネに潜在するもの、その複数性」

日時：8月26日(日) 14:00～15:30

講師：林 道郎（美術史・美術批評／上智大学教授）

会場：レクチャーホール

参加人数：164人

ギャラリートーク

日時：(各金曜) 7月20日, 8月3日・31日

14:00～14:30

9月15日(土) 18:30～19:00

担当：坂本恭子, 松永真太郎

会場：レクチャーホール(7月20日, 8月3日)

円形フォーラム(8月31日)

企画展展示室(9月15日)

参加人数：160人, 155人, 165人, 125人

夜の美術館でアートクルーズ

日時：8月25日(土) 17:30～20:30

担当：松永真太郎

会場：レクチャーホール, 企画展展示室

参加費：3,500円

参加人数：177人

ジュニアガイド

「モネのジェットコースター人生」

発行：7月6日(金)

発行部数：210,000部

ウェブダウンロード公開：7月17日(火)

ワークショップ「モネの眼、写真の眼」

*市民のアトリエ ワークショップ 展覧会関連ワークショップ 参照(p.44)

ワークショップ

親子講座「モネさんの《睡蓮》に挑戦!」

*子どものアトリエ 個人の造形・鑑賞講座 展覧会関連ワークショップ 参照(p.42)

中高生プログラム2018

「美術を体験しよう! 伝えよう!」

・美術を体験する編

日時：(各日曜) 6月17日, 7月8日・29日, 8月5日 10:00～14:00

・子ども探検隊 企画・準備編

日時：(各日曜) 8月12日・19日 10:00～14:00

・子ども探検隊 本番

日時：8月22日(水) 9:30～14:30

・まとめ

日時：9月9日(日) 10:00～12:00

・番外編・記録誌編集委員会

日時：(各日曜) 10月28日, 11月4日

10:00～11:30

3月30日(土) 10:30～12:00

講師：6月17日(日)

岡崎大輔（京都造形芸術大学 アート・

コミュニケーション研究センター）

7月8日(日)

深谷克典（名古屋市美術館副館長）

松永真太郎

7月29日(日) 小野耕石（美術家）

8月5日(日) 松本陽子（画家）

11月4日(日) 森上 暁（NDCグラフィックス

クス デザイナー）

担当：森 未祈, 端山聡子

会場：8階, 企画展展示室

※11月4日(日)のみNDCグラフィックス

対象：中学生, 高校生

参加費：500円

参加人数：21人, 20人, 16人, 19人, 16人, 15人,

17人, 13人, 8人, 11人, 8人

美術を楽しむ! 子ども探検隊2018

日時：8月22日(水) 10:00～14:00

担当：森 未祈, 端山聡子

会場：8階, 企画展展示室

対象：小学生4～6年生

参加費：無料

参加人数：24人



ヌード展 アートクルーズ



モネ展 アーティストトーク



中高生プログラム



子ども探検隊 撮影：加藤健



駒井展 トークと詩の朗読



ノグチ長谷川展 オープニング・リレートーク

◎駒井展

講演会「師・駒井哲郎の人と作品—銅版とPas de deux」

日時:10月13日(土) 14:00~15:30

講師:中林忠良(銅版画家)

会場:レクチャーホール

参加人数:123人

トークと詩の朗読「画から言葉が生まれるとき」

日時:11月10日(土) 14:00~15:30

ゲスト:文月悠光(詩人)

会場:円形フォーラム

参加人数:55人

ギャラリートーク

日時:10月26日(金),11月17日(土),12月1日(土)
14:00~14:30

11月23日(金祝) 18:30~19:00

担当:片多祐子, 日比野民蓉

会場:企画展展示室

参加人数:35人,40人,40人,34人

ワークショップ

親子講座「小さな銅版画—モノタイプ版画に挑戦!」

*子どものアトリエ 個人の造形・鑑賞講座
展覧会関連ワークショップ 参照(p.42)

デモンストレーション&トーク

「駒井哲郎 版に刻まれた世界」

*市民のアトリエ ワークショップ 展覧会関連ワークショップ 参照(p.44)

銅版画創作体験「メゾチント」

*市民のアトリエ ワークショップ 展覧会関連ワークショップ 参照(p.44)

◎ノグチ長谷川展

オープニング・リレートーク「変わるものと変わらざるもの—1950年代のノグチと長谷川」

日時:1月13日(日) 13:30~16:00

講師:マシュー・カーシュ(ノグチ美術館キュレーター)

マーク・ティーン・ジョンソン(サンフランシスコ州立大学教授)

中村尚明

会場:レクチャーホール

参加人数:104人

記念講演会「長谷川三郎 人と芸術」「甲南学園 長谷川三郎記念ギャラリーについて」

日時:2月16日(土) 14:00~15:30

講師:森田啓子(甲南学園 長谷川三郎記念ギャラリー)

中村尚明

会場:円形フォーラム

参加人数:64人

スライドレクチャー「イサム・ノグチの1950年代を中心に」

日時:3月3日(日) 14:00~15:30

講師:中村尚明

会場:円形フォーラム

参加人数:42人

ギャラリートーク

日時:(各金曜)2月1日・15日,3月15日

14:00~14:30

3月2日(土) 18:30~19:00

担当:中村尚明, 大澤紗蓉子, 江口みなみ

会場:企画展展示室

参加人数:21人,26人,43人,18人

ワークショップ「日本美とモダンの接点を求めて…展覧会鑑賞と作品制作を通じてノグチと長谷川の神髄に迫る」

*市民のアトリエ ワークショップ 展覧会関連ワークショップ 参照(p.44)

ボランティアトーク「展覧会・ココがみどころ!」
ボランティアによる展覧会紹介(英語)

「Talk in English Exhibition Highlights!」

*鑑賞サポート ボランティアによるトーク 参照(p.39)

コレクション展

◎2018年3月24日(土)~6月24日(日)

スペシャルトーク「佐々木豊、ヌードを語る」

日時:4月27日(金) 14:00~15:00

講師:佐々木 豊(画家)

聞き手:内山淳子, 柳川文秀

会場:円形フォーラム

参加人数:85人

アーティストトーク

日時:5月20日(日) 14:00~15:00

講師:石川直樹(写真家)

聞き手:日比野民蓉

会場:円形フォーラム, コレクション展展示室

参加人数:42人

ギャラリートーク

日時:(各金曜)4月13日,5月11日・25日,

6月8日・22日 14:00~14:30

担当:内山淳子, 関 淳一, 山崎 優, 太田雅子
端山聡子

会場:コレクション展展示室

参加人数:55人,41人,24人,36人,70人

◎2018年7月14日(土)~12月16日(日)

アーティストトーク

日時:7月21日(土) 15:00~16:00

講師:中村一美(画家/多摩美術大学教授)

聞き手:八柳サエ

会場:ホワイエ, コレクション展展示室

参加人数:55人

ギャラリートーク

日時:(各金曜)7月27日,8月10日・24日,

9月14日,11月9日・23日,12月14日

14:00~14:30

10月26日 15:00~15:30

担当:八柳サエ, 太田雅子, 森 未祈, 櫻庭瑠実
関 淳一, 端山聡子, 大岩久美, 高徳早矢香

会場:コレクション展展示室

参加人数:47人,44人,33人,54人,36人,
13人,13人,18人

特別支援学校のためのプログラム

港南台ひの特別支援学校

日時:12月14日(金) 10:00~12:00

担当:森 未祈, 端山聡子, 関 淳一

会場:8階, 展示室

参加人数:28人

◎2019年1月4日(金)-3月24日(日)

アーティストトーク&パフォーマンス

日時:1月20日(日) 14:00~15:30

出演:八木良太

聞き手:木村絵理子

会場:円形フォーラム

参加人数:50人

ギャラリートーク

日時:(各金曜)1月25日,2月8日・22日,

3月8日 14:00~14:30

担当:木村絵理子, 関 淳一, 森 未祈, 木下貴博

会場:コレクション展展示室

参加人数:25人,14人,18人,17人

特別支援学校のためのプログラム

日野中央特別支援学校

日時:3月3日(日) 10:00~12:00

担当:関 淳一, 端山聡子

会場:8階, 展示室

参加人数:13人

親子講座「音をつなげる、音をひっかく」

*子どものアトリエ 個人の造形・鑑賞講座
展覧会関連ワークショップ 参照(p.42)

New Artist Picks

◎最果タヒ展

朗読+トーク「詩が届く直前の、あなたは。」

日時:2月23日(土) 14:30~16:00

出演:青柳いづみ(女優), 武田砂鉄(ライター)

※最果タヒは登壇せず、遠隔からの
ライブ参加。

聞き手:日比野民蓉

会場:円形フォーラム

参加人数:122人



コレクション展 スペシャルトーク(佐々木豊)



NAP 最果タヒ展 朗読+トーク



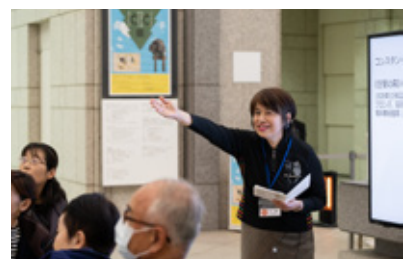
アーティストトーク&パフォーマンス(八木良太)



親子講座 横浜美術館鑑賞クラブ



教師のためのワークショップ 撮影:加藤 健



展覧会・ココがみどころ!

子ども鑑賞サポート

◎個人向け鑑賞講座

わくわく日曜鑑賞講座
親子講座 横浜美術館鑑賞クラブ
「美術ってなんじゃもんじゃ?」

●低学年1日コース

日時:9月2日(日) 14:00~16:00
講師:柳川文秀, 高德早矢香, 大岩久美
会場:子どものアトリエ,コレクション展示室
参加費:親子2名で1,000円(1人追加で+500円)
対象:小学校1~3年生と保護者
参加人数:33人

●高学年2日間コース

日時:(各日曜)9月9日・16日 14:00~16:00
講師:柳川文秀, 高德早矢香, 大岩久美
会場:子どものアトリエ,コレクション展示室
参加費:親子2名で2,000円(1人追加で+1,000円)
対象:小学校4~6年生と保護者
参加人数:29人/回

◎子どものための展覧会

子どものアトリエコレクション2018
進藤貞雄の針金造形展
期間:4月8日(日)-3月17日(日)
会場:子どものアトリエ内ギャラリー

学校連携

◎横浜美術館コレクションと学校をつなぐ鑑賞会

日時:(各土曜)5月19日,9月8日,1月26日
担当:関 淳一, 端山聡子, 太田雅子
会場:アートギャラリー2
参加人数:11人,22人,9人

◎横浜美術館コレクションを活用した授業のための中学校・美術館合同研究会

日時:5月26日(土) 14:00~16:30
6月23日(土) 14:00~16:30
12月1日(土) 14:00~17:00
担当:太田雅子, 端山聡子
会場:8階セブションルーム
参加人数:7人,10人,20人
ウェブガイドダウンロード公開 3月26日(火)

◎子どものアトリエ

教師のためのワークショップ
日時:夏期講座7月28日(土)・29日(日)
春期講座3月23日(土)・24日(日)
10:00~16:00
監修:三ツ山一志(横浜市芸術文化振興財団子ども事業企画会議座長/横浜市民ギャラリー主席エデュケーター)
会場:子どものアトリエ
参加費:(夏期)1日6,000円、両日11,000円
(春期)各日1日6,000円
参加人数:76人・62人,40人・44人

保育士・教師を対象とした研修等

受入件数:8件
参加人数:456人
受入団体:神奈川県幼稚園連合会(3件)
神奈川県教育委員会
磯子区保育士会
横浜市小学校図画工作教育研究会(2日間連続)
横浜市小学校特別支援学校教育研究会
横浜市特別支援学校教育研究会

◎その他研修等

受入件数:6件
参加人数:343人
受入団体:横浜市小学校図工研究会総会
横浜市立中学校教育研究会美術科部会
横浜市小学校図画工作研修第70回夏季実技研修会(2日間連続)
横浜市中・高等学校美術科研修会(2件)

ボランティアによるトーク

◎個人向け

ボランティアトーク「展覧会・ココがみどころ!」
日時:2月以降の毎週火曜と土曜
11:00~11:15, 13:30~13:45,
14:30~14:45
(各土曜)2月2日・9日・16日・23日
3月2日・9日・16日・23日
(各火曜)2月5日・12日・19日・26日
3月5日・12日・19日
担当:太田雅子, 端山聡子, 森 未祈
会場:グランドギャラリー
実施回数:45回
参加人数:延べ1,102人

◎外国人向け

ボランティアによる展覧会紹介(英語)
「Talk in English Exhibition Highlights!」
日時:3月の毎週火曜と土曜 随時受付
各回5~10分程度
(各土曜)3月2日・9日・16日・23日
(各火曜)3月5日・12日・19日
担当:森 未祈, 端山聡子
会場:グランドギャラリー
実施回数:7回
参加人数:延べ90人

◎団体向け

ヨコビ探検隊「心の教育ふれあいコンサート」
参加者による美術館体験ツアー
日時:9月11日(火) 荏田東第一小学校
12日(水) 鶴ヶ峯小学校
港南台第一小学校
19日(水) 美しが丘東小学校
岩崎小学校
21日(金) 桂台小学校
富岡小学校
担当:太田雅子, 端山聡子
会場:横浜美術館内(企画展示室は除く)
対象:「心の教育ふれあいコンサート」に参加する小学5年生
参加人数:73人,88人,92人,65人,66人,
62人,94人

子どものアトリエ

学校のためのプログラム

造形プログラム(84校) [幼稚園・保育園38園/小学校29校/特別支援・各種学校17校]

時間: 10:00~14:00

会場: 子どものアトリエ

担当: 柳川文秀, 高德早矢香, 大岩久美

年間参加者数: 5,496人

4月20日(金)	横浜市かながわ保育園	24人	10月9日(火)	横浜市立新吉田小学校	106人
4月24日(火)	原幼稚園	151人	10月10日(水)	東京横浜独逸学園	43人
4月25日(水)	わかば保育園	52人	10月12日(金)	ヨコハマきぼう保育園	22人
4月27日(金)	保土ヶ谷区個別支援学級合同	112人	10月16日(火)	横浜市立鶴見小学校	127人
5月8日(火)	YMCA東とつか保育園	23人	10月17日(水)	千丸台保育園	25人
5月9日(水)	横浜市立能見台小学校	60人	10月19日(金)	横浜訓盲学院	47人
5月11日(金)	栄区個別支援学級合同	77人	10月23日(火)	ニューライフ幼稚園	113人
5月15日(火)	横浜市立小山台小学校	46人	10月24日(水)	横浜市立大豆戸小学校	89人
5月16日(水)	YMCAつるみ保育園	14人	10月26日(金)	横浜市立高田東小学校	58人
5月18日(金)	横浜市立神大寺小学校	139人	10月30日(火)	駒岡こども園	44人
5月22日(火)	ポピンズナーサリースクール馬車道	20人	10月31日(水)	横浜市立権太坂小学校	97人
5月23日(水)	横浜市立すすき野小学校	28人	11月6日(火)	横浜市立義務教育学校霧が丘学園小学部	112人
5月25日(金)	三ツ沢幼稚園	43人	11月7日(水)	横浜市立深谷小学校	92人
5月29日(火)	にじいろ保育園釜利谷	17人	11月9日(金)	あゆみ幼稚園	72人
5月30日(水)	鶴見区個別支援学級合同	91人	11月13日(火)	横浜市立石川小学校	57人
6月5日(火)	こすもす幼稚園	83人	11月14日(水)	横浜りとるばんがきんず	44人
6月6日(水)	横浜市立南太田小学校	76人	11月16日(金)	つくの幼稚園	61人
6月8日(金)	横浜市立永野小学校	111人	11月20日(火)	アメリカ山徳育こども園	24人
6月12日(火)	上の原保育園	30人	11月21日(水)	緑区個別支援学級合同	50人
6月13日(水)	わおわお大倉山保育園	34人	11月27日(火)	横浜市立白根小学校	129人
6月15日(金)	神奈川県立金沢養護学校	36人	11月28日(水)	ベネッセ矢向保育園	28人
6月19日(火)	横浜市立羽沢小学校	82人	11月30日(金)	神奈川県立横浜南養護学校	10人
6月20日(水)	聖坂養護学校	39人	12月11日(火)	横浜市立杉田小学校	104人
6月22日(金)	大谷学園幼稚園	78人	12月12日(水)	南区個別支援学級合同	102人
6月26日(火)	横浜市立北方小学校	111人	1月11日(金)	こんにちは・ありがとうえん	30人
6月27日(水)	わおわお保育園	29人	1月16日(水)	横浜市立中和田南小学校	126人
6月29日(金)	横浜市立笹野台小学校	96人	1月18日(金)	横浜市立ろう特別支援学校	45人
7月3日(火)	八幡橋幼稚園	30人	1月22日(火)	横浜市立岸谷小学校	123人
7月4日(水)	横浜市立本郷特別支援学校	65人	1月23日(水)	神奈川県立保土ヶ谷養護学校	59人
7月6日(金)	横浜市立東台小学校	172人	1月25日(金)	まめどくれっしゅ	64人
7月10日(火)	横浜市立すみれが丘小学校	49人	1月29日(火)	伸びる会幼稚園	35人
7月11日(水)	オハナ鶴ヶ峰保育園	31人	1月30日(水)	横浜市立城郷小学校	97人
7月13日(金)	にじの風保育園・うみの風保育園合同	54人	2月1日(金)	横浜市立北綱島特別支援学校	25人
9月7日(金)	港南つくしんぼ保育園	28人	2月5日(火)	ケンパ高田	13人
9月11日(火)	横浜市立阿久和小学校	34人	2月6日(水)	横浜市立南吉田小学校	112人
9月12日(水)	立正桜ヶ丘幼稚園	76人	2月8日(金)	しんよしだ保育園	42人
9月14日(金)	瀬谷区個別支援学級合同	86人	2月12日(火)	文庫幼稚園	83人
9月19日(水)	西区個別支援学級合同	111人	2月15日(金)	横浜市立二俣川小学校	94人
9月21日(金)	オハナ上永谷保育園	48人	2月19日(火)	たかた保育園	39人
9月25日(火)	横浜市立東中田小学校	93人	2月20日(水)	横浜市立中村特別支援学校	26人
9月28日(金)	横浜市立鶴志田緑小学校	80人	3月6日(水)	小桜愛児園	45人
10月5日(金)	関東幼稚園	62人	3月8日(金)	高木学園附属幼稚園	61人



学校のためのプログラム



親子のフリーゾーン 撮影：加藤 健



えのぐであそぼう



編み織りアート 撮影：加藤 健



日本画クラブ



親子講座「モネさんの《睡蓮》に挑戦！」

親子のフリーゾーン

日時：原則日曜 10:00～11:30

会場：子どものアトリエ

対象：小学生以下のお子さんとその保護者

参加費：小学生以下無料，保護者および中学生以上100円

年間参加者数：16,194人

4月8日(日)	466人	10月7日(日)	333人
4月15日(日)	320人	10月14日(日)	377人
4月22日(日)	550人	10月21日(日)	487人
5月6日(日)	521人	11月4日(日)	529人
5月13日(日)	443人	11月11日(日)	448人
5月20日(日)	413人	11月18日(日)	497人
6月3日(日)	498人	11月25日(日)	504人
6月10日(日)	373人	12月2日(日)	460人
6月17日(日)	470人	12月9日(日)	397人
7月1日(日)	464人	1月13日(日)	405人
7月8日(日)	548人	1月20日(日)	411人
7月15日(日)	564人	1月27日(日)	389人
8月5日(日)	644人	2月3日(日)	363人
8月19日(日)	505人	2月10日(日)	407人
8月26日(日)	383人	2月17日(日)	468人
9月2日(日)	362人	3月3日(日)	431人
9月9日(日)	382人	3月10日(日)	417人
9月16日(日)	499人	3月17日(日)	466人

個人の造形・鑑賞講座

担当: 柳川文秀, 高德早矢香, 大岩久美
 会場: 子どものアトリエ
 年間参加者数: 1,522人

【造形プログラム】

◎わくわく日曜造形講座

4月 花器をつくろう

日時:[3回] 4月8日・15日・22日
 14:00~16:00
 参加費: 5,500円
 対象: 小学校1~6年生
 参加人数: 20人/回

5月 えのぐであそぼう

日時:[3回] 5月6日・13日・20日
 14:00~16:00
 参加費: 4,000円
 対象: 小学校1・2・3年生
 参加人数: 23人/回

6月 木で車をつくろう

日時:[3回] 6月3日・10日・17日
 14:00~16:00
 参加費: 4,500円
 対象: 幼稚園・保育園の年長児
 参加人数: 20人/回

7月 編み織りアート

日時:[3回] 7月1日・8日・15日 14:00~16:00
 参加費: 4,500円
 対象: 小学校1・2・3年生
 参加人数: 21人/回

10月 でこぼこお絵かき

日時:[3回] 10月7日・14日・21日
 14:00~16:00
 参加費: 4,500円
 対象: 幼稚園・保育園の年長児
 参加人数: 21人/回

11月 紙工作に挑戦

日時:[3回] 11月4日・11日・18日
 14:00~16:00
 参加費: 4,500円
 対象: 小学校1・2・3年生
 参加人数: 21人/回

12月 透けるえのぐでかこう

日時:[3回] 11月25日, 12月2日・9日
 14:00~16:00
 参加費: 4,500円
 対象: 幼稚園・保育園の年長児
 参加人数: 21人/回

1月 多色版画に挑戦

日時:[3回] 1月13日・20日・27日
 14:00~16:00
 参加費: 4,500円
 対象: 小学校1・2・3年生

参加人数: 22人/回

2月 親子講座「親子アートクラブ」

日時:[3回] 2月3日・10日・17日
 14:00~16:00
 参加費: 親子2名で5,000円
 (1人追加で+1,500円)
 対象: 幼稚園・保育園の年長児と保護者
 参加人数: 63人/回

3月 紙粘土で見てつくろう

日時:[3回] 3月3日・10日・17日
 14:00~16:00
 参加費: 4,500円
 対象: 小学校1・2・3年生
 参加人数: 23人/回

◎夏休み造形講座

発泡スチロールアート

日時:[3回] 8月3日(金)・4日(土)・5日(日)
 10:00~12:00
 参加費: 4,500円
 対象: 幼稚園・保育園の年長児
 参加人数: 21人/回

モザイクアート

日時:[3回] 8月6日(月)・7日(火)・8日(水)
 10:00~12:00
 参加費: 4,500円
 対象: 小学校1・2・3年生
 参加人数: 21人/回

ぬいぐるみアート

日時:[3回] 8月20日(月)・21日(火)・22日(水)
 10:00~12:00
 参加費: 4,500円
 対象: 小学校4・5・6年生
 参加人数: 18人/回

◎わくわく1日造形講座

親子講座「ぐちゃぐちゃお絵かき」

日時: 4月29日(日祝) 10:00~12:00
 参加費: 親子2名で2,000円
 (1人追加で+500円)
 対象: 幼稚園・保育園の年長児と保護者
 参加人数: 58人

親子講座「いろいろな楽器にさわってみよう! 不思議な音の泉」

日時: 8月1日(水) 13:30~15:30
 講師: 渡辺 亮(パーカッションニスト)
 参加費: 親子2名で2,000円
 (1人追加で+500円)
 対象: 小学校1~6年生とその保護者
 参加人数: 60人

◎長期日曜造形講座

油絵クラブ

日時: 5月6日・13日・20日, 6月3日・10日・17日
 14:00~16:30
 講師: 石井 健(画家/造形講師)
 参加費: 10,000円
 対象: 小学校4・5・6年生
 参加人数: 19人/回

日本画クラブ

日時: 11月4日・11日・18日・25日, 12月2日・9日
 14:00~16:30
 担当: 山崎 優
 参加費: 10,000円
 対象: 小学校4・5・6年生
 参加人数: 21人/回

◎展覧会関連ワークショップ

「モネ展」関連企画

親子講座「モネさんの《睡蓮》に挑戦！」

日時: 8月11日(土祝) 9:45~12:00
 担当: 柳川文秀, 高德早矢香, 大岩久美
 松永真太郎, 坂本恭子
 会場: 企画展展示室, アートギャラリー1
 対象: 小学校1~6年生と保護者
 参加費: 親子2名で2,000円
 (1人追加で+500円)
 参加人数: 27人

「駒井展」関連企画

親子講座「小さな銅版画—モノタイプ版画に挑戦！」

日時: 11月23日(金祝)
 10:15~12:30, 14:15~16:30
 担当: 柳川文秀, 高德早矢香, 大岩久美
 櫻庭瑠実, 関 淳一, 片多祐子, 日比野民蓉
 会場: 子どものアトリエ, 市民のアトリエ
 企画展展示室
 対象: 小学校1~6年生と保護者
 参加費: 親子2名で2,000円
 (1人追加で+500円)
 参加人数: 28人, 26人

「コレクション展」関連企画

親子講座「音をつなげる、音をひっかく」

日時: 1月19日(土) 13:30~15:30
 講師: 八木良太(出品作家)
 担当: 柳川文秀, 高德早矢香, 大岩久美
 木村絵理子
 会場: 子どものアトリエ, コレクション展展示室
 対象: 小学校1~6年生と保護者
 参加費: 親子2名で2,000円
 (1人追加で+500円)
 参加人数: 47人



小さなブロンズ作品づくり



版画基礎コース



彫刻のある生活「黒御影粘土のテラコッタ」



1日体験「シルクスクリーン」



ヌードをデッサンする



彫らない木版画

ワークショップ

◎アートとふれあう

小さなブロンズ作品づくり

日時:[4回]各14:00~16:30

Aコース (各土曜)

4月28日,5月12日・19日・26日

Bコース (各金曜)

7月20日・27日,8月3日・10日

Cコース (各土曜)

8月25日,9月1日・8日・15日

Dコース (各日曜)

10月28日,11月4日・11日・18日

Eコース (各金曜)

11月16日・30日,12月7日・14日

Fコース (各金曜)

2月1日・15日,3月1日・15日

講師:小林且典(彫刻家),木下貴博

参加費:各9,000円

参加人数:A8人,B8人,C8人,D8人,E8人,

F8人

版画基礎コース

日時:(各土曜)[6回]

*Eコースのみショートコースのため4回
各10:10~12:40

Aコース 5月12日・19日・26日,

6月2日・9日・16日

Bコース 6月23日・30日,

7月7日・14日・21日・28日

Cコース 9月1日・8日・15日・22日・29日,

10月6日

Dコース 10月13日・20日・27日,

11月10日・17日・24日

Eコース 12月1日・8日・15日・22日

Fコース 1月12日・19日・26日,

2月2日・9日・16日

Gコース 2月23日,

3月2日・9日・16日・23日・30日

インストラクター:

吉田ゆう(リトグラフ)

岩淵華林(シルクスクリーン)

所 彰宏(銅版画)

担当:櫻庭瑠実

参加費:A・B・C・D・F・Gコース各16,000円

Eコース10,000円

参加人数:A16人,B17人,C17人,D17人,

E17人,F17人,G17人

彫刻のある生活「黒御影粘土のテラコッタ」

日時:[3回]各14:00~16:00

6月2日(土)・3日(日)・23日(土)

講師:竹花 哲(彫刻家)

担当:木下貴博

参加費:6,500円

参加人数:15人

1日体験「シルクスクリーン」

日時:6月3日(日) 10:30~15:30

担当:櫻庭瑠実

アシスタント:数見亮平(シルクスクリーン)

参加費:3,500円

参加人数:13人

ヌードをデッサンする

日時:(各日曜)[3回]各13:30~16:30

6月10日・17日・24日

講師:中尾直貴(画家)

担当:柳川文秀,佐藤琢巳

参加費:13,000円

参加人数:15人

初めての絵画教室

日時:(各土曜)[5回]各14:00~16:30

7月7日・14日・21日・28日,8月4日

担当:柳川文秀

参加費:14,000円

参加人数:13人

彫らない木版画—ニスと筆を使った表現技法

日時:(各日曜)[4回]各10:30~12:30

9月2日・16日・30日,10月14日

講師:牧野浩紀(版画家)

担当:櫻庭瑠実

参加費:13,000円

参加人数:15人

油絵にトライ!

日時:(各土曜)[6回]各14:00~16:30

9月15日・29日,10月6日・13日・20日・27日

講師:東 麻奈美(画家)

担当:柳川文秀,佐藤琢巳

参加費:20,000円

参加人数:15人

木彫「みらいの人間像を創ってみよう」

日時:(各土曜)[10回]各14:00~16:00

11月10日・24日,12月8日・22日,

1月12日・26日,2月9日・23日,

3月23日(講師都合により1日2回実施)

講師:棚田康司(彫刻家)

担当:木下貴博

参加費:41,000円

参加人数:10人

修復家の視点で観た絵画「油彩技法、はじまりからエトセトラ」

日時:11月25日(日) 13:30~16:30

講師:渡邊郁夫(修復家/修復研究所二十一所長)

担当:木下貴博,佐藤琢巳,中村尚明

参加費:3,500円

参加人数:26人

市民のアトリエ

ステップアップ透明水彩「花を描く」「風景を描く」

日時:(各金曜) [2回] 各10:30~16:00
「花を描く」コース 11月30日,12月14日
「風景を描く」コース 3月1日・15日
講師:野澤奈穂子(画家)
担当:佐藤琢巳
参加費:各14,000円
参加人数:「花を描く」16人,「風景を描く」16人

陶芸 陶の灯り採り

日時:(各日曜) [2回] 1回目10:30~15:00/
2回目14:00~15:30
2月3日,3月3日
講師:須齋尚子(陶芸家)
担当:木下貴博
参加費:8,500円
参加人数:12人

1日体験「フォトグラム」

日時:[1回] 3月3日(日) 10:30~16:00
担当:櫻庭瑠実
アシスタント:吉田ゆう
参加費:3,500円
参加人数:13人

◎平成30年度

横浜みどりアップ・ワークショップ

野草と美術の出会い「ハーブ王子の鉢づくりと寄せ植え」

日時:(各日曜) [2回] 各13:30~15:30
A.「初夏のコース」6月10日,7月22日
B.「秋のコース」9月9日,10月14日
講師:山下智道(ハーブ王子・野草研究家)
展覧会解説:松永真太郎
協力:坂井也寸志(株式会社つりばな)
担当:木下貴博, 櫻庭瑠実, 佐藤琢巳, 山崎 優
会場:6月10日,10月14日=環境活動支援センター(保土ヶ谷区)
7月22日,9月9日=市民のアトリエ・企画展展示室
参加費:無料
対象:12歳以上
参加人数:A15人,B16人

◎展覧会関連ワークショップ

「ヌード展」関連企画

「ロダンの《接吻》をデッサンしよう!」

日時:5月31日(木) 13:30~16:30
講師:塚本悦雄(彫刻家/弘前大学教育学部教授)
展覧会解説:長谷川珠緒
担当:木下貴博
会場:市民のアトリエ,企画展展示室一部
参加費:3,500円
参加人数:22人

「モネ展」関連企画

「モネの眼、写真の眼」

日時:7月15日(日) 10:30~16:00
講師:鈴木理策(写真家)
担当:櫻庭瑠実, 佐藤琢巳, 関 淳一
会場:8階,企画展展示室
参加費:2,500円
参加人数:20人

「駒井展」関連企画

●デモンストレーション&トーク

「駒井哲郎 版に刻まれた世界」

日時:12月2日(日) 13:30~16:00
講師:渡辺達正(銅版画家/多摩美術大学名誉教授)
協力:多摩美術大学美術館
担当:櫻庭瑠実, 関 淳一
会場:市民のアトリエ
参加費:2,000円
参加人数:31人

●銅版画創作体験「メゾチント」

日時:(各日曜) [2回] 12月9日・16日
*2回連続講座10:30~16:00
講師:渡辺達正(銅版画家/多摩美術大学名誉教授)
アシスタント:崔 恩知(版画家)
担当:櫻庭瑠実, 佐藤琢巳, 関 淳一
会場:市民のアトリエ
参加費:13,000円
参加人数:18人

「ノグチ長谷川展」関連企画

「日本美とモダンの接点を求めて…展覧会鑑賞と作品制作を通じてノグチと長谷川の神髄に迫る」

日時:(各日曜) [2回] 各13:30~16:30
2月17日・24日
講師:中村尚明
担当:木下貴博, 佐藤琢巳, 櫻庭瑠実
会場:市民のアトリエ
参加費:各6,500円
参加人数:15人

◎ライブラリー・トーク

「セルフポートレートと写真集」

日時:2月10日(日) 18:30~20:30
講師:長島有里枝(写真家)
担当:櫻庭瑠実, 関 淳一, 八柳サエ
会場:美術情報センター
参加費:1,000円
参加人数:26人



ステップアップ透明水彩「花を描く」



野草と美術の出会い



モネの眼、写真の眼



駒井哲郎 版に刻まれた世界



セルフポートレートと写真集



オープン立体室テラコッタ

◎横浜市芸術文化教育プラットフォーム

担当: 関 淳一, 木下真博, 櫻庭瑠実, 佐藤琢巳

美術分野等の芸術家による体験型授業

横浜市立本郷中学校
アーティスト: 川本直人(映像作家)
日時: 11月19日(月)・27日(火)
参加人数: 153人, 159人

美術分野等の芸術家による鑑賞型(体験も含む)授業

横浜市立横浜吉田中学校
アーティスト: 櫻井かえで(彫刻家)
日時: 11月21日(水)
参加人数: 119人

オープンスタジオ

◎オープンスタジオ立体室

担当: 木下真博
会場: 市民のアトリエ立体室

木の作品

日時: 各13:30~16:00
各10:30~13:30(オプション)
Aコース (各火曜) [10回] 4月10日-6月12日
Bコース (各水曜) [10回] 6月20日-8月22日
Cコース (各水曜) [10回] 8月29日-10月31日
Dコース (各水曜) [6回] 11月7日-12月19日
(11月21日は休み)
Eコース (各火曜) [6回] 12月25日-2月5日
(1月1日は休み)
Fコース (各火曜) [6回] 2月12日-3月19日
参加費: A-C各15,000円, D-F各9,000円
オプション500円
参加人数: A15人, B14人, C12人, D12人,
E13人, F12人
オプション参加人数: 287人

テラコッタ

日時: [6回] 各13:30~16:00
各10:30~13:30(オプション)
Aコース (各水曜) 4月18日・25日, 5月2日・
9日・16日, 6月13日
Bコース (各火曜) 6月19日・26日, 7月3日・
10日・17日, 8月14日
Cコース (各火曜) 8月21日・28日,
9月4日・11日・18日, 10月16日
Dコース (各月曜) 11月12日・19日・26日,
12月3日・10日, 1月21日
Eコース (各水曜) 1月23日・30日,
2月6日・13日・20日, 3月20日
参加費: 各9,000円 オプション500円
参加人数: A14人, B12人, C12人, D12人, E12
オプション参加人数: 233人

◎オープンスタジオ平面室

担当: 佐藤琢巳
会場: 市民のアトリエ平面室

人体クロッキー

日時: 各14:00~16:30
Aコース(ヌード) (各水曜) [6回]
5月9日-6月13日
Bコース(着衣) (各火曜) [6回]
5月22日-6月26日
Cコース(ヌード) (各水曜) [6回]
7月4日-8月8日
Dコース(着衣) (各金曜) [7回]
9月14日-10月26日
Eコース(ヌード) (各水曜) [7回]
9月19日-10月31日
Fコース(着衣) (各水曜) [6回]
11月7日-12月19日
(11月21日は休み)
Gコース(ヌード) (各月曜) [6回]
11月12日-12月17日
Hコース(着衣) (各水曜) [8回]
1月9日-3月6日
(1月23日は休み)
Iコース(ヌード) (各火曜) [8回]
1月29日-3月19日
対象: 18歳以上
参加費: A・B・C・F・G各8,400円,
D・E各9,800円, H・I各11,200円
参加人数: A20人, B19人, C20人, D20人,
E20人, F20人, G20人, H20人,
I20人

人体を描く

日時: [4回] 各14:00~16:30
Aコース(着衣) (各金曜) 5月18日-6月8日
Bコース(ヌード) (各金曜) 6月22日-7月13日
Cコース(着衣) (各火曜) 7月17日-8月7日
Dコース(着衣) (各土曜) 11月10日-12月1日
Eコース(ヌード) (各金曜) 1月11日-2月8日
(1月25日は休み)
Fコース(着衣) (各土曜) 2月23日-3月16日
対象: 18歳以上
参加費: 各6,000円
参加人数: A18人, B18人, C18人, D19人,
E18人, F18人

◎オープンスタジオ版画室

担当: 櫻庭瑠実
会場: 市民のアトリエ版画室

日時:

第1期 5月8日-7月28日(水・土)
5月8日・22日, 6月5日・19日,
7月3日・17日(火)
第2期 9月1日-10月31日(水・土)
9月4日・18日, 10月2日・16日・30日(火)
第3期 11月7日-12月22日(水・土)
11月6日・20日, 12月4日・18日(火)
第4期 1月9日-3月30日(水・土)
1月8日・22日, 2月5日・19日,
3月5日・19日(火)
(水) 10:10~16:30
(火・土) 14:00~16:30
(暗室使用はすべて14:00~16:30)
インストラクター:
吉田ゆう(リトグラフ)
岩淵華林(シルクスクリーン)
所 彰宏(銅版画)
参加費: (水) 利用 2,200円
(火・土) 利用 1,600円
暗室 1,600円
参加人数: 第1期542人, 第2期412人
第3期325人, 第4期522人

募集リーフレット

横浜美術館 子どものアトリエプログラム『ピコラガイド』『親子のフリーゾーンガイド』の発行



横浜美術館 市民のアトリエプログラム『ワークショップガイド』の発行



市民協働、地域社会や市民生活に貢献する事業

市民協働



ボランティア活動風景(親子のフリーゾーン) 撮影:加藤 健



ボランティア活動風景(ヨコハマ・アートマップ)



ボランティア活動風景(JICA受け入れサポート)



ボランティア活動風景(展覧会・ココがみどころ!)



フランスギャラリートーク



フランス交流会

横浜市、学校、福祉関係機関、市民団体、ボランティア団体、NPO法人、企業などと協働し、美術館教育普及事業の活動を社会に広げます。特に、既存の市民団体、ボランティア団体の活動などとリンクさせることで、美術館の活動への支援を広げるよう努めています。また、横浜美術館コレクション・フレンズというユニークな個人参加型の芸術支援プログラムを通じ、参加者に横浜美術館コレクションを通して、より深く美術と親しむための特別プログラムを提供しています。

ボランティア

子どものアトリエ

「親子のフリーゾーン」ボランティア

活動期間:平成30年3月31日(土)-3月31日(日)
登録人数:39人
参加人数:延べ397人

美術情報センター1日ボランティア

活動期間:9月26日(水)
登録人数:11人
参加人数:延べ11人

ビジターサービスボランティア

活動期間:平成30年3月24日(土)-3月31日(日)
登録人数:15人
参加人数:延べ485人

横浜シティガイド協会などとの連携した活動

- おもてなし研修(横浜観光コンベンションビューロー)
日時:9月11日(火)
- みなとみらい歴史研修(横浜みなとみらい21)
日時:3月11日(月)

教育プロジェクトボランティア

活動期間:5月1日(火)-3月31日(日)
登録人数:54人
参加人数:延べ1,393人

担当:森 未祈, 端山聡子, 太田雅子

主な活動内容

- ・研修会・勉強会 26回
- ・ヨコハマ・アートマップ 10回
- ・丹下健三 11回
- ・描かれた物語 10回
- ・展覧会・ココがみどころ! 45回
- ・ボランティアによる展覧会紹介(英語) 7回
- ・中高生プログラムサポート 11回
- ・若者支援プログラムサポート 4回
- ・特別支援学校プログラムサポート 2回
- ・ヨコビ探検隊 7回
- ・海外研修受入サポート 1回

原三溪生誕150年に向けた原三溪市民研究会との共同研究

定例会原則月1回, 第2土曜日

岐阜スタディ・ツアー

「原三溪翁のふるさとを訪ねる」
開催日:5月13日(日)・14日(月)
参加人数:21人

原三溪市民研究会第5回シンポジウム

「原三溪—その生き方を考える」

日時:11月10日(土) 13:30~16:30

第一部 パネリストの講演

「岐阜と富太郎」

講師:市川春雄(原三溪・柳津文化の里構想実行委員会事務局長)

「三溪園の生活」

講師:川幡留司(三溪園参事)

「三溪の選択」

講師:廣島 亨(原三溪市民研究会会長)

第二部 パネル・ディスカッション

コーディネーター:猿渡紀代子(原三溪市民研究会顧問)

主催:原三溪市民研究会/三溪園

助成:公益信託ヨコハマ中区まちづくり本牧基金

会場:三溪園内「鶴翔閣」

参加人数:140人

横浜美術館コレクション・フレンズ

12,000点を超える横浜美術館コレクションの継続的な修復や維持を目的として、平成22年にスタートした個人参加型の芸術支援プログラムです。参加者には、横浜美術館コレクションを通して、より深く美術と親しむための特別プログラムを提供しています。「横浜の宝」ともいえるコレクションをより良い状態で未来へ引き継いでいくための取組みは、これからますますの発展が期待されています。

参加費:一口10,000円 **参加人数:**184名(212口)

平成30年度の対象作品7点

- ・小倉遊亀(1895-2000)
《良夜》
- ・工藤哲巳(1935-1990)
《あなたの肖像》
- ・ポール・ゴーガン(1848-1903)
《ナヴェ・ナヴェ・フェヌア(かぐわしき大地)》
- ・藤田喬平(1921-2004)
《飾篋「室町の花」》
- ・中西夏之(1935-2016)
《白・緑より白くーⅡ》
- ・ヴァシリイ・カンディンスキー(1866-1944)
《網の中の赤》
- ・八木良太(1980年生まれ)
《ポルタメント(ヴァイオリン、ホームメイ、シンセサイザー) No.2》

交流会(年2回開催)

日時:10月20日(土) 14:30~16:30
3月23日(土) 14:30~16:30
講師:片多祐子, 柏木智雄
会場:円形フォーラム
参加人数:81人,70人

ギャラリートーク(年4回、8日開催)

日時:①5月26日(土)・30日(水)
②8月22日(水)・25日(土)
③1月9日(水)・12日(土)
④2月9日(土)・13日(水)
各11:00~12:00
講師:日比野民蓉, 長谷川珠緒, 木村絵理子
坂本恭子
会場:円形フォーラム, コレクション展展示室
参加人数:32人・23人, 27人・22人, 17人・31人,
24人・22人

**横浜美術館『コレクションフレンズ2018』
募集パンフレットの発行**



地域社会や市民生活に貢献する事業

美術館における教育普及事業を、地域社会や市民生活に貢献する事業に発展させていきます。学校教育連携事業、アウトリーチ、人材育成事業、環境啓発事業等を行っています。

アウトリーチ事業等

アウトリーチ

日時:7月18日(水),10月1日(月)・3日(水)*・13日(土)*,11月2日(金)*,12月18日(火)*
会場:横浜医療福祉センター港南,横浜市立大学付属病院小児科病棟,神奈川県立こども医療センター*,日産グローバル本社*,白梅いずみ保育園*,聖星保育園*
参加人数:64人,17人,25人,88人,26人,35人
*外部と連携した事業 Heart to Art (p.71) による開催

イベント受入

Heart to Art 《よこしん》親子でエコ教室共催
日時:7月27日(金)
会場:横浜美術館
参加人数:80人
*外部と連携した事業 Heart to Art 参照 (p.71)

若者支援プログラム

「モノ展」鑑賞会
日時:9月5日(水) 13:30~16:30
担当:関淳一,端山聡子,森 未祈
会場:8階,企画展示室
参加人数:7人

「駒井展鑑賞会・関連ワークショップ」
日時:11月7日(水) 13:00~15:00
担当:関 淳一,端山聡子,森 未祈
会場:K2インターナショナルよこはま南部ユースプラザ
参加人数:17人

「駒井展」鑑賞会
日時:11月20日(火) 16:00~17:30
担当:関 淳一,端山聡子,森 未祈
会場:8階,企画展示室
参加人数:17人

「ノグチ長谷川展」鑑賞会

日時:2月20日(水) 13:00~16:00
担当:関淳一,端山聡子,森 未祈
会場:8階,企画展示室
参加人数:21人

横浜国立大学連携

老人ホーム訪問ワークショップ
横浜国立大学教育人間科学部授業(教育学部 小池研二准教授)との連携
日時:12月11日(火)
講師:山崎ちえ
担当:木下貴博
会場:市民のアトリエ,戸部ハマノ愛生園
参加人数:14人
*12月4日(火)は、横浜美術館で研修を実施

人材育成等

◎博物館学芸員実習

活動期間:7月23日(月)-28日(土)
各日10:00~17:00
*26日(木)は除く
担当:内山淳子,木村絵理子,日比野民蓉
会場:美術館内
登録人数:8人
参加大学:女子美術大学
成城大学
多摩美術大学
東海大学
東京工芸大学
明治学院大学
立教大学
和光大学

◎インターンシップ

子どものアトリエ

●インターン
活動期間:4月1日(日)-3月31日(日)
登録人数:5人
参加人数:延べ105人

●城西国際大学インターン
活動期間:8月3日(金)-8日(水)
登録人数:8人
参加人数:延べ32人

海外インターンシップの受入

活動期間:10月22日(月) 10:00~17:00
参加人数:10人(10ヶ国)

◎子どものアトリエ

教師のためのワークショップ

*鑑賞サポート 学校連携 参照(p.39)

保育士・教師を対象とした研修等

*鑑賞サポート 学校連携 参照(p.39)

環境啓発事業

平成30年度横浜みどりアップ・ワークショップ

*市民のアトリエ ワークショップ 参照(p.44)

美術品の収集、保存・修復、貸出

収集

美術資料収集方針

横浜美術館では、次のような方針に基づき作品を収集しています。(平成31年3月現在12,437件所蔵)

- 1 西洋文化の流入窓口であった横浜開港当時からヨーロッパ近代美術と日本近代美術の相互影響の足跡がたどれる作品
- 2 (1) 現代美術の展開と流れの鳥瞰に役立つ作品
(2) 今日の美術が内包する問題点を明確に表している作品
(3) 近代美術の一分野としての写真の代表作品
(4) 現代の市民生活に密着した分野(デザイン、工芸、建築、ビデオ)の代表作品
- 3 横浜ゆかりの代表的作家の作品
(1) 岡倉天心との関係を含めて、原三溪に庇護された、日本近代美術の発展に寄与した作家の作品
(2) その他、横浜ゆかりの代表的作家の作品
- 4 以上の美術に関連する資料

収集実績

分野別作品収集件数 平成30年度末累計:()内が30年度収集点数

	日本画	油彩画 (日本洋画・西洋画)	版画	水彩・素描	彫刻・立体	工芸	写真・映像	作品外資料	合計
購入	164 (1)	199 (0)	1,614 (2)	63 (1)	47 (0)	82 (0)	3,205 (17)	0 (0)	5,374 (21)
寄贈	750 (9)	318 (6)	1,733 (80)	1,705 (7)	61 (5)	97 (1)	1,076 (264)	1,323 (25)	7,063 (397)
合計	914 (10)	517 (6)	3,347 (82)	1,768 (8)	108 (5)	179 (1)	4,281 (281)	1,323 (25)	12,437 (418)

*上記点数に寄託作品は含まれない。

平成30年度の主な収集作品

作家	作品名
斎藤暁文	天岩戸(仮題)
福田美蘭	睡蓮の池 朝
歌川(五雲亭)貞秀	横浜交易西洋人荷物運送之図
風間サチコ	第一次幻惑大戦
木下 晋	合掌図・懺悔
石川竜一	渋谷、東京「portraits 2013-2016」より
クリスチャン・ヤンコフスキー	マッサージ・マスターズ

*今年度の全収集作品については、「横浜美術館収蔵品目録」(平成31年度発行予定)を参照

保存・修復

分野	作家名	作品名	収蔵品番号	修復内容
日本画	中島千波	《窓》	91-JP-008	画面のクリーニング、しみ抜き、裏打ちパネル交換、補彩
版画	駒井哲郎	《フロントピース(版画集『Composition de la Nuit』より)》	85-PRJ-125-01	マット装
		《顔の中の赤い月(版画集『Composition de la Nuit』より)》	85-PRJ-125-02	マット装
		《首つり(版画集『Composition de la Nuit』より)》	85-PRJ-125-03	マット装
		《時計の眼(版画集『Composition de la Nuit』より)》	85-PRJ-125-04	マット装
		《崩解感覚(版画集『Composition de la Nuit』より)》	85-PRJ-125-05	マット装
		《地獄篇第28歌(版画集『Composition de la Nuit』より)》	85-PRJ-125-06	マット装
		《作者の肖像(版画集『Composition de la Nuit』より)》	85-PRJ-125-07	マット装
		《暗い絵(版画集『Composition de la Nuit』より)》	85-PRJ-125-08	マット装
		《肉体はぬれて(版画集『Composition de la Nuit』より)》	85-PRJ-125-09	マット装
		《残像(版画集『Composition de la Nuit』より)》	85-PRJ-125-10	マット装
		《囚人(版画集『Composition de la Nuit』より)》	85-PRJ-125-11	マット装
	上前智祐	《作品》	2011-PRJ-004	マット装
		《作品》	2011-PRJ-014	マット装
		《作品》	2011-PRJ-015	マット装
		《作品》	2011-PRJ-016	マット装
		《作品》	2011-PRJ-019	マット装
	吉田亜世美	《LINEAR COMPOSITION L27-B.U.P.》	2011-PRJ-048	マット装
	関野準一郎	《港(仮題)》	2012-PRJ-032	マット装
	須田國太郎	《テロスのクーロスのトルソ》	2014-PRJ-016	マット装
		《グレコ・イペリヤの首》	2014-PRJ-017	マット装
		《九鬼風景(尾鷲)》	2014-PRJ-018	マット装
マリオ・アヴァチ	《ひと切れのスイカのまわり》	2012-PRF-001	マット装	
	《赤いヴァイオリンと青いヴァイオリン》	2012-PRF-002	マット装	
彫刻・立体	菅 木志雄	《環空立》	99-SJ-004	合板の燻蒸
	ジョゼフ・コーネル	《オブジェクト ムッシュ・フォットの孫息子による芝居ホテル、毎週日曜日午後》	86-SF-002	台座からの取外し、塗料除去、破損部分補修
		《ソープ・バブル・セット:コペルニクスの体系》	86-SF-003	台座からの取外し、塗料除去、破損部分補修
	ヴェナンツォ・クロチエッティ	《平和の若い騎手》	89-SF-002	作品の洗浄、ピンホール等の巣穴埋め、変色部等の補彩、フッ素樹脂塗装作業
写真・映像	浜口タカシ	《相模原米軍ハイツに墜落(「鉄条網の内と外」より)》	91-PHJ-001	マット装
		《大和市へ米軍機が墜落(「鉄条網の内と外」より)》	91-PHJ-002	マット装
		《戦車輸送阻止(「鉄条網の内と外」より)》	91-PHJ-010	マット装
		《成田区役所前機動隊と激突(「成田闘争」より)》	91-PHJ-012	マット装
		《成田区役所広場での集会、逃げる農民・学生(「成田闘争」より)》	91-PHJ-013	マット装
		《三里塚農民(「成田闘争」より)》	91-PHJ-014	マット装
		《農民の叫び(「成田闘争」より)》	91-PHJ-016	マット装

分野	作家名	作品名	収蔵品番号	修復内容
		《強制執行の駒井砦(「成田闘争」より)》	91-PHJ-017	マット装
		《4000メートルの滑走路は完成したが…(「成田闘争」より)》	91-PHJ-021	マット装
		《今なお闘病を続ける被爆者(「人類初の惨禍」より)》	91-PHJ-033	マット装
		《松明を揚げての平和行進(「人類初の惨禍」より)》	91-PHJ-034	マット装
		《灯籠流し「み霊よ永久に安らかに」(「人類初の惨禍」より)》	91-PHJ-035	マット装
		《横井庄一さん「帰って参りました」(「遅れた終戦」より)》	91-PHJ-047	マット装
	川崎亀太郎	《朝》	95-PHJ-029	マット装
	ルネ・マグリット	《石の星》	82-PHF-196	マット装変更
		《出現》	82-PHF-197	マット装変更
		《幸せな日》	82-PHF-198	マット装変更
		《破壊者》	82-PHF-199	マット装変更
	クリスチャン・ボルタンスキー	《シャス高校の祭壇》	92-PHF-001	ガラス交換、バックボード交換、写真の複製

貸出

貸出件数・点数

貸出総件数：18件

貸出総作品・資料数：532点(うち12点は美術情報センター所蔵資料)

貸出実績

展覧会等名称・展示会場・会期	作家名	作品・資料名*・収蔵作品番号**
「ヌード NUDE—英国テート・コレクションより」 横浜美術館 平成30年3月24日(土)~6月24日(日) ※pp.8-9参照	ルーカス・サマラス	《オートポラロイド》(93-PHF-044)
	ハンス・ベルメール	《パノラマ》
	マン・レイ	《人形》(93-PHF-008)
		《ヌード》
		《無題》(82-PHF-238)
		《無題(ソラリゼーション)》
		《メレット・オッペンハイム(ソラリゼーション)》
	ロバート・メイプルソープ	《リサ・ライオン》(84-PHF-052)
		《リサ・ライオン》(84-PHF-053)
		《リサ・ライオン》(84-PHF-055)
「モネ それからの100年」 名古屋市美術館 平成30年4月25日(水)~7月1日(日) 横浜美術館 平成30年7月14日(土)~9月24日(月休) ※pp.10-11参照	エドワード・スタイクン	《遅い午後—ヴェニス》
	アルフレッド・ステイーグリッツ	《アスファルトの舗道：ニューヨーク(『カメラ・ワーク』No.41より)》
		《ニューヨーク・セントラル・ヤードにて(『カメラ・ワーク』No.36より)》
「開館25周年記念 横浜美術館コレクション 王様の美術館 フランス近代美術とシュルレアリスムの精華」 高知県立美術館 平成30年6月23日(土)~9月24日(月休) ※pp.22-23参照	ジョン・アームストロング	《復活祭の分析》
	ウジェーヌ・アジェ	《サン・ジャック通りの街角、パリ5区》
		《モンマルトル、サン＝ヴァンサン通り、パリ18区》
		《「軍人」のキャバレー、ブラン・マントー通り25番地》
		《「金の太陽」、エコール広場》
		《「ポール・サリュ」、フォセ・サン＝ジャック通り》
		《店、サント＝フワ通り26番地、パリ2区》
		《「金のコンパス」の宿、モントルゲイユ通り72番地、パリ2区》
		《シャトー・ド・バガテル、パリ16区》
	ハンス(ジャン)・アルブ	《瓶と巻き髭》
		《成長》
ヴォルス	《植物》	
マックス・エルンスト	《流行は栄えよ、芸術は滅びるとも(タイトルページ)》	
	《流行は栄えよ、芸術は滅びるともI》	
	《流行は栄えよ、芸術は滅びるともII》	
	《流行は栄えよ、芸術は滅びるともIII》	
	《流行は栄えよ、芸術は滅びるともIV》	
	《流行は栄えよ、芸術は滅びるともV》	
	《流行は栄えよ、芸術は滅びるともVI》	
	《流行は栄えよ、芸術は滅びるともVII》	
	《流行は栄えよ、芸術は滅びるともVIII》	
	《白鳥はとともおだやか…》	
	《毛皮のマント(毛皮/人物)》	
	コラージュ・ロマン『カルメル修道会に入ろうとしたある少女の夢』第12番の挿絵のための原画：《そして「闇の女」を踊りおえると、カルヴァリオの丘の貴婦人たちの舞踏会で、マルスリーヌ＝マリーは、押しかける男たちの追従の的になる。》	

マックス・エルンスト	<p>コラージュ・ロマン『カルメル修道会に入ろうとしたある少女の夢』第44番の挿絵のための原画：《いまは無言の祈禱の時間。祈禱「いとしい主よ、御身のなしうるだけ私をかわいがってくださいませよう。この忘れがたい夜に…」》</p> <p>コラージュ・ロマン『カルメル修道会に入ろうとしたある少女の夢』第62番の挿絵のための原画：《修道院長「突くのです。かわいい子よ、そなたについて行くのは容易ではありません。私は素っ裸です。」》</p> <p>コラージュ・ロマン『慈善週間または七大元素』の挿絵のための未使用の原画</p> <p>《少女が見た湖の夢》</p> <p>《子供のミネルヴァ》</p> <p>コラージュ・ロマン『鏡を通り抜ける』の挿絵のための原画：《鏡の中の天使》</p> <p>《オイディプス25(コラージュ・ロマン『慈善週間または七大元素』の中の「第4のノート 水曜日 元素一血 例一オイディプス」第25番の図版より)》</p> <p>《形状》</p>
メレット・オッペンハイム	《栗鼠》
ウジェーヌ・カリエール	《家族》
	《静物》
エミル＝オーギュスト・カロリュ ス＝デュラン	《アンドロメダ》
ギュスターヴ・クールベ	《海岸の竜巻(エトルタ)》
パウル・クレー	《攻撃の物質、精神と象徴》
アンドレ・ケルテス	《さざ波、1913年5月2日、ハンガリー》
	《水中遊泳者、1917年8月31日、エスツェルゴム》
	《諷刺的な踊り子、1926年、パリ》
	《モンドリアンの家にて、1926年、パリ》
	《パリの椅子、1927年、パリ》
	《ディストーションNo.40、パリ》
ジョゼフ・コーネル	《無題》
	《オブジェクト ムッシュ・フォットの孫息子による芝居ホテル、毎週日曜日午後》
	《ソープ・バブル・セット：コペルニクスの体系》
里見勝蔵	《ポントワーズの雪景》
シャルル＝エミール・ジャック	《鶏》
	《牧舎》
ポール・セザンヌ	《ガルダンヌから見たサント＝ヴィクトワール山》
サルバドール・ダリ	《ガラの測地学的肖像》
	《ガラの測地学的肖像》のための素描
	《ヒステリックな光景》
	《ヘレナ・ルビンシュタインのための装飾壁画 幻想的風景一眺、英雄的正午、夕べ》
	《ニュートンを讀んで》
イヴ・タンギー	《風のアルファベット》
ジョルジオ・デ・キリコ	《ヘクトルとアンドロメカ》
ポール・テルヴォー	《三つの骸骨》
	《階段》

貸出

展覧会等名称・展示会場・会期	作家名	作品・資料名*・収蔵作品番号**
	シャルル=フランソワ・ドービニー	《風景》
	オスカル・ドミンゲス	《日曜日》 《無題—デカルコマニー》
	ナダール	《ギュスターヴ・ドレ》 《ジョアツキーノ・ロツシーニ》 《シャルル・ボードレー》 《ウジェーヌ・ドラクロワ》 《ナダール》 《カミーユ・コロー》
	パブロ・ピカソ	《ひじかけ椅子で眠る女》
	藤田嗣治	《腕を上げた裸婦》
	ジョルジュ・ブラック	《画架》
	ハンス・ベルメール	《人形》(93-PHF-003) 《人形》(93-PHF-004) 《人形》(93-PHF-005) 《人形》(93-PHF-006) 《人形》(93-PHF-007) 《人形》(93-PHF-009) 《人形》(93-PHF-010) 《人形》(93-PHF-011) 《人形》(93-PHF-012) 《人形》(93-PHF-017)
	ルネ・マグリット	《青春の泉》 《王様の美術館》
	アンドレ・マッソン	《ナルキッソス》 《砂漠のモニュメント》 《ベンテシレイア》
	ロベルト・マッタ	《コンポジション》
	マン・レイ	《埃の培養》(82-PHF-220) 《贈物》 《ローズ・セラヴィ(マルセル・デュシャン)》 《不滅のオブジェ》 《標的》 《メレット・オッペンハイム》(82-PHF-246) 《ヴィーナス=金星の蝕》 《解剖台の上のミシンと蝙蝠傘の偶然の出会いの ように美しい》
	ジョアン・ミロ	《花と蝶》 《黒と赤のシリーズNo.8》
	ジョアン・ミロ/ルイ・マルクーシ	《ミロの肖像》
	ギュスターヴ・モロー	《岩上の女神》
	ジャン=フランソワ・ラファエリ	《フランスの田舎》
	ヴィフレド・ラム	《アダムとイヴ》
	ジャック=アンリ・ラルティエグ	《ピションナード、パリ》 《ZYX24号の離陸、ルザ》 《ブローニュの森通り、パリ》 《ACF グランプリのドゥラージュ車》 《オートウェイ競馬場の障害レース開催日》 《ジスー、ルザ》 《ロシエ・ド・ラ・ヴィエルジュのサラ、ピアリッツ》

展覧会等名称・展示会場・会期	作家名	作品・資料名*・収蔵作品番号**
「横浜美術館コレクション」 昭和の肖像 写真でたどる『昭和』の人と歴史」 アーツ前橋 平成30年7月6日(金)-9月3日(月) ※pp.24-25参照	ジャック=アンリ・ラルティエグ	《とび込み》
	フェルナン・レジエ	《コンポジション》
	ジャン・ポール・ローランス	《カロリング朝最後の玉座》
	秋山庄太郎	《ジブシー・ローズ》(93-PHJ-002)
		《岸恵子》
		《江波杏子》
		《加賀まりこ》
		《司葉子》
		《浅丘ルリ子》
		《越路吹雪》
		《吉永小百合》
		《松本清張》
		《いしだあゆみ》
		《奥村土牛》(93-PHJ-042)
		《司馬遼太郎》
		《工藤静香》
	荒木経惟	《写狂人日記 '91 1518-8-99》
	安藤不二夫	《江見絹子》
		《井上良斎》
	石内 都	《絶唱、横須賀ストーリー #5(野比海岸)》
		《絶唱、横須賀ストーリー #8(大津町)》
		《絶唱、横須賀ストーリー #9(久里浜)》
		《絶唱、横須賀ストーリー #10(不入斗町)》
		《絶唱、横須賀ストーリー #11(馬堀海岸)》
		《絶唱、横須賀ストーリー #12(千駄ヶ崎)》
	《絶唱、横須賀ストーリー #14(稲岡町)》	
	《絶唱、横須賀ストーリー #15(汐入町)》	
	《絶唱、横須賀ストーリー #17(追浜本町)》	
	《絶唱、横須賀ストーリー #21(久里浜)》	
	《絶唱、横須賀ストーリー #22(走水)》	
	《絶唱、横須賀ストーリー #23(湘南鷹取台)》	
	《絶唱、横須賀ストーリー #24(走水)》	
	《絶唱、横須賀ストーリー #25(野比)》	
	《絶唱、横須賀ストーリー #26(神明町)》	
	《絶唱、横須賀ストーリー #30(本町)》	
	《絶唱、横須賀ストーリー #34(本町)》	
	《絶唱、横須賀ストーリー #35(汐入町)》	
	《絶唱、横須賀ストーリー #36(汐入町)》	
	《絶唱、横須賀ストーリー #37(長瀬)》	
	《絶唱、横須賀ストーリー #39(追浜本町)》	
	《絶唱、横須賀ストーリー #40(安浦町)》	
	《絶唱、横須賀ストーリー #41(上町)》	
	《絶唱、横須賀ストーリー #42(安浦町)》	
	《絶唱、横須賀ストーリー #45(上町)》	
	《絶唱、横須賀ストーリー #46(船越町)》	
	《絶唱、横須賀ストーリー #47(船越町)》	
	《絶唱、横須賀ストーリー #49(日の出町)》	
	《絶唱、横須賀ストーリー #50(船越町)》	
	《絶唱、横須賀ストーリー #51(安浦町)》	
	《絶唱、横須賀ストーリー #52(船越町)》	

展覧会等名称・展示会場・会期	作家名	作品・資料名*・収蔵作品番号**
	石内 都	《絶唱、横須賀ストーリー #53(安浦町)》
		《絶唱、横須賀ストーリー #54(東逸見町)》
		《絶唱、横須賀ストーリー #55(東逸見町)》
		《絶唱、横須賀ストーリー #56(京浜急行車内)》
		《絶唱、横須賀ストーリー #57(若松町)》
		《絶唱、横須賀ストーリー #58(久里浜)》
		《絶唱、横須賀ストーリー #61(衣笠栄町)》
		《絶唱、横須賀ストーリー #62(久里浜)》
		《絶唱、横須賀ストーリー #63(汐入町)》
		《絶唱、横須賀ストーリー #64(坂本町)》
		《絶唱、横須賀ストーリー #65(追浜町)》
		《絶唱、横須賀ストーリー #66(稲岡町)》
		《絶唱、横須賀ストーリー #67(長井町)》
		《絶唱、横須賀ストーリー #71(本町)》
		《絶唱、横須賀ストーリー #72(本町)》
		《絶唱、横須賀ストーリー #73(大滝町)》
		《絶唱、横須賀ストーリー #80(本町)》
		《絶唱、横須賀ストーリー #85(若松町)》
		《絶唱、横須賀ストーリー #86(林)》
		《絶唱、横須賀ストーリー #87(長井町)》
		《絶唱、横須賀ストーリー #98(坂本町)》
		《絶唱、横須賀ストーリー #103(若松町)》
		《絶唱、横須賀ストーリー #105(浦郷町)》
		《絶唱、横須賀ストーリー #111(長沢)》
	石川真生	《沖縄ソウル〜フィリピン人ダンサー》(2009-PHJ-024)
		《沖縄ソウル〜フィリピン人ダンサー》(2009-PHJ-025)
		《沖縄ソウル〜フィリピン人ダンサー》(2009-PHJ-026)
		《沖縄ソウル〜フィリピン人ダンサー》(2009-PHJ-027)
		《沖縄ソウル〜フィリピン人ダンサー》(2009-PHJ-028)
		《沖縄ソウル〜フィリピン人ダンサー》(2009-PHJ-029)
	奥村泰宏	《職を求めてたむろする失業者たち》
		《ベビーブーム》
		《シューシャインボーイ》
		《金へん景気》
		《ザキ裏のこども達》
	金村 修	《Keihin Machine Soul》(97-PHJ-001)
		《Keihin Machine Soul》(97-PHJ-002)
		《Keihin Machine Soul》(97-PHJ-003)
		《Keihin Machine Soul》(97-PHJ-004)
		《Keihin Machine Soul》(97-PHJ-005)
		《Keihin Machine Soul》(97-PHJ-006)
		《Keihin Machine Soul》(97-PHJ-007)
		《Keihin Machine Soul》(97-PHJ-008)
		《Keihin Machine Soul》(97-PHJ-009)
		《Keihin Machine Soul》(97-PHJ-010)
		《Keihin Machine Soul》(97-PHJ-011)
		《Keihin Machine Soul》(97-PHJ-012)
		《Keihin Machine Soul》(97-PHJ-013)
		《Keihin Machine Soul》(97-PHJ-014)
		《Keihin Machine Soul》(97-PHJ-015)

展覧会等名称・展示会場・会期	作家名	作品・資料名*・収蔵作品番号**
	金村 修	《Keihin Machine Soul》(97-PHJ-016)
		《Keihin Machine Soul》(97-PHJ-017)
		《Keihin Machine Soul》(97-PHJ-018)
		《Keihin Machine Soul》(97-PHJ-019)
		《Keihin Machine Soul》(97-PHJ-020)
		《Keihin Machine Soul》(97-PHJ-021)
		《Keihin Machine Soul》(97-PHJ-022)
		《Keihin Machine Soul》(97-PHJ-023)
		《Keihin Machine Soul》(97-PHJ-024)
	アンリ・カルティエ=ブレッソン	《山口光園、京都》
	木村伊兵衛	《紙芝居》
		《高田保》
		《長谷川如是閑》
		《街の芸人》
		《洋服屋》
		《帽子のクリーニング屋》
		《志賀直哉》
		《泉鏡花と里見弴》
		《上村松園》(84-PHJ-098)
		《上村松園》(84-PHJ-099)
		《川合玉堂》(84-PHJ-100)
		《川合玉堂》(84-PHJ-101)
		《鍋木清方》(84-PHJ-103)
		《鍋木清方》(84-PHJ-104)
		《横山大観》(84-PHJ-105)
		《横山大観》(84-PHJ-106)
		《母と子(東京)》
		《谷崎潤一郎》
		《与謝野夫妻》
		《川端康成》
		《三岸節子》
		《子供たち(六郷町付近)》
		《青年(秋田市仁井田)》
		《浦上天主堂(長崎)》
		《江東界限(東京)》(84-PHJ-153)
		《隅田川(東京)》(84-PHJ-156)
		《古い洋館(長崎)》
		《列車内》
		《秋田》
		《渋谷》
		《月島(東京)》
		《永井荷風》
		《高峰秀子》
		《有楽町広場にて》
		《伊奈信男》
		《上野(東京)》
	ロバート・キャバ	《東京駅》
		《天理教会本部、奈良》
		《「都をどり」の鑑賞、祇園甲部歌舞練場、京都》
		《桂川の岸辺で写生する子どもたち、京都》

展覧会等名称・展示会場・会期	作家名	作品・資料名*・収蔵作品番号**
	ロバート・キャパ	《親子連れのピクニック、大阪城内》 《写生、大阪城内》 《浅草寺、東京》 《心齋橋筋、大阪》 《昭和通り、尼崎》
	桑原甲子雄	《カマクラ海岸》 《ファッション》 《東郷元帥国葬の日》 《銀座のレストラン》 《皇居前(2.26クーデターの翌日)》 《浅草六区》 《街》(85-PHJ-046) 《街》(85-PHJ-050)
	渋谷龍吉	《レートクレームの広告》 《原 節子》 《池田永一路》 《熊谷守一》 《銀座フォトモンタージュ》
	須田一政	《わが東京：根津》(2003-PHJ-006) 《わが東京：青梅》 《わが東京：下谷》 《わが東京：浅草》(2003-PHJ-067) 《わが東京：柴又》 《わが東京：根津》(2003-PHJ-078)
	土田ヒロミ	《中村 巖(「ヒロシマ 1945-1979/2005」より)》 《吉岡(岡田)宏(「ヒロシマ 1945-1979/2005」より)》 《山村(早志)百合子(「ヒロシマ 1945-1979/2005」より)》 《拒否(「ヒロシマ 1945-1979/2005」より)》(2016-PHJ-011) 《煙崎 宏(「ヒロシマ 1945-1979/2005」より)》 《和田(寺迫)登貴子(「ヒロシマ 1945-1979/2005」より)》 《高井(伊藤)君子(「ヒロシマ 1945-1979/2005」より)》 《辻岡(下村)敦子(「ヒロシマ 1945-1979/2005」より)》 《学生服(「ヒロシマ・コレクション」より)》(2016-PHJ-023) 《弁当箱(「ヒロシマ・コレクション」より)》 《ワンピース(「ヒロシマ・コレクション」より)》(2016-PHJ-025) 《軍服(「ヒロシマ・コレクション」より)》 《熔けた仏像(「ヒロシマ・コレクション」より)》 《異形の爪(「ヒロシマ・コレクション」より)》
	常盤とよ子	《流行歌の合唱》 《路上》 《待合室》(88-PHJ-048) 《追想》(88-PHJ-052)
	土門 拳	《藤田嗣治》

展覧会等名称・展示会場・会期

作家名

作品・資料名*・収蔵作品番号**

土門 拳	《イサム・ノグチ》
	《小林古径》
中川一夫	《銀座1944.9.24》(85-PHJ-083)
	《銀座1945.7.31》
	《銀座1945.12.30》(85-PHJ-086)
	《銀座1946.8.27》(85-PHJ-088)
	《銀座1947.5.1》(85-PHJ-090)
中平卓馬	《無題[東京・京橋]》
	《無題[葉山]》(2010-PHJ-019)
	《無題[葉山]》(2010-PHJ-020)
	《無題[東京・後樂園]》
	《無題[東京・渋谷]》(2010-PHJ-022)
	《無題[東京・新宿角筈町]》
	《無題》(2010-PHJ-024)
	《無題[東京湾]》
	《無題[横浜・戸塚]》
	《無題[東京・新宿]》
	《無題》(2010-PHJ-028)
	《無題》(2010-PHJ-029)
	《無題》(2010-PHJ-030)
	《無題》(2010-PHJ-031)
	《無題》(2010-PHJ-032)
	《無題》(2010-PHJ-033)
	《無題》(2010-PHJ-034)
	《無題》(2010-PHJ-035)
	《無題》(2010-PHJ-036)
	《無題》(2010-PHJ-037)
	《無題》(2010-PHJ-038)
	《無題》(2010-PHJ-039)
	《無題》(2010-PHJ-040)
	《無題》(2010-PHJ-041)
	《無題[東京・渋谷]》(2010-PHJ-042)
	《無題[東京・日比谷]》
	《無題[東京・新橋]》
	《無題》(2010-PHJ-080)
	《無題》(2010-PHJ-081)
	《無題》(2010-PHJ-082)
	《都市・陥穽》(2010-PHJ-083)
	《都市・陥穽》(2010-PHJ-084)
《都市・陥穽》(2010-PHJ-085)	
《都市・陥穽》(2010-PHJ-086)	
《都市・陥穽》(2010-PHJ-087)	
浜口タカシ	《アメリカ原潜スナックが横須賀基地へ(「鉄条網の内と外」より)》
	《原潜が来た日(「鉄条網の内と外」より)》
	《佐藤首相と沖縄県民代表(「鉄条網の内と外」より)》
	《嘉手納基地を背に働く農婦(「鉄条網の内と外」より)》
	《沖縄コザ市のバーにて(「鉄条網の内と外」より)》
	《沖縄復帰、円とドルの交換(「鉄条網の内と外」より)》
	《成田三里塚(「成田闘争」より)》

展覧会等名称・展示会場・会期	作家名	作品・資料名*・収蔵作品番号**
	浜口タカシ	《身体に鎖を巻き付け必死に抵抗(「成田闘争」より)》 《支援学生らと機動隊が激しく衝突(「成田闘争」より)》 《反対して座り込む老人(「成田闘争」より)》 《原爆ドーム(「人類初の惨禍」より)》 《核告発の証人、福田須磨子さん(「人類初の惨禍」より)》 《昭和27年に発掘した遺骨の山(「人類初の惨禍」より)》 《高熱のため溶け曲がったピン(「人類初の惨禍」より)》 《安田講堂前に集まった8500人の武装学生(「大学紛争」より)》 《東大安田講堂に機動隊導入(「大学紛争」より)》 《13時28分26秒全共闘本部の部屋(「大学紛争」より)》 《横井庄一さん出迎え、羽田空港(「遅れた終戦」より)》 《小野田寛郎さんルバング島から帰還(「遅れた終戦」より)》
	濱谷 浩	《ダンサー、フロリダダンスホール、赤坂、東京》 《花を売る少年、東京》 《日本髪と洋髪の芸者さん、銀座、東京》 《下町のこどもたち、東京》 《反戦ミュージカル「ヘアー」の稽古、東京》 《年始多忙につきホステスさん急募、東京》 《昭和女人集のキャッシー木下千鶴嬢、福岡》 《駒場祭の優しさいっぱいの東大生パレード、東京》 《ディスコアラビアンナイトで踊る芸妓さん、京都》 《日本大学三崎祭の応援団行進、東京》 《科学博つくば '85アリーナホステス、茨城》 《成人の日のマハラジャ大盛況、新潟》
	林 忠彦	《隣組整列》 《整列する防空女子通信隊》 《整列する女子挺身隊、日本製鋼》 《太宰治、銀座・酒場(ルバン)》 《煙草をくゆらす戦災孤児、上野》 《原節子、『わが青春に悔いなし』撮影風景(右から黒沢明、中井朝一)》 《坂口安吾》 《倒壊したビルを家に、東京・江戸川橋》 《日劇屋上の踊り子、有楽町》 《焼け跡の母子、東京・高田馬場》 《志賀直哉》 《三島由紀夫》 《美空ひばり》 《職を求める人、飯田橋職業安定所》 《女相撲、浅草》 《楽屋、新宿セントラル劇場》 《大衆化したナイロン靴下、渋谷》 《吉原、赤線区域にて》
	原田正路	《「長崎」シリーズ》(2002-PHJ-001) 《「長崎」シリーズ》(2002-PHJ-002) 《「長崎」シリーズ》(2002-PHJ-003)

展覧会等名称・展示会場・会期	作家名	作品・資料名*・収蔵作品番号**
	原田正路	《「長崎」シリーズ》(2002-PHJ-006) 《「長崎」シリーズ》(2002-PHJ-007) 《「長崎」シリーズ》(2002-PHJ-017)
	福田勝治	《明日待子》 《宇野千代》 《夏の女》(84-PHJ-400)
	福原路草	《和田英作画伯 彦根にて》
	藤本四八	《前田青邨》 《林武》
	堀 不佐夫	《中川一政》 《ポートレート 二人》
	緑川洋一	《原爆ドーム》 《呉海軍工廠》 《引き上げられた伊号第179潜水艦》 《社長と専務、船場》 《葉の配達、船場》
	森村泰昌	《セルフポートレート(女優) ハラ・セツコとしての私》
	師岡宏次	《行商 下駄の齒入れ屋(東京)》 《行商 玄米パン屋 愛宕下にて(東京)》 《銀座の人達(東京銀座シリーズ)》 《柳の若葉(東京銀座シリーズ)》 《午後の銀座裏(東京銀座シリーズ)》 《銀座ダンスホール(東京銀座シリーズ)》 《朝の丸の内(東京丸の内シリーズ)》 《東京駅前(東京丸の内シリーズ)》 《ラッシュアワー(東京丸の内シリーズ)》 《雪の柳橋 人力車(東京隅田川シリーズ)》 《終戦後の天皇、皇后両陛下》
	八木 治	《空の戦士》
	日本工房による『NIPPON』他のためのコンタクトプリント	《日独伊防共協定成立(「戦時風景(ニュース関係)」ファイルより)》 《組閣誕生まで(「戦時風景(ニュース関係)」ファイルより)》 《原節子(「芸能」ファイルより)》 《崔承喜(「芸能」ファイルより)》 《李香蘭/東宝撮影所(「芸能」ファイルより)》 《戦闘機(「戦時風景(陸海軍)」ファイルより)》 《予科航空士官学校(「戦時風景(陸海軍)」ファイルより)》 藤本四八撮影《看護士(「満州」ファイルより)》 《出征式(「戦時風景(ニュース関係)」ファイルより)》 《毒ガスマスク製造工場(「工業」ファイルより)》
	(逐次刊行物)	『NIPPON』第13号(復刻版)(美術情報センター所蔵) 土門拳 撮影「ガールズ・アンド・グライダーズ」 『NIPPON』第14号(復刻版)(美術情報センター所蔵) 『NIPPON』第18号(復刻版)(美術情報センター所蔵) 『NIPPON』第19号(復刻版)(美術情報センター所蔵) 『NIPPON』第29号(復刻版)(美術情報センター所蔵) 『アサヒグラフ』1147号 1946年3月25日刊(美術情報センター所蔵)

展覧会等名称・展示会場・会期	作家名	作品・資料名*・収蔵作品番号**
	(逐次刊行物)	『アサヒグラフ』1148号 1946年4月5日刊(美術情報センター所蔵)
		『アサヒグラフ』1153号 1946年5月25日刊(美術情報センター所蔵)
		土門拳撮影「連作 こども 一浅草の子ー」『フォトアート』1955年1月号(美術情報センター所蔵)
		常盤とよ子撮影「ヨコハマの特殊女性」『フォトアート』1956年9月号(美術情報センター所蔵)
		中平卓馬撮影「過激で愛嬌ある表現行為(本物)と(ニセ物)を相手どる美術家・赤瀬川原平」『アサヒグラフ』1970年3月20日2410号(美術情報センター所蔵)
		中平卓馬撮影「梱包する男 クリスト」『アサヒグラフ』1970年6月5日2423号(美術情報センター所蔵)
「イサム・ノグチー彫刻から身体・庭へー」 東京オペラシティ アートギャラリー 平成30年7月14日(土)- 9月24日(月休)	イサム・ノグチ	《死すべき運命》 《チャイニーズ・スリーヴ》 《下方へ引く力》 《マイアストラ、ブランクーシへのオマージュ》
秋季特別展「没後10年 片岡球子 情熱の日本画」 井原市立 田中美術館 平成30年9月14日(金)-11月4日(日)	片岡球子	《富士》(82-JP-002) 《浮世絵師 歌川国貞》 《面構 浮世絵師鈴木春信と博物学者平賀源内》 《面構 浮世絵師喜多川歌麿と版元鳶屋重三郎》 《面構 浮世絵師鳥居清長と版元榮壽堂主人西村屋与八》
「1968年 激動の時代の芸術」 千葉市美術館 平成30年9月19日(水)-11月11日(日) 北九州市立美術館 分館 平成30年12月1日(土)-平成31年1 月27日(日) 静岡県立美術館 平成31年2月10日(日)-3月24日(日)	浜口タカシ	《成田区役所前機動隊と激突(「成田闘争」より)》 ※千葉展 《三里塚農民(「成田闘争」より)》※北九州展 《成田区役所広場での集会、逃げる農民・学生(「成田闘争」より)》※静岡展 《毛沢東思想万歳の旗を掲げる学生(「大学紛争」より)》※千葉展 《東大の象徴だった安田講堂の内部は惨たんたる風景(「大学紛争」より)》※北九州展 《機動隊に火炎ビンを投げつけ抵抗(「大学紛争」より)》※静岡展
「小倉遊亀展」 平塚市美術館 平成30年10月6日(土)-11月18日(日)	小倉遊亀	《良夜》
「イサム・ノグチと岡本太郎ー越境者たちの日本ー」 川崎市岡本太郎美術館 平成30年10月6日(土)-平成31年1月 14日(月祝)	ハンス(ジャン)・アルプ	《瓶と巻き髭》 《成長》
「没後50年 藤田嗣治展」 京都国立近代美術館 平成30年10月19日(金)-12月16日(日)	藤田嗣治	《腕を上げた裸婦》
「泉鏡花生誕145年記念 清方描く、鏡花の世界」 鎌倉市鏡木清方記念美術館 平成30年10月20日(土)-11月 25日(日)	鏡木清方	《遊女》
「生誕135年 石井林響展 -千葉に出づる風雲児-」 千葉市美術館 平成30年11月23日(金祝)-平成31年1月14 日(月祝)	石井林響	《寒山拾得図》
「終わりのむこうへ:廃墟の美術史」 渋谷区立松濤美術館 平成30年12月8日(土)-平成31年1月 31日(木)	ジョルジオ・テ・キリコ(工房) ルネ・マグリット	《吟遊詩人》 《青春の泉》

展覧会等名称・展示会場・会期	作家名	作品・資料名*・収蔵作品番号**
「Oh! マツリ☆ゴト 昭和・平成のヒーロー&ピーポー」 兵庫県立美術館 平成31年1月12日(土)-3月17日(日)	柳 幸典	《バンザイ・コーナー》
「クリスチャン・ボルタンスキー—Lifetime」 国立国際美術館 平成31年2月9日(土)-5月6日(月休) ※平成31年度に国立新美術館、長崎県美術館に巡回	クリスチャン・ボルタンスキー	《シヤス高校の祭壇》
「開館20周年記念 -版の美Ⅳ- 創作版画の系譜 青春と実験の季節」 茅ヶ崎市美術館 平成31年2月10日(日)-3月24日(日)	石井 柏亭	《木場》
	戸張 孤雁	《玉乗り》
茅ヶ崎市美術館 平成31年2月10日(日)-3月24日(日)	永瀬 義郎	《風景》
		《花》
	長谷川 潔	《幕の女》
		《をとこ》【『假面』第3巻第9号裏表紙 別刷り】
		《揺らげる葡萄の房と若き日の歌》【『水甕』第1巻第7号表紙 別刷り】
		《高く澄める空とフラジヨレの音》【『假面』第3巻第10号表紙 別刷り】
		《秋のよるこび》【『假面』第3巻第10号扉絵 別刷り】
		《葡萄の房のかがやき》【『假面』第3巻第10号裏表紙 別刷り】
		《習作》【『假面』第3巻第12号裏表紙 別刷り】
		《小景》【『假面』第3巻第12号扉絵 別刷り】
		《少女の首》【『水甕』第1巻第9号裏表紙 別刷り】
		《憂愁(仮題)》
		《女の胸像》
		《風(イェーツの詩に寄す)》
		《金色に躍れる男》【『假面』第4巻第4号表紙 別刷り】
		《風景》【『假面』第4巻第4号裏表紙 別刷り】
		《ダンスA》
	《Drama I》【『水甕』第2巻第2号表紙 別刷り】	
	《Design of Fantastic Bird》【『水甕』第3巻第2号表紙 別刷り】	
	《空想的草花》【『水甕』第3巻第5号裏表紙 別刷り】	
	《牧神の午後(ステファン・マラルメの牧歌)》	
	《柳》	
	《函館港》	
	《海岸の出帆船》	
萬 鉄五郎	《ねて居る人》	
長谷川 潔関連資料		【『聖盃』第1巻第1号(表紙画:石井柏亭)】
		【『聖盃』第2巻第4号(表紙画:西村青帰)】
		【『聖盃』第2巻第6号(表紙画:長谷川潔《浴せる女》)】
		【『假面』第3巻第1号(表紙画:長谷川潔)】
		【『假面』第3巻第6号(表紙画:長谷川潔《仮面を持つてる女》)】
		【『假面』第3巻第9号(表紙画:永瀬義郎《をんな》)】
		【『假面』第4巻第2号(表紙画:永瀬義郎《躍進》)】
		【『假面』第4巻第3号(表紙画:長谷川潔《祈》)】
		【『假面』第4巻第5号(表紙画:永瀬義郎《春》)】
		【『水甕』第1巻第2号(表紙画:長谷川潔《角笛》)】
		【『水甕』第2巻第5号(表紙画:長谷川潔《柳の下に躍れる人》)】

貸出

展覧会等名称・展示会場・会期	作家名	作品・資料名*・収蔵作品番号**
	長谷川潔関連資料	『水麩』第2巻第6号(表紙画:長谷川潔《ある踊りの印象》)
		『水麩』第2巻第7号(表紙画:長谷川潔《模様》)
		『水麩』第2巻第10号(表紙画:長谷川潔《或る女》)
「福沢一郎展 このどうしようもない世界を笑いとばせ」 東京国立近代美術館 平成31年3月12日(火)-5月26日(日)	福沢一郎	《未完成交響楽》
		《メキシコの人物》
「ジョゼフ・コーネル コラージュ&モンタージュ」 DIC川村記念美術館 平成31年3月23日(土)-6月16日(日)	ジョゼフ・コーネル	《無題》
		《ソープ・バブル・セット:コペルニクスの体系》

*会場を限定して貸出した作品・資料については展示会場を補記

**同一作品名が複数ある作品・資料については収蔵品番号を補記

広報の活動、外部と連携した事業

広報

個別の展覧会や事業ごとの宣伝だけでなく、横浜市の芸術拠点としての「横浜美術館」の発信、芸術文化の振興のために、広報を重視し、戦略的に取り組んでいます。

私たちが目指している方向とそのための取組み、さまざまな活動の内容とその成果も含め、横浜美術館を支えていただいている市民やメディアそして社会との信頼と支援の関係性をより強固に形成してゆきたいと考えます。そのために「横浜美術館」としての発信を行うパンフレットや刊行物等を発刊するとともに、さまざまな媒体を活用した迅速かつ計画的なPRに取り組んでいます。

また、横浜美術館を取り巻く社会の構造、また市民の生活行動や芸術文化に対するニーズなども今後大きく変化していきます。それらを分析、把握し、私たちの事業や管理運営活動に反映させ、展開していくことが必要です。マーケティング戦略の再構築をすべく、取り組んでいます。

露出件数

新聞	美術雑誌・一般雑誌・FP	ウェブ	TV・ラジオ	その他	海外	合計
404	711	1,948	73	42	16	3,194

展覧会広報

◎ヌード展

記者会見

日時:3月23日(金) 14:00~14:30

登壇者:エマ・チェンバース(テート学芸員)
逢坂恵理子, 長谷川珠緒

会場:レクチャーホール

参加人数:89人

報道内覧会

日時:3月23日(金) 13:00~14:45

会場:展示室

参加人数:189人(137媒体)

開会式・内覧会

日時:3月23日(金)

15:00~15:20・15:20~18:00

会場:グランドギャラリー・展示室

参加人数:679人(プレス189人含)

◎モネ展

記者会見

日時:7月13日(金) 12:00~12:30

登壇者:逢坂恵理子, 松永真太郎

会場:レクチャーホール

参加人数:110人

報道内覧会

日時:7月13日(金) 11:00~13:00

会場:展示室

参加人数:212人(145媒体)

開会式・内覧会

日時:7月13日(金)

15:00~15:20・15:20~18:00

会場:グランドギャラリー・展示室

参加人数:967人(プレス212人含)

◎駒井展

記者会見

日時:10月12日(金) 14:00~14:30

登壇者:逢坂恵理子, 片多祐子

会場:円形フォーラム

参加人数:35人

報道内覧会

日時:10月12日(金) 13:00~15:00

会場:展示室

参加人数:81人

開会式・内覧会

日時:10月12日(金)

15:00~15:20・15:20~18:00

会場:グランドギャラリー・展示室

参加人数:449人(プレス81人含)

◎ノグチ長谷川展

記者会見

日時:1月11日(金) 12:00~12:30

登壇者:ジェニファー・ローク(ノグチ美術館
[ニューヨーク]副館長)

逢坂恵理子, 中村尚明

会場:レクチャーホール

参加人数:55人

報道内覧会

日時:1月11日(金) 11:00~13:00

会場:展示室

参加人数:109人

開会式・内覧会

日時:1月11日(金)

15:00~15:30・15:30~18:00

会場:グランドギャラリー・展示室

参加人数:402人(プレス104人含)

全館広報

ウェブサイト

アクセス数: 6,302,321pv
(平成31年3月31日現在)

Twitter

フォロワー数: 140,668
(平成31年3月31日現在)

メールニュース

登録者数: 10,004人
(平成31年3月31日現在)
発行数: 定期便23回
臨時便8回+HTMLメール5回

◎記者懇談会

平成31年度企画展紹介と懇談会
日時: 2月26日(火) 14:00~16:00
会場: 8階レセプションルーム
参加人数: 49人

◎首都圏に焦点をあてた広報展開

ヌード展

- ・東京藝術大学大学美術館との相互割引、崎陽軒ウォーカーの割引クーポン掲載(横浜)
- ・海老名市立中央図書館トークイベント「はじめて見る“芸術作品”としてのヌード 横浜美術館企画展『ヌード NUDE—英国テート・コレクションより』」(沼田英子, 藤井聡子)

モネ展

- ・東急線駅構内売店「toks(トークス)」38店舗でのチケット販売、崎陽軒ウォーカーの割引クーポン掲載(横浜)
- ・東京ガス横浜ショールームタイアップ料理教室、半券特典
- ・映画「私は、クロード・モネ」トーク付き上映会(松永真太郎)
- ・海老名市立中央図書館トークイベント「モネそれからの100年 攻略トーク~横浜美術館学芸員と見つける印象派モネの新しさ~」(坂本恭子, 藤井聡子)

駒井展

- ・資生堂の社員割引、崎陽軒ウォーカーの割引クーポン掲載(横浜)
- ・海老名市立中央図書館トークイベント「横浜美術館学芸員から学ぶ『版画芸術の楽しみ方』」(片多祐子, 藤井聡子)

ノグチ長谷川展

- ・読売新聞読者割引、三菱レジデンス居住者割引(横浜)

コレクション展

- ・海老名市立中央図書館トークイベント「美術館の所蔵品を100倍楽しむ方法」(木村絵理子, 藤井聡子)

◎海外メディアへの広報

企画展, コレクション展, NAP, 全展で日英での展覧会プレスリリース作成
海外メディアへの展覧会プレスリリース配信
海外VIPへの展覧会招待状送付



ヌード展 記者会見



モネ展 記者会見



ヌード展 報道内覧会



ノグチ長谷川展 報道内覧会



記者懇談会



海老名市立中央図書館トークイベント

マーケティング

展覧会アンケートに見る来場者プロフィール *回収率=回収数÷総入場者数

	ヌード展	モネ展	駒井展	ノグチ長谷川展
総数	1,842通(*回収率2.0%)	2,826通(*回収率1.0%)	458通(*回収率1.6%)	414通(*回収率1.6%)
来館回数	11回以上	14%	14%	28%
	6~10回	17%	15%	19%
	2~5回	37%	34%	33%
	今回が初めて	28%	34%	21%
	不明	3%	3%	4%
居住地	市内	28%	41%	36%
	市外	69%	48%	58%
	不明	4%	11%	6%
性別	女性	58%	64%	62%
	男性	38%	27%	31%
	不明	4%	8%	7%
年齢	19歳以下	4%	14%	5%
	20代	12%	11%	11%
	30代	9%	8%	13%
	40代	17%	16%	17%
	50代	25%	21%	23%
	60代以上	30%	21%	26%
	年齢不明	4%	9%	7%

展覧会報告会 ヌード展 6月29日(金) モネ展 10月9日(火) 駒井展 1月8日(火) ノグチ長谷川展 5月15日(水)

外部と連携した事業

文化芸術創造都市「横浜」の中心的な施設として、横浜市の都市戦略である創造都市形成や、シティ・セールス、観光プロモーションと連携した事業を展開しています。また、横浜市芸術文化振興財団は、横浜みなとみらいホール、横浜能楽堂、横浜にぎわい座、横浜赤レンガ倉庫1号館などを管理運営しています。それぞれに専門分野がありますが、社会課題への対応や子どもへの取組みなどの共通の課題については、横断的な検討体制により連携して実施します。

都市戦略との連携

◎横浜市が推進するイベント等との連携

クラシック・ヨコハマ

「音遊びワークショップ」

日時:11月24日(土)

10:20~11:20,11:50~12:50,

14:00~15:00

進行役:井上勢津(音楽療法士)

高田由利子(音楽療法士)

会場:8階レセプションルーム,展示室

主催:クラシック・ヨコハマ推進委員会,横浜市

参加人数:29人,31人,39人

専門館連携

横浜赤レンガ倉庫1号館連携

ヌード展パフォーマンスプロジェクト

「談ス/NUDE」

日時:4月5日(木) 17:30~20:00

会場:企画展展示室,グランドギャラリー

出演:大植真太郎,森山未来,平原慎太郎

参加人数:287人

横浜みなとみらいホール連携

●「オルガン1ドルプラス 横浜美術館で音楽会

手回しオルガン オルガネット演奏」

日時:5月30日(水) 13:40~14:00

会場:グランドギャラリー

出演:坂本日菜(オルガネット)

参加人数:250人

●「横浜美術館で音楽会~モノとドビュッシー二人の印象派に出逢う~」

日時:9月7日(金) 18:20~20:00

会場:レクチャーホール,グランドギャラリー

出演:三船優子(ピアノ)

フィリップ・エメール(パフォーマンス)

松永真太郎(レクチャー)

参加人数:199人

●「音楽と舞踏の小品集 水 空気 光『モノそれからの100年』によせて」

日時:8月30日(木) 13:30~,19:00

会場:横浜みなとみらいホール

出演:福間光太郎,齊藤一也,門脇大樹

崎谷直人,中村恩恵,首藤康之

折原美樹,米沢 唯,中島瑞生

渡邊拓朗

参加人数:マチネ(13:30)756人

ソワレ(19:00)671人



音遊びワークショップ



横浜美術館で音楽会



談ス/NUDE ©matoron



インポートSUV&クロスオーバーフェア



オートカラーアワード2018



エコ教室

外部との連携

第32回イメージフォーラム・フェスティバル2018

映像表現の最先端を紹介する国内最大級の映像アートの祭典。当館所蔵の映像資料を含む国内外のフィルムアートを上映。

日時：9月15日(土) - 17日(月祝)

会場：レクチャーホール

参加人数：54人, 90人, 69人

インポートSUV&クロスオーバーフェア 2018

日時：10月20日(土) 10:00~17:00

21日(日) 10:00~16:00

会場：横浜美術館正面広場(新型車両展示)

バス駐車場(試乗車)

主催：SUVフェア2018実行委員会

参加人数：17,000人

明治美術学会例会

日時：11月3日(土祝) 13:00~17:30

会場：レクチャーホール

参加人数：35人

放送大学神奈川学習センター面接授業

日時：11月14日(水) 10:00~11:30

会場：レクチャーホール

参加人数：46人

オートカラーアワード2018

日時：12月7日(金) 13:00~17:30

8日(土) 10:00~16:00

会場：横浜美術館前広場(車両展示)

レクチャーホール(公開プレゼンテーション)

主催：一般社団法人日本流行色協会

オートカラーアワード2018実行委員会

公益財団法人横浜市芸術文化振興財団

参加人数：920人

神奈川県ライトセンター

造形ワークショップ(粘土等)

日時：3月16日(土) 10:00~13:00

会場：子どものアトリエ

対象：視覚障害幼児・小中学生と家族

参加人数：28人

特別鑑賞会

大日本印刷特別鑑賞会

日時：4月19日(木) 14:00~20:00

会場：ヌード展展示室

参加人数：197人

読売新聞特別内覧会

日時：5月17日(木) 10:00~18:00

会場：グランドギャラリー, ヌード展展示室

参加人数：2,508人

Nicole Motor Cars 特別鑑賞会&

レセプション

日時：12月13日(木) 16:00~19:00

会場：グランドギャラリー, 駒井展展示室

参加人数：70人

野村総研特別鑑賞会

日時：2月22日(金)

会場：レクチャーホール, ノグチ長谷川展展示室

コレクション展展示室

参加人数：379人

Heart to Art(企業向け芸術支援プログラム)

Heart to Artは、企業からの支援により美術の普及活動や市民へのサービスを充実させるプログラムです。企業と美術館がそれぞれのノウハウを活かすことにより幅広い展開を目指しています。

参加企業：9社 NTTテクノクロス株式会社/千代田化工建設株式会社/横浜信用金庫

株式会社アドバンス・メディア/Nicole MotorCars/Nicole Competizione

株式会社ニコン/株式会社ニコンイメージングジャパン/日産自動車株式会社

来館者へのおもてなし

ビジターサービス

さまざまな方に向けたサービスとして、引き続き企画展観覧料の障がい者割引を実施しました。また、展覧会へのご理解を気軽に深めていただけるよう、個人や団体向けの鑑賞レクチャーを開催しました。エントランスホールであるグランドギャラリーにおいて、季節感のある空間演出を行っています。

団体向け鑑賞前レクチャー

日時：各企画展・コレクション展会期中
全46団体
会場：美術館内各所
参加人数：1,687人

近隣アートプログラム

●MARK ISみなとみらい店長会等

日時：(各火曜) [12回] 4月10日, 5月8日,
6月12日, 7月10日, 8月14日, 9月11日,
10月9日, 11月13日, 12月11日, 1月8日,
2月12日, 3月12日
会場：レクチャーホール
参加人数：計1,326人

●MMcc(Minato Mirai community club)

ヌード展
日時：6月8日(金) 18:30~20:30
参加費：1,500円
参加団体数：9団体
参加人数：54人

モネ展

日時：9月14日(金) 18:30~20:30
参加費：1,400円
参加団体数：14団体
参加人数：132人

モネ展 特別優待(300円引き)
利用数：407件

夜間開館

日時：(各金曜) 5月11日, 6月8日, 8月10日・
17日・24日・31日, 9月14日
9月15日(土)・21日(金)・22日(土),
11月23日(金祝), 3月2日(土)
各18:00~20:30
参加人数：6,624人

パンフレット等整備

グランドギャラリーの演出

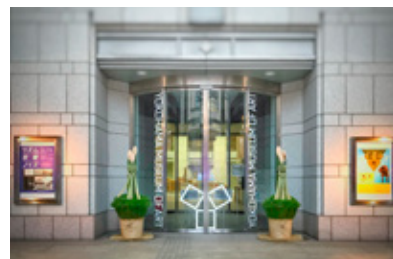
生花装飾
12月26日(水)~1月7日(月) 門松
1月4日(金)~19日(土) 正月装花

ボルティコ 窓のイルミネーション

11月9日(金)~2月20日(水)



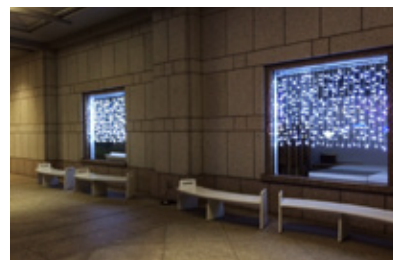
MMCC



門松



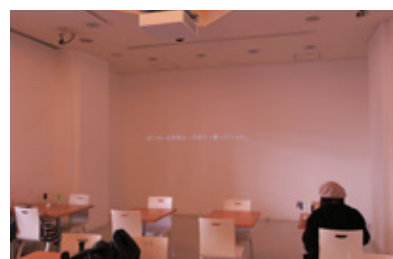
正月装花



Café イルミネーション



レインボーココア



Café 小倉山 特別展示

ミュージアムショップとカフェ

◎ミュージアムショップ

横浜美術館のコレクションをデザインしたオリジナルグッズや企画関連グッズをはじめ、過去の展覧会図録や、美術に親しむための書籍類、ポストカードやステーションナリーなどの身近な商品から、お客様向けの絵本など、約1,000種の商品を取り揃えています。

営業時間：11:00～18:00

(ヌード展、9月14日(金)・15日(土) 及び駒井展、ノグチ長谷川展の夜間開館日は20:30まで営業)

オリジナルグッズ

横浜美術館開館30周年記念による「ワイン」と「お菓子」の2種を制作(3月)。

オンラインショップ

300点以上の商品を掲載。特設カテゴリーとして企画展ごとのほか、「母の日」(5月)、「クリスマスギフト」(12月)、「バレンタイン」(2月)を開設。

◎Café小倉山

展覧会の余韻を感じながらくつろげるスペースで飲み物や軽食を提供しています。

営業時間：10:45～18:00

(ヌード展、9月14日(金)・15日(土) 及び駒井展、ノグチ長谷川展の夜間開館日は20:30まで営業) ラストオーダーは閉店の30分前

カフェ: コレクションを利用したオリジナルメニューと企画展ごとのメニュー

展覧会限定メニュー

●ヌード展

ローストビーフサンド
ヌード展オリジナルミルクティー

●モネ展

きのことグリルチキンのフランスコッペ
睡蓮フロート

●駒井展

煌めくアップルパイ バニラアイス添え
モノクロバニラカフェモカ

●ノグチ長谷川展

和風てりたまベーグルサンド クラムチャウ
ダー付き

●コレクション展

レインボーココア

期間限定メニュー

春: いちごと白玉の桜パフェ
いちごのスムージー
クリスマス: クリスマスプレート2018
西区キャンドルアート限定:
ひこにゃんバナナラテ
にしまろちゃんパンケーキ
ラテ&パンケーキセット

国際的な交流・発信

来館者（肩書きは来館・視察当時）

Gunnar B. Kvaran
Astrup Fearnley Museet 館長
展覧会視察と表敬訪問
5月9日(水)

Jason James
大和日英基金事務局長
展覧会視察と表敬訪問
9月18日(火)

ラクス・メディア・コレクティヴ
(ジーベツシュ・バグチ、モニカ・ナルラ、シュッ
ダプラタ・セングプタ)
インド
「ヨコハマトリエンナーレ2020」アーティスト
ティック・ディレクター就任にあたり、視察と
調査
10月15日(月)・16日(火)

ラクス・メディア・コレクティヴ
(ジーベツシュ・バグチ、モニカ・ナルラ)
インド
「ヨコハマトリエンナーレ2020」アーティスト
ティック・ディレクターとして打合せと調査
2月20日(水)・26日(火)

海外出張

逢坂恵理子
インド
IBA(国際ビエンナーレ協会)の理事会・総会
の出席及びコチ＝ムジリス・ビエンナーレ視
察
12月14日(金)～18日(火)

沼田英子
フランス
令和元年度企画展「オランジュリー美術館コ
レクション ルノワールとパリに恋した12人
の画家たち」展のためのオランジュリー美術
館視察、打合せ
10月28日(日)～11月1日(木)

アメリカ
令和2年度企画展調査及びヒアリング
8月1日(水)～5日(日)

帆足亜紀
カナダ
IEO 定例会議出席
4月17日(火)～22日(日)

韓国
光州ビエンナーレ、ソウル・メディアシティ・
ビエンナーレ、大邱写真ビエンナーレ、釜山
ビエンナーレ視察
9月5日(水)～11日(火)

インド
IBA(国際ビエンナーレ協会)の理事会・総会
の出席及びコチ＝ムジリス・ビエンナーレ視
察並びに、ヨコハマトリエンナーレ2020の
打ち合わせ
12月14日(金)～20日(木)

端山聡子
台湾
台湾の美術館における、学校と美術館の関係
についての視察およびヒアリング調査
2月24日(日)～28日(木)

松永真太郎
アメリカ
令和2年度企画展調査及びヒアリング
8月1日(水)～5日(日)

木村絵理子
大韓民国
大邱写真ビエンナーレ写真コンペ審査員、な
らびに大邱美術館主催の写真シンポジウム
へパネリストとして登壇、国際巡回展ヒア
リング調査、ソウル・メディアシティ・ビエン
ナーレ、釜山ビエンナーレ、光州ビエンナーレ視察
9月6日(木)～13日(木)

オーストラリア
クイーンズランド州立美術館にて「アジア・パ
シフィック・アート・トリエンナーレ(APT9)」
内覧会とシンポジウムへの出席
11月22日(木)～27日(火)

カナダ(オタワ)
「昭和の肖像展」海外巡回の準備
3月6日(水)～9日(土)

片多祐子
フランス
令和元年度企画展「オランジュリー美術館コ
レクション ルノワールとパリに恋した12人
の画家たち」展のためのオランジュリー美術
館視察、打合せ
10月28日(日)～11月1日(木)

日比野民蓉
アメリカ
ナショナル・ギャラリー・オブ・アート(ワシ
ントン) クーリエ業務
7月8日(日)～13日(金)

講座

美術館と国際展をめぐる連続講座

●第1回「美術館という箱はオルタナティブな劇場になりうるか？」

日時：2月10日(日) 13:30～15:30

登壇：岡田利規(演劇作家／小説家／チェル
フィッチュ主宰)

聞き手：木村絵理子

会場：円形フォーラム

参加人数：99人

●第2回「国際展をキュレーションすること」

*日英逐次通訳有

日時：2月20日(水) 19:00～21:00

登壇：ジーベシュ・バグチ, モニカ・ナルラ
(ラクス・メディア・コレクティブ／ヨコ
ハマトリエンナーレ2020アーティスト
ティック・ディレクター)

会場：レクチャーホール

参加人数：210人

●第3回「美術館という建築物と展覧会の関係」

日時：3月2日(土) 13:30～15:30

登壇：藤原徹平(フジワラテツペイアーキテ
クツラボ主宰／横浜国立大学大学院
Y-GSA 准教授)

金氏徹平(美術家／京都市立芸術大
学彫刻専攻専任講師)

会場：円形フォーラム

参加人数：100人

資料

入館者数・収支

◎入館者数

経年推移

平成元年度	1,127,386人	平成11年度	792,905人	平成21年度	540,047人
平成2年度	990,818人	平成12年度	1,082,553人	平成22年度	1,408,713人
平成3年度	555,276人	平成13年度	862,895人	平成23年度	459,716人
平成4年度	541,465人	平成14年度	372,395人	平成24年度	662,159人
平成5年度	1,327,380人	平成15年度	780,928人	平成25年度	1,058,689人
平成6年度	528,995人	平成16年度	331,873人	平成26年度	529,748人
平成7年度	989,037人	平成17年度	1,527,694人	平成27年度	533,750人
平成8年度	344,239人	平成18年度	341,657人	平成28年度	584,725人
平成9年度	942,509人	平成19年度	413,410人	平成29年度	451,228人
平成10年度	278,954人	平成20年度	770,310人	平成30年度	964,192人

(平成31年3月31日現在)

平成30年度事業別

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
企画展	27,088	31,387	30,339	50,870	104,635	104,870	5,929	14,099	8,270	5,251	10,299	9,388	402,425
コレクション展	28,632	31,274	32,267	51,945	107,162	106,721	7,615	16,375	9,232	7,897	12,571	11,537	423,228
New Artist Picks展	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5,379	24,989	30,368
美術情報センター	3,896	4,603	5,451	3,181	4,325	4,068	2,164	2,227	1,851	2,019	3,588	7,784	45,157
鑑賞サポート	603	550	247	572	829	862	211	172	100	188	853	797	5,984
子どものアトリエ	1,793	2,125	2,444	2,237	1,856	1,957	2,093	2,879	1,175	1,897	1,861	1,573	23,890
市民のアトリエ	113	596	740	666	246	625	659	1,030	600	464	685	571	6,995
市民協働、地域社会や市民生活に貢献する事業	126	242	279	369	318	328	381	380	254	225	235	284	3,421
広報の活動、外部と連携した事業	377	275	211	420	648	851	149	532	172	195	749	323	4,902
その他	2,039	465	1,175	1,409	2,091	1,575	1,495	2,022	2,140	1,094	1,089	1,228	17,822
合計	64,667	71,517	73,153	111,669	222,110	221,857	20,696	39,716	23,794	19,230	37,309	58,474	964,192

◎収支

収入

指定管理料	759,971,000
利用料金収入	81,566,004
自主事業収入	365,578,979
雑入	74,672,106
合計	1,281,788,089

支出

人件費	361,008,264
事務費	11,979,020
事業費	452,414,630
管理費	211,783,798
公租公課	30,488,105
事務経費	148,626,527
合計	1,216,300,344

役員等・組織図

公益財団法人横浜市芸術文化振興財団役員

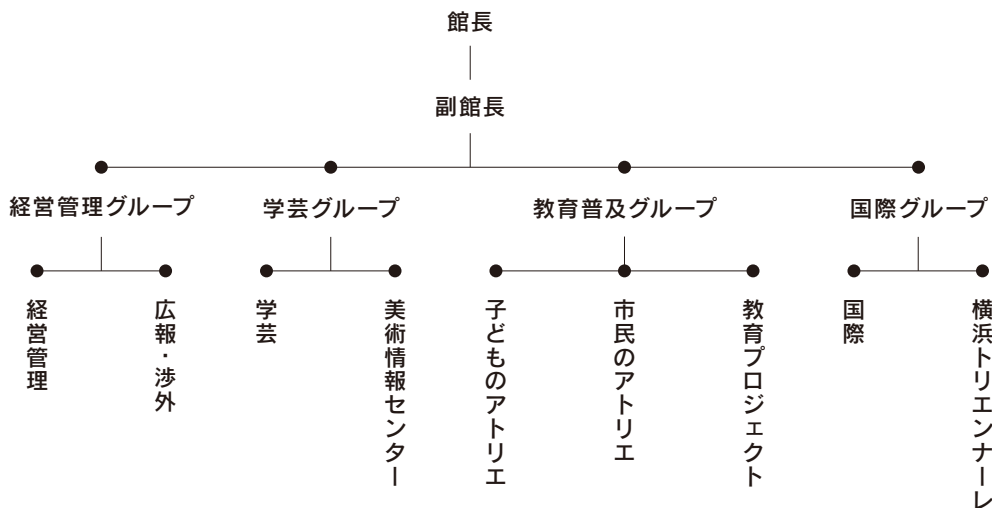
理事長	近藤誠一	元文化庁長官(代表理事)
専務理事	恵良隆二	(代表理事)
理事	日比野政芳	事務局長(業務執行理事)
	藤崎信裕	経営企画室長 兼 横浜みなとみらいホール総支配人(業務執行理事)
	逢坂恵理子	横浜美術館 館長(業務執行理事)
	中村雅之	横浜能楽堂 館長(業務執行理事)
	近澤弘明	株式会社近沢レース店 代表取締役社長
	富岡順一	元国際交流基金 事業開発戦略室長
	久野敦子	公益財団法人セゾン文化財団常務理事 兼 プログラム・ディレクター
監事	齋藤貴司	税理士/ペイ・タックス税理士法人 代表社員
	柴田悟一	元横浜商科大学学長/横浜市立大学 名誉教授

公益財団法人横浜市芸術文化振興財団評議員

秋岡 陽	フェリス女学院大学 学長
池戸淳子	横浜市文化観光局 局長
石原 勉	日本放送協会横浜放送局 局長
上野 孝	横浜商工会議所 会頭/上野トランステック株式会社 代表取締役会長兼社長
柏崎 誠	横浜市信用保証協会 会長
中村行宏	株式会社テレビ神奈川 代表取締役社長
並木裕之	株式会社神奈川新聞社 代表取締役社長

(平成31年3月31日現在)

横浜美術館組織図



職員名簿

館長			逢坂恵理子		
副館長			五十嵐誠一		
副館長・首席学芸員			柏木智雄		
経営管理グループ	経営管理	経営管理グループ長	古賀美弥子		
		チームリーダー	吉川由紀子		
		担当リーダー	佐藤正美		
		施設担当リーダー	迫田利則		
			足立陽子		
			奥津絵里		
			小屋有紀子		
			佐久間ちづる		
			田邊昌子		
			永田麻子		
			普川由貴子		
		広報・渉外		チームリーダー	水谷英智
				担当リーダー	襟川文恵
				担当リーダー	藤井聡子
					一色あずさ
	梅澤のど佳				
学芸グループ	学芸	学芸グループ長・首席学芸員	沼田英子		
		美術情報センター担当グループ長 主任司書／主任学芸員	八柳サエ		
		チームリーダー・主任学芸員	内山淳子		
		チームリーダー・主任学芸員	中村尚明		
		チームリーダー・主任学芸員	松永真太郎		
		担当リーダー・主任学芸員	木村絵理子		
		担当リーダー・コーディネーター	庄司尚子		
		学芸員	江口みなみ		
		学芸員	大澤紗蓉子		
		学芸員	片多祐子		
		学芸員	金井真悠子		
		学芸員	坂本恭子		
		学芸員	長谷川珠緒		
		学芸員	日比野民蓉		
		レジストラ	相原佳奈子		
			大沢知二		
		美術情報センター		司書	長谷川菜穂
				司書	菱村宏子
		教育普及グループ		教育普及グループ長・首席エデュケーター 首席エデュケーター	山崎 優
				チームリーダー・主任エデュケーター	関 淳一
子どものアトリエ	創作・造形エデュケーター			柳川文秀	
	創作・造形エデュケーター			大岩久美	
市民のアトリエ	チームリーダー・主任エデュケーター			高德早矢香	
	担当リーダー・主任エデュケーター			木下真博	
	創作・造形エデュケーター			櫻庭瑠実	
教育プロジェクト	チームリーダー・主任エデュケーター／主任学芸員			佐藤琢巳	
	鑑賞教育エデュケーター・学芸員			端山聡子	
	鑑賞教育エデュケーター・学芸員			太田雅子	
国際グループ	国際	国際グループ長・学芸グループ長(兼務)	森 未祈		
		チームリーダー	帆足亜紀		
			福岡綾子		
			高橋伸佳		
		小山内幸恵			

52名(平成31年3月31日現在)

*同職名の場合は、五十音順

条例・施行規則

横浜美術館条例

昭和63年9月24日
条例第44号

横浜美術館条例をここに公布する。
横浜美術館条例

(設置)

第1条 美術文化の振興と市民の美術に関する学習、創作活動等に寄与するため、横浜美術館(以下「美術館」という。)を横浜市西区に設置する。
(平元条例39・平10条例25・一部改正)

(事業)

第2条 美術館は、次の事業を行う。
(1) 美術品及び美術に関する資料(以下「美術品等」という。)の保管、調査研究、展示及び利用に関すること。
(2) 美術に関する情報の収集及び提供に関すること。
(3) 美術に関する調査及び研究に関すること。
(4) 美術に関する市民の創作活動等の指導及び助言に関すること。
(5) 美術に関する講演会、講習会、講座等の開催に関すること。
(6) 前各号の事業のための施設及び設備の提供に関すること。
(7) その他美術館の設置の目的を達成するために必要な事業

(施設)

第3条 前条に掲げる事業を行うため、美術館に次の施設を置く。
(1) 常設展示室、美術情報室、美術図書室及びグランドギャラリー
(2) 企画展示室、アトリエ及びレクチャーホール
(3) 駐車場
(平23条例23・一部改正)

(開館時間等)

第4条 美術館の開館時間及び休館日は、規則で定める。

(指定管理者の指定等)

第5条 次に掲げる美術館の管理に関する業務は、地方自治法(昭和22年法律第67号)第244条の2第3項の規定により、指定管理者(同項に規定する指定管理者をいう。以下同じ。)に行わせるものとする。
(1) 美術館の施設の利用の許可等に関すること。
(2) 特別利用(第9条第1項に規定する特別利用をいう。)の許可等に関すること。
(3) 第2条に規定する事業の実施に関すること。
(4) 美術館の施設及び設備の維持管理に関すること。
(5) その他市長が定める業務
2 指定管理者は、横浜市の文化芸術の振興及び普及に関する施策の方針を理解し、美術に関する高度な専門的知識を有するとともに、美術品等の保管、調査研究及び展示、美術に関する講座等の開催その他美術文化の振興を図るための事業を自ら企画し、及び実施し、並びに市民による美術に関する学習、創作活動等に対する支援を行うものでなければならない。
3 指定管理者の指定を受けようとするものは、事業計画書その他規則で定める書類を市長に提出しなければならない。
4 市長は、前項の規定により提出された書類を審査し、かつ、実績等を考慮して、美術館の設置の目的を最も効果的に達成できると認められたものを指定管理者として指定する。
5 市長は、指定管理者の候補者を選定しようとするときは、特別の事情があると認める場合を除き、第15条第1項に規定する横浜美術館指定管理者選定評価委員会(以下「選定評価委員会」という。)の意見を聴かななければならない。
(平17条例69・追加、平23条例48・一部改正)

(指定管理者の指定等の公告)

第6条 市長は、指定管理者の指定をしたとき、及びその指定を取り消したときは、遅滞なく、その旨を公告しなければならない。
(平17条例69・追加)

(管理の業務の評価)

第7条 指定管理者は、市長が特別の事情があると認める場合を除き、その指定の期間において、第5条第1項各号に掲げる美術館の管理に関する業務について、選定評価委員会の評価を受けなければならない。
(平23条例48・追加)

(利用の許可)

第8条 第3条第2号に掲げる施設を利用しようとする者は、指定管理者の許可を受けなければならない。
2 指定管理者は、前項の許可に美術館の管理上必要な条件を付けることができる。
3 指定管理者は、美術館の施設の利用が次のいずれかに該当する場合は、利用を許可しないものとする。
(1) 美術館における秩序を乱し、又は公益を害するおそれがあるとき。
(2) 美術館の設置の目的に反するとき。
(3) 美術館の管理上支障があるとき。
(4) その他指定管理者が必要と認めたとき。
4 第1項の許可の手續について必要な事項は、規則で定める。
(平10条例17・一部改正、平17条例69・旧第5条線下・一部改正、平23条例48・旧第7条線下)

(美術品等の特別利用の許可)

第9条 美術館に保管され、又は展示されている美術品等について、学術研究等のため、撮影、模写、模造、熟覧等(以下「特別利用」という。)をしようとする者は、指定管理者の許可を受けなければならない。
2 指定管理者は、前項の許可に美術品等の保全上及び美術館の管理上必要な条件を付けることができる。
3 指定管理者は、特別利用が次のいずれかに該当する場合は、特別利用を許可しないものとする。
(1) 美術品等の保全上支障があるとき。
(2) 美術館の管理上支障があるとき。
(3) 美術館における秩序を乱し、又は公益を害するおそれがあるとき。
(4) その他指定管理者が必要と認めたとき。
4 第1項の許可の手續について必要な事項は、規則で定める。
(平17条例69・旧第6条線下・一部改正、平23条例48・旧第8条線下)

(利用料金)

第10条 常設展示室において、展示されている美術品等を観覧しようとする者は、指定管理者に対し、その利用に係る料金(以下「利用料金」という。)を支払わなければならない。
2 美術情報室において、美術情報機器を利用しようとする者は、指定管理者に対し、利用料金を支払わなければならない。
3 レクチャーホールの利用について、第8条第1項の規定による許可を受けた者は、指定管理者に対し、利用料金を支払わなければならない。
4 特別利用について、前条第1項の規定による許可を受けた者は、指定管理者に対し、利用料金を支払わなければならない。
5 駐車場を利用する者は、指定管理者に対し、利用料金を支払わなければならない。
6 第1項の利用料金にあつては別表第1に定める額の範囲内において、第2項の利用料金にあつては別表第2に定める額の範囲内において、第3項の利用料金にあつては別表第3に定める額の範囲内において、第4項の利用料金にあつては1点につき1回又は1日ごとに3,000円の範囲内において、前項の利用料金にあつては別表第4に定める額の範

園内において、指定管理者が市長の承認を得て定めるものとする。

7 第1項から第4項までの利用料金は、前納とする。ただし、必要があると認められる場合又は規則で定める場合は、指定管理者は、後納とすることができる。

8 第5項の利用料金は、後納とする。
(平10条例17・全改、平17条例69・旧第7条線下・一部改正、平23条例23・一部改正、平23条例48・旧第9条線下・一部改正)

(利用料金の減免)

第11条 指定管理者は、必要があると認められる場合又は規則で定める場合は、利用料金の全部又は一部を免除することができる。
(平10条例17・全改、平17条例69・旧第8条線下・一部改正、平23条例48・旧第10条線下)

(利用料金の不返還)

第12条 既納の利用料金は、返還しない。ただし、必要があると認められる場合又は規則で定める場合は、指定管理者は、その全部又は一部を返還することができる。
(平10条例17・全改、平17条例69・旧第9条線下・一部改正、平23条例48・旧第11条線下)

(許可の取消し等)

第13条 指定管理者は、第8条第1項及び第9条第1項の規定により許可を受けた者が次のいずれかに該当する場合は、当該許可を取り消し、又は施設の利用若しくは特別利用を制限し、若しくは停止させることができる。
(1) 第8条第3項各号又は第9条第3項各号のいずれかに該当するに至ったとき。
(2) この条例若しくはこの条例に基づく規則の規定又はこれらに基づく指定管理者の処分に違反したとき。
(3) この条例に基づく許可の条件に違反したとき。
(平10条例17・一部改正、平17条例69・旧第10条線下・一部改正、平23条例48・旧第12条線下・一部改正)

(入館の制限)

第14条 指定管理者は、美術館の入館者が次のいずれかに該当する場合は、入館を拒み、又は退館を命ずることができる。
(1) 他の入館者に迷惑をかけ、又は迷惑をかけるおそれがあるとき。
(2) その他美術館の管理上支障があるとき。
(平17条例69・旧第11条線下・一部改正、平23条例48・旧第13条線下)

(横浜美術館指定管理者選定評価委員会)

第15条 指定管理者の候補者の選定、指定管理者による美術館の管理の業務に係る評価等について調査審議するため、横浜美術館指定管理者選定評価委員会を置く。
2 選定評価委員会は、市長が任命する委員10人以内をもって組織する。
3 前項に定めるもののほか、選定評価委員会の組織及び運営に関し必要な事項は、市長が定める。
(平23条例48・追加)

(委任)

第16条 この条例に定めるもののほか、この条例の施行に関し必要な事項は、規則で定める。
(平17条例69・旧第13条線下、平23条例48・旧第14条線下)

附則

この条例は、規則で定める日から施行する。
(平成元年10月規則第96号により同年11月3日から施行)
附則(平成元年9月条例第39号)

この条例は、横浜美術館条例の施行の日から施行する。

附則(平成10年3月条例第17号)抄

(施行期日)

1 この条例は、平成10年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 この条例の施行の際既にこの条例による改正前のそれぞれの条例の規定に基づき施設の使用の申請を行っている者に係る当該施設の料金の納付等に関し必要な事項は、市長又は教育委員会が定める。

附則(平成13年2月条例第7号)

この条例は、平成13年4月1日から施行する。

附則(平成14年2月条例第5号)抄

この条例は、平成14年4月1日から施行する。

附則(平成17年6月条例第69号)

(施行期日)

1 この条例は、公布の日から施行する。

(経過措置)

2 この条例の施行の際現にこの条例による改正前の横浜美術館条例第12条の規定によりその管理に関する事務を委託している横浜美術館については、地方自治法の一部を改正する法律(平成15年法律第81号)附則第2条に規定する日までの間は、なお従前の例による。

附則(平成19年2月条例第6号)

この条例は、平成19年4月1日から施行する。

附則(平成23年3月条例第23号)

この条例は、平成23年4月1日から施行する。

附則(平成23年12月条例第48号)

(施行期日)

1 この条例は、平成24年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 この条例の施行の際現にこの条例による改正前のそれぞれの条例の規定に基づき公の施設の管理に関する業務を行っている指定管理者が、その指定の期間においてこの条例の施行の日前までにこの条例による改正後のそれぞれの条例の規定による当該業務についての評価に相当する評価を受けている場合にあっては、当該期間においては当該業務についての評価に係るこれらの規定は適用しない。

附則(平成28年2月条例第4号)

この条例は、平成28年4月1日から施行する。

条例・施行規則

別表第1(第10条第6項)

(平10条例17・平13条例7・平17条例69・平19条例6・平23条例23・平23条例48・平28条例4・一部改正)

区分	単位	利用料金	
		個人	団体(20人以上)
一般		500円	400円
大学生・高校生	1人1回につき	300円	240円
中学生・小学生		100円	80円

(備考)

- 1 「一般」とは、「大学生・高校生」、「中学生・小学生」及び小学校(義務教育学校の前期課程、特別支援学校の小学部及びこれらに準ずるものを含む。)に就学するまでの者以外の者をいう。
- 2 「大学生・高校生」とは、大学、短期大学、高等専門学校、高等学校、中等教育学校の後期課程、特別支援学校の高等部、専修学校若しくは各種学校に在学する学生若しくは生徒又はこれらに準ずる者をいう。
- 3 「中学生・小学生」とは、中学校、中等教育学校の前期課程、義務教育学校、小学校若しくは特別支援学校の中学部若しくは小学部に在学する生徒若しくは児童又はこれらに準ずる者をいう。
- 4 小学校(義務教育学校の前期課程、特別支援学校の小学部及びこれらに準ずるものを含む。)に就学するまでの者は、無料とする。

別表第2(第10条第6項)

(平10条例17・平17条例69・平23条例23・平23条例48・一部改正)

区分	単位	利用料金
ビデオ学習システムブース		100円
名画鑑賞システムブース	1回につき	100円

別表第3(第10条第6項)

(平10条例17・全改、平17条例69・平23条例23・平23条例48・一部改正)

区分	単位	利用料金	
		平日	日曜日、土曜日及び休日
レクチャーホール	1日につき	20,000円	24,000円
附帯設備	1式、1台又は1枚、1日につき	150,000円	

(備考)

- 1 「1日」とは、午前10時から午後9時までをいう。
- 2 「平日」とは日曜日、土曜日及び休日以外の日をいい、「休日」とは国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)第3条に規定する休日をいう。
- 3 レクチャーホール及び附帯設備の利用が、午前10時から午後9時までの時間以外の時間(以下「時間外」という。)にわたった場合の当該時間外に係る利用料金の額は、時間外における利用1時間につき、レクチャーホール及び利用する当該附帯設備の1日の利用料金の額にそれぞれ8分の1を乗じて得た額を合算して得た額とする。この場合において、時間外における利用時間が1時間未満のとき、又はこれに1時間未満の端数があるときは、その時間又は端数時間を1時間として計算する。

別表第4(第10条第6項)

(平23条例23・追加、平23条例48・一部改正)

区分	単位	利用料金
大型車	1台、30分につき	500円
その他のもの	1台、1時間30分まで	500円
	利用時間が1時間30分を超えるときは、超過時間30分までごとに250円を加算する。	

横浜美術館条例施行規則

平成元年10月25日
規則第97号

横浜美術館条例施行規則をここに公布する。
横浜美術館条例施行規則

(趣旨)

第1条 この規則は、横浜美術館条例(昭和63年9月横浜市条例第44号。以下「条例」という。)の施行に関し必要な事項を定めるものとする。

(開館時間)

第2条 横浜美術館(以下「美術館」という。)の開館時間は、次のとおりとする。

- (1) 常設展示室、美術情報室、美術図書室、グランドギャラリー、企画展示室及びアトリエ 午前10時から午後6時まで
- (2) レクチャーホール 午前10時から午後9時まで
- (3) 駐車場 午前10時から午後9時まで(大型車にあっては、午前10時から午後6時まで)

2 市長は、前項の規定にかかわらず、特に必要があると認める場合は、開館時間を変更することができる。
(平23規則22・一部改正)

(休館日)

第3条 美術館の休館日は、次のとおりとする。

- (1) 木曜日。ただし、その日が、国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)第3条に規定する休日(以下「休日」という。)に当たるときはその翌日とし、当該翌日が休日に当たるときは日曜日、土曜日及び休日のいずれにも当たらない直近の日とする。
- (2) 1月1日から1月3日まで及び12月29日から12月31日まで

2 市長は、前項の規定にかかわらず、特に必要があると認める場合は、休館日に開館し、又は休館日以外の日に開館しないことができる。
(平14規則32・一部改正)

(指定申請書の提出等)

第4条 指定管理者の指定を受けようとするものは、指定申請書(第1号様式)を市長に提出しなければならない。

2 前項の申請書には、条例第5条第3項に規定する事業計画書及び次に掲げる書類を添付しなければならない。

- (1) 定款、寄附行為、規約その他これらに類する書類
- (2) 法人にあっては、当該法人の登記事項証明書
- (3) 前項の申請書を提出する日の属する事業年度の収支予算書及び事業計画書並びに前事業年度及び前々事業年度の収支計算書及び事業報告書
- (4) 美術館の管理に関する業務の収支予算書
- (5) その他市長が必要と認める書類

(平17規則89・追加、平19規則47・一部改正)

(施設の利用許可申請等)

第5条 条例第8条第1項の規定により美術館の施設の利用の許可を受けようとする者は、利用許可申請書(第2号様式)を指定管理者に提出しなければならない。

2 指定管理者は、企画展示室及びアトリエについては、指定管理者と共催して美術館の設置目的に合致する事業を行うため当該施設を利用しようとする団体に対し、利用を許可するものとする。
(平10規則42・平14規則32・一部改正、平17規則89・旧第4条線下・一部改正、平24規則16・一部改正)

(申請の受付)

第6条 前条第1項の申請の受付は利用日の3箇月前の日の属する月の初日から行うものとし、受付時間は午前10時から午後5時までとする。ただし、

指定管理者が主催し、又は共催して利用する場合は、この限りでない。
(平10規則42・平14規則32・一部改正、平17規則89・旧第5条線下・一部改正)

(特別利用の許可申請)

第7条 条例第9条第1項の規定により特別利用の許可を受けようとする者は、特別利用許可申請書(第3号様式)を指定管理者に提出しなければならない。
(平10規則42・一部改正、平17規則89・旧第6条線下・一部改正、平24規則16・一部改正)

(申請の受付)

第8条 前条の申請は特別利用をしようとする日の7日前までに行わなければならないものとし、受付時間は午前10時から午後5時までとする。
(平10規則42・一部改正、平17規則89・旧第7条線下)

(観覧券の発行)

第9条 指定管理者は、常設展示室において展示されている美術品及び美術に関する資料を観覧しようとする者に対し、観覧券を発行するものとする。この場合において、観覧券の発行は、閉館時間の30分前まで行うものとする。

2 前項に規定する観覧券は、利用料金と引換えに交付する。
(平10規則42・平14規則32・一部改正、平17規則89・旧第8条線下・一部改正)

(美術情報機器の利用)

第10条 条例第10条第2項に規定する美術情報機器を利用しようとする者は、美術情報機器に備付けの料金受入機により利用料金を納付しなければならない。
(平10規則42・一部改正、平17規則89・旧第9条線下・一部改正、平24規則16・一部改正)

(利用料金の後納)

第11条 条例第10条第7項ただし書に規定する規則で定める場合は、国又は地方公共団体が利用する場合とする。
(平10規則42・旧第11条線下・一部改正、平17規則89・旧第10条線下・一部改正、平23規則22・平24規則16・一部改正)

(利用料金の減免)

第12条 条例第11条に規定する規則で定める場合は次の各号に掲げるとおりとし、免除する利用料金の額は当該各号に定めるとおりとする。この場合において、その額に10円未満の端数があるときは、その端数金額を切り捨てる。

- (1) 教職員に引率された横浜市内の小学校(特別支援学校の小学部を含む。)若しくは中学校(中等教育学校の前期課程及び特別支援学校の中学部を含む。)の児童若しくは生徒又は各種学校の小学校若しくは中学校に相当する課程に在学する者の団体及びそれらの引率者が、教育上の目的から常設展示室において展示されている美術品及び美術に関する資料の観覧(以下「常設展の観覧」という。)をする場合 利用料金の全額
- (2) 土曜日に、小学校(特別支援学校の小学部を含む。)、中学校(中等教育学校の前期課程及び特別支援学校の中学部を含む。)若しくは高等学校(中等教育学校の後期課程及び特別支援学校の高等部を含む。)の児童若しくは生徒、高等専門学校、専修学校若しくは各種学校の小学校、中学校若しくは高等学校に相当する課程に在学する者又はこれらに準ずると認められる者が、常設展の観覧をする場合 利用料金の全額
- (3) 教職員に引率された横浜市内の高等学校(中等教育学校の後期課程及び特別支援学校の高等部を含む。)の生徒又は高等専門学校、

条例・施行規則

専修学校若しくは各種学校の高等学校に相当する課程に在学する者の団体及びそれらの引率者が教育上の目的から常設展の観覧をする場合 利用料金の半額

- (4) 身体障害者福祉法（昭和24年法律第283号）第15条第4項の規定により身体障害者手帳の交付を受けている者、児童福祉法（昭和22年法律第164号）第12条第1項に規定する児童相談所若しくは知的障害者福祉法（昭和35年法律第37号）第12条第1項に規定する知的障害者更生相談所において知的障害との判定を受けた者又は精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（昭和25年法律第123号）第45条第2項の規定により精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者及びこれらの者の介護者が、常設展の観覧をする場合 利用料金の全額
- (5) 国又は地方公共団体がレクチャーホールを利用する場合 利用料金の全額
- （平7規則45・平8規則20・一部改正、平10規則42・旧第12条線上・一部改正、平11規則28・平13規則36・平17規則31・一部改正、平17規則89・旧第11条線上・一部改正、平19規則47・平24規則16・一部改正）

（利用料金の返還）

第13条 条例第12条ただし書に規定する規則で定める場合は次の各号に掲げるとおりとし、返還する利用料金の額は当該各号に定めるとおりとする。

- (1) 常設展の観覧、美術情報機器及びレクチャーホールの利用並びに美術品及び美術に関する資料の特別利用について、観覧、利用及び特別利用をする者の責めに帰することができない事由によりこれらの行為ができなくなった場合 既納の利用料金の全額
- (2) レクチャーホールの利用の許可を受けた者が利用日の30日前までに利用の許可の取消しを申し出た場合 既納の利用料金の全額
- (3) 特別利用の許可を受けた者が利用日の前日までに特別利用の許可の取消しを申し出た場合 既納の利用料金の全額
- （平10規則42・追加、平17規則89・旧第12条線上・一部改正、平24規則16・一部改正）

（委任）

第14条 この規則の施行に関し必要な事項は、文化観光局長が定める。

（平10規則42・旧第14条線上、平17規則89・旧第13条線上・一部改正、平18規則84・平22規則29・平23規則22・一部改正）

附則

この規則は、平成元年11月3日から施行する。

附則（平成4年9月規則第88号）

この規則は、平成4年9月12日から施行する。

附則（平成6年3月規則第41号）抄

（施行期日）

1 この規則は、平成6年4月1日から施行する。

（経過措置）

3 この規則の施行の際現にこの規則による改正前の（中略）規定により作成されている様式書類は、この規則の施行の日から1年間は、適宜修正の上使用することができる。

附則（平成7年3月規則第45号）

この規則は、平成7年4月1日から施行する。

附則（平成8年3月規則第20号）

この規則は、平成8年4月1日から施行する。

附則（平成10年3月規則第42号）

（施行期日）

1 この規則は、平成10年4月1日から施行する。

（経過措置）

2 この規則による改正後のそれぞれの規則の規定は、この規則の施行の日以後の申請に係る料金の減免及び返還について適用し、同日前の申請に係る料金の減免及び返還については、なお従前の例による。

3 この規則の施行の際現にこの規則による改正前のそれぞれの規則の規定により作成されている様式書類は、なお当分の間、適宜修正の上使用することができる。

4 前2項に定めるもののほか、この規則の施行について必要な事項は、市長が定める。

附則（平成11年3月規則第28号）抄

（施行期日）

1 この規則は、平成11年4月1日から施行する。

附則（平成13年3月規則第36号）抄

（施行期日）

1 この規則は、平成13年4月1日から施行する。

附則（平成14年3月規則第32号）

この規則は、平成14年4月1日から施行する。

附則（平成17年3月規則第31号）

この規則は、平成17年4月1日から施行する。

附則（平成17年6月規則第89号）

この規則は、公布の日から施行する。

附則（平成18年3月規則第84号）抄

（施行期日）

1 この規則は、平成18年4月1日から施行する。

（経過措置）

5 この規則の施行の際現に決裁処理の過程にある事案の処理については、なお従前の例による。

附則（平成19年3月規則第47号）

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

附則（平成22年3月規則第29号）抄

（施行期日）

1 この規則は、平成22年4月1日から施行する。

（経過措置）

6 この規則の施行の際現に決裁処理の過程にある事案の処理については、なお従前の例による。

附則（平成23年3月規則第22号）

この規則は、平成23年4月1日から施行する。ただし、第14条の改正規定は、平成23年5月1日から施行する。

附則（平成24年3月規則第16号）

この規則は、平成24年4月1日から施行する。

附則（平成28年3月規則第23号）

この規則は、平成28年4月1日から施行する。

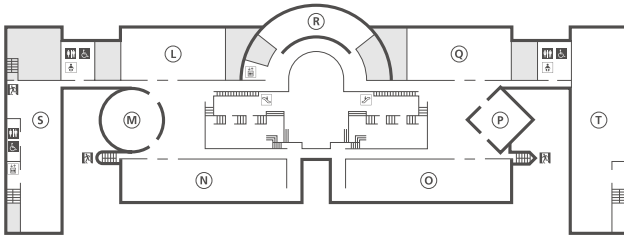
第1号様式（第4条第1項）

（平17規則89・追加、平19規則47・一部改正）

※ 様式省略

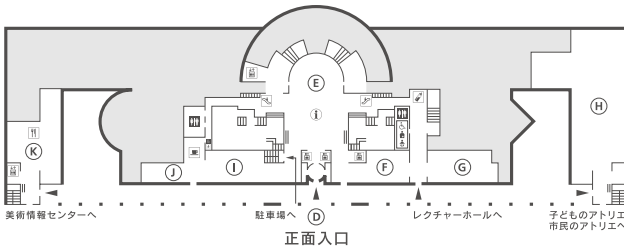
施設概要・利用案内

3F



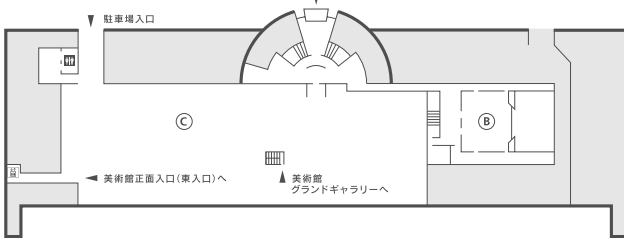
- ①-② 展示室
- ③ 美術情報センター
- ④ 市民のアトリエ

2F



- ⑤ 正面入口
- ⑥ 子どものアトリエ
- ⑦ グランドギャラリー
- ⑧ ミュージアムショップ
- ⑨ アートギャラリー2
- ⑩ カフェ
- ⑪ アートギャラリー1
- ⑫ レストラン

1F



- ⑬ 西入口
- ⑭ レクチャーホール
- ⑮ 駐車場

建築概要

敷地面積 19,803m²
 建築面積 9,621m²
 延床面積 26,829m²
 構造 鉄骨鉄筋コンクリート造8階建(一部3階建)
 外装 花崗岩張り、アルミ成型板張り、軽量コンクリート金ゴテ押さえ、断熱セメントブロック敷込み、金属成型板張り
 内装 岩綿吸音板、プラスターボード、フレキシブルボード、金属成型パネル、花崗岩張り、フローリング板張り
 設計 丹下健三・都市・建築設計研究所
 監理 横浜市建築局、丹下健三・都市・建築設計研究所
 施工 建築工事：JV(竹中工務店、清水建設、奥村組、東急建設、佐藤工業、奈良建設ほか計18社)

休館日

木曜日(祝日を除く)、木曜日に祝日開館した場合はその翌日、年末年始。

開館時間

展覧会：10:00～18:00(入館は17:30まで)
 美術情報センター：10:00～18:00(入室および各種利用受付は17:30まで)
 *次の施設は利用時間が異なります。
 ミュージアムショップ：11:00～18:00
 Café小倉山：10:45～18:00(ラストオーダー17:30)
 駐車場：10:00～21:00/収容台数：169台
 有料(最初の90分500円、以降30分毎に250円)

観覧料

コレクション展：一般	500(400)円
大学・高校生	300(240)円
中学生	100(80)円
小学生以下	無料

企画展： 展覧会ごとに異なる

()内は有料20名以上の団体料金(要事前申込)

交通案内

電車：

みなとみらい線(東急東横線直通)を利用の場合：
 みなとみらい駅下車、3番出口からマークイズみなとみらい(グランドギャラリー)経由、徒歩3分。または(マークイズ連絡口)(10:00～)徒歩5分。
 JR、横浜市営地下鉄を利用の場合：
 桜木町駅下車(動く歩道)を利用、徒歩10分。

車：

桜木町駅から日本丸方面へ入る。または桜木町駅前から紅葉坂交差点を右折してMM21地区へ入り、美術館へ。横浜駅からは高島町MM21地区入口を通って美術館へ。いずれも3～5分(首都高速「みなとみらい出入口」も利用できます)。

平成30年度 横浜美術館年報

令和1年12月27日発行

編集・発行：横浜美術館

〒220-0012 神奈川県横浜市西区みなとみらい3-4-1

TEL:045-221-0300(代) FAX:045-221-0317

<https://yokohama.art.museum>

デザイン：峯石景子

印刷・製本：山陽印刷株式会社

© Yokohama Museum of Art 2019



訂正表

本年報p.77「資料」の内、入館者数に誤りがございましたので、お詫びして訂正いたします。

正しくは、下記の通りとなります。(訂正箇所：青字)

資料

入館者数・収支

◎入館者数

経年推移

平成元年度	1,127,386人	平成11年度	792,905人	平成21年度	540,047人
平成2年度	990,818人	平成12年度	1,082,553人	平成22年度	1,408,713人
平成3年度	555,276人	平成13年度	862,895人	平成23年度	459,716人
平成4年度	541,465人	平成14年度	372,395人	平成24年度	662,159人
平成5年度	1,327,380人	平成15年度	780,928人	平成25年度	1,058,689人
平成6年度	528,995人	平成16年度	331,873人	平成26年度	529,748人
平成7年度	989,037人	平成17年度	1,527,694人	平成27年度	533,750人
平成8年度	344,239人	平成18年度	341,657人	平成28年度	584,725人
平成9年度	942,509人	平成19年度	413,410人	平成29年度	451,228人
平成10年度	278,954人	平成20年度	770,310人	平成30年度	964,028人

(平成31年3月31日現在)

平成30年度事業別

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
企画展	27,088	31,387	30,339	50,870	104,635	104,870	5,929	14,099	8,270	5,251	10,299	9,388	402,425
コレクション展	28,632	31,274	32,267	51,945	107,162	106,721	7,615	16,375	9,232	7,897	12,571	11,537	423,228
New Artist Picks展	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5,379	24,989	30,368
美術情報センター	3,896	4,603	5,451	3,181	4,325	4,068	2,164	2,227	1,851	2,019	3,588	7,784	45,157
鑑賞サポート	603	550	247	572	829	862	201	172	100	188	853	797	5,974
子どものアトリエ	1,793	2,125	2,444	2,237	1,856	1,866	2,093	2,879	1,175	1,897	1,798	1,573	23,736
市民のアトリエ	113	596	740	666	246	625	659	1,030	600	464	685	571	6,995
市民協働、地域社会や市民生活に貢献する事業	126	242	279	369	318	328	381	380	254	225	235	284	3,421
広報の活動、外部と連携した事業	377	275	211	420	648	851	149	532	172	195	749	323	4,902
その他	2,039	465	1,175	1,409	2,091	1,575	1,495	2,022	2,140	1,094	1,089	1,228	17,822
合計	64,667	71,517	73,153	111,669	222,110	221,766	20,686	39,716	23,794	19,230	37,246	58,474	964,028

◎収支

収入

指定管理料	759,971,000
利用料金収入	81,566,004
自主事業収入	365,578,979
雑入	74,672,106
合計	1,281,788,089

支出

人件費	361,008,264
事務費	11,979,020
事業費	452,414,630
管理費	211,783,798
公租公課	30,488,105
事務経費	148,626,527
合計	1,216,300,344